

PARC  
自由学校  
2013

pacific asia resource center freedom school

アジア太平洋資料センター(PARC)



発想を変える  
私たちが変わる  
世界を変える

shuku.



## PARCとは

特定非営利活動法人 アジア太平洋資料センター (PARC: Pacific Asia Resource Center) は、南と北の人びとが対等・平等に生きることのできる社会をつくることをめざして様々な活動に取り組んでいます。

南の国々・人びとの状況や国際的な課題についての情報収集、問題の解決に向けた政策提言活動やキャンペーン、調査研究活動を通じたオルタナティブの提案とともに、雑誌『オルタ』、PARC自由学校、開発教育教材としてのオーディオ・ビジュアル作品、インターネットを通じた情報発信を行なっています。

南と北の人びとが対等・平等に、ともに生きていける関係をつくりだすことと、日本社会が変わることは、別々のことではありません。人びとが国境を越えて出会い、ネットワークを広げ、エンパワーしあっていく、その媒介役となることをPARCはめざしています。



## PARC自由学校とは

私たちが生きている世界のこと、そしてその世界とつながっている日本社会のことを知りたい。

より豊かな暮らし方や、いきいきできる生き方のヒントがほしい。表現するための技術を身につけたい。

そんな人たちが出会い、学びあうのが自由学校です。新しい視点や新しい知識に出会うと、発想が変わります。すると、これまで思っていたのとは違う世界や社会が見えてくるかもしれません。そして、今のようにない社会はどんな社会なのか、どうしたらできるのかを考えたり、もしかしたら動き出したいかもしれません。自由学校はそのきっかけとなる場でありたいと考えています。

**全国自由学校** 札幌・名古屋・京都・福岡に、それぞれの地域に根ざした個性的な自由学校が開講しています。

さっぽろ自由学校「遊」 〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目愛生館ビル207  
TEL:011-252-6752 FAX:011-252-6751  
E-mail:syu@sapporoyu.org <http://sapporoyu.org/>

なごや自由学校 〒488-0801 尾張旭市東大道町原田68 愛知聖ルカセンター気付  
TEL:0561-53-8937 FAX:0561-52-7657  
E-mail:alc.chubu@nssk.org <http://www.nssk.org/chubu/alc/alt.htm>

京都自由学校 〒604-0932 京都市中京区妙満寺前町446 ワカバヤシビル 3F  
TEL&FAX:075-213-2578  
E-mail:office@kyoto-fs.org <http://www.kyoto-fs.org/>

PP21 ふくおか自由学校 〒815-0037 福岡市南区玉川町1-16 鍼灸えんあん内  
TEL&FAX:092-562-3979 E-mail:ohyamayairochou@yahoo.co.jp  
<http://www8.ocn.ne.jp/~rdtom/ffs/00fj0top.html>

表紙の絵：西 淑

<http://nishishuku.net/>

	クラスNo.	ページ
 <b>ことばの学校</b> language	01 キムの英語で社会を変えよう!—English for Creating Social Justice .....	4
	02 ジェンスの英語で発信! .....	4
	03 世界のニュースから国際情勢を読み解こう .....	5
	04 武藤一羊の英文精読 .....	5
	05 はじめてのケチュア語—アンデス先住民の歴史と文化を学ぶ .....	6
	06 きほんのビルマ語—変わる社会と人びとの暮らしを学ぶ .....	7
 <b>世界の学校</b> world	07 いのちを支配する多国籍企業にNO! —グローバル化を知るシネマ&トーク .....	8
	08 お金をソーシャルに! .....	10
	09 ビルマとミャンマーのあいだ .....	12
	10 アフリカとわたしたち .....	14
	11 領土・国家・ナショナリズム—誰のための「安全保障」か .....	16
	12 テレビが伝えない世界の真実 デモクラシーを求め、反乱する都市 .....	18
 <b>社会の学校</b> society	13 シェアするライフスタイル—分かち合い社会の可能性 .....	20
	14 現代社会を知るための10のキーワード .....	22
	15 戦後史の死角—隠された証言から未来を探る .....	24
	16 文系アタマで「科学」を考える .....	26
	17 放射能汚染時代を生きる—福島島の「いま」と私たちの選択 .....	28
 <b>連続ゼミ</b> seminar	18 アベノミクスの仮面を剥ぐ!—超初歩からの3大経済学 .....	30
	19 アクティビストのためのソーシャルメディア講座 .....	32
	20 映像を使って授業をつくろう—持続可能な農業、漁業、働き方をテーマに .....	34
 <b>環境・暮らしの学校</b> environment and ways of life	21 本気で縄文人!! .....	36
	22 日本酒で乾杯!—地域と人が醸す豊かな時間 .....	38
	23 コミュニティ・カフェをつくろう!—あなただからできる、あなたらしい場づくり .....	40
	24 まじめに10A (アンペア)!—地球と家計を守る豊かな生活術 .....	42
	25 歩いて知ろう ニッポンの胃袋の裏側—私たちを生かし、殺す、危ないシステム .....	44
	26 東京で農業! .....	46
	27 初めてのオーガニック .....	47
 <b>表現の学校</b> creative activities	28 抵抗の音楽—世界に響く闘いのリズム .....	48
	29 生きることは表現すること—アーティストと学ぶ、アートの歴史と創作のワークショップ .....	50
 <b>お昼の学校</b> afternoon class	A やってみよう! コーヒーアート—楽しくコミュニケーション .....	51
	B コミュニティ・カフェをつくろう!—あなただからできる、あなたらしい場づくり .....	52
 <b>特別講座</b> special class	社会にモノ言うはじめての一步! 活動家—丁あがり .....	54

○国内ツアー .....	2
○海外ツアー .....	3
○飛び出せ! 自由学校クラブ .....	35
○春の自由学校まつり .....	49
○PARC活動紹介 .....	56

# 国内ツアー

## 被災地の人びととつながる旅

出会い、学び、参加する  
石巻市北上町 復興支援ツアー

東日本大震災は東北の各地に巨大な爪痕を残しました。震災から3年目の2013年。少しずつ復興の道を歩んでいますが、被災者の多くはいまも仮設住宅で暮らし、震災前から過疎化、高齢化に苦しむ農漁村の中には復興の道筋が見えない地域も多く、日々さまざまな問題に悩んでいます。例えば、地域のコミュニティ全体で高台移転することができない中で村の連帯をどう残していくか、という課題などです。他方、多くの都市住民がボランティア、支援者として被災地に赴き、被災者のおおらかさ、忍耐強さに励まされてきました。このツアーでは、パルシックが支援してきた北上町の復興の現状を知ると同時に、地域の人々の知恵や文化を学び、自然にふれ、漁村の地域資源とその魅力を再発見します。

■ 2013年6月～12月 ■ 全7回/定員30名 ■ 受講料：52,000円

※旅の回は交通費、宿泊費、食費などが別途かかります。  
※各回の単発受講も可能です。(座学は1回2,500円、旅の回についてはお問い合わせください。)  
※このツアーは特別オープン講座につき、入会金は不要です。

■ 6/1 (土) 13:00～15:00

### コミュニティ復興支援でのパルシックの仕事

井上礼子 (パルシック代表理事)

石巻市北上町は、人口わずか2,100名の漁業を中心とした集落ですが、東日本大震災で204名の死者、94名の行方不明者を出しました。不自由な仮設住宅での生活で、悲しみを胸に、漁業を開始し、農作業をおこなう被災者たちに励まされながら、パルシックが行ってきた活動をお話します。



■ 7/6 (土)～7 (日) 1泊2日 出会いの旅

### 被災した漁村のいま

— 十三浜での被災体験と復興に向けて

北上町十三浜は漁業が盛んな地域ですが、3.11の津波で大切な家族、家や作業場、漁具の一切を失いました。漁業再開へ向けての歩みといま直面している課題について、漁師との交流や高台移転予定地の訪問を通して学び、浜料理など地域の魅力を堪能します。



■ 8/1 (木) 19:00～21:00

### 「復興」

— 東日本大震災の全体像と復興の現状はどうなっているのか

室崎益輝 (兵庫県立大学 特任教授/神戸大学 名誉教授)

巨大災害は、その社会の持っていた歪みを顕在化させる。復興は、その歪みを改革する使命を持つ。本講義はそうした視点から、東日本大震災の本質と復興のあり方を考察する。



※14「現代社会を知るための10のキーワード」クラスと合同

■ 9/14 (土)～15 (日) 1泊2日 参加する旅

### 北上の農家生活を体験し、地元の幸を味わう

北上は海・山・川の幸の宝庫。津波をかぶった大地は、再び野菜や花を育み始めました。「自分の家で食べる野菜は自分で作る」という農家の心意気と、震災後の歩みについて北上のお母さんたちから伺います。「にっこり仮設農園」では農園スタッフの作業を手伝い、郷土料理と一緒に作って交流します。そして宿泊先の追分温泉で一日の疲れを癒しましょう。

■ 10/5 (土) 14:00～16:00

### 北上に見る自然・コミュニティ、そして復興

宮内泰介 (北海道大学 教員/さっぽろ自由学校「遊」共同代表/PARC理事)

北上地区は、どんな歴史をたどってきたところなのか、そしてどんな復興まちづくりを目指しているのか。自然とコミュニティとの関係を中心にお話します。

●主著：『なぜ環境保全はうまくいかないのか』新泉社 2013/『開発と生活戦略の民族誌』新泉社 2011 ●参考文献：『聞き書き 北上川河口地域の人と暮らし 宮城県石巻市北上町に生きる』北海道大学大学院文学研究科 宮内泰介研究室(編) 2007



■ 10/19 (土)～20 (日) 1泊2日 学びの旅

### 地域に残る結の力

— 北上町の人びとの暮らし

北上の住民からは「コミュニティ」という言葉が盛んに出てきます。それは集落の中で互いに見守り合い、助け合い、そして一緒に行事を催す楽しみのことを指していました。年長者に漁村での暮らしや郷土芸能の神楽が復活するまでのお話を聞き、地元で盛んな葎産業の現場や復興商店街を訪問しその知恵や文化を学びます。夜は、追分温泉で毎月一回開かれる「満月コンサート」を堪能します。

■ 12/9 (月) 19:00～21:00

ワークショップ

### コミュニティ復興のためにできること

井上礼子 (パルシック代表理事)

3回の現地ツアーを経て、参加者の皆さんが感じられたこと、発見された北上町の魅力を語り合うなかから、市民として、これからも北上町の被災者たちの生活再建とコミュニティの復興のための課題をみんなで探ってみます。

# 海外ツアー

## 国際協力の現場を訪れる パルシック・ツアー

パルシック (PARC Interpeoples' Cooperation) は、PARCの姉妹団体です。国境を越えて、人と人が協力する「国際協力」活動を行なっています。  
※詳細はp.56をご覧ください。



■ 8月3日～11日

東ティモール アイナロ県

### フェアトレードコーヒー生産者を訪ねる旅

2002年の東ティモール独立時からパルシックが生産支援を行なっている、アイナロ県マウベシ郡のコーヒー農家を訪ねます。実際にコーヒー豆の収穫、加工を手伝い、コーヒー農家のお宅に泊まり、農民と直接触れ合いながら、私たちが飲んでいるコーヒーができるまでをたっぷり知ることのできる、貴重な機会です。フェアトレードのコーヒーができるまでを、一緒に見に行きませんか？



■ 8月18日～25日

スリランカ ジャフナ県・ムライティブ県

### 内戦後：北部帰還漁民を訪ねる旅

2009年、26年間におよぶ内戦の終結を迎えたスリランカ。戦場となった北部州の多くの地域は、少数民族のタミル人が暮らしていた地域で、現在、避難を余儀なくされていた人びとの暮らしの再建が進んでいます。戦前にはスリランカ第2の都市として栄えたジャフナと、戦争末期まで戦場となったムライティブを訪ね、復興に取り組む漁村の人びとと触れ合い、スリランカの戦後復興について考える旅です。



■ 9月1日～7日

マレーシア ペナン州

### 漁民とともにマングローブを植える旅

多様な生き方と豊かな環境が共存できる新しい世界都市ペナン。リゾート地として有名ですが、急速な沿岸の開発や排水による水質汚染が進んでおり、環境保全の重要性が高まっています。地域の人びとと協働してマングローブ植林や河川の汚染監視など、環境保全活動に取り組んでいる小規模漁民グループを訪ね、ペナンの沿岸でマングローブ植林を共に行います。宿泊は、漁村のホームステイ。



■ 12月26日～2014年1月2日

スリランカ マーターラ県

### 美味しい紅茶の故郷を訪ねる旅

「セイロンティー」として世界に親しまれる紅茶の産地スリランカで、紅茶の有機栽培に取り組む小規模農家のグループを訪ねます。独特の甘い香りが特徴の「ルフナ紅茶」の産地デニヤヤ。世界遺産にも登録されるシンハラージャ熱帯雨林のすぐ隣で、堆肥を自ら作り、茶葉を有機で栽培している農民たちがいます。美味しい有機栽培紅茶ができるまでの行程、そこで暮らす人々の生活に触れる旅です。



<b>国内ツアー</b>	お申込み・お問い合わせ	<b>海外ツアー</b>	お申込み・お問い合わせ
アジア太平洋資料センター (PARC) <a href="http://www.parc-jp.org">http://www.parc-jp.org</a> 〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F Tel.03-5209-3455 Fax.03-5209-3453 E-mail.office@parc-jp.org		特定非営利活動法人パルシック (PARCIC) 〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル Tel.03-3253-8990 Fax.03-6206-8906 E-mail.office@parcic.org	

ことばの学校 01

★★ 中上級

# キムの英語で社会を変えよう！

— English for Creating Social Justice

世界のさまざまな地域で貧困や環境汚染、人権侵害などの社会問題が深刻になっています。しかしその一方で、よりよい社会を創るための草の根の取り組みもどんどん広がっています。このクラスでは、インターネットのオルタナティブ・サイトやブログ、ビデオや映像など、多様な英語のコンテンツを読んだり鑑賞することで、インスピレーションを得ながら、みんなで議論します。会話やエッセーを通して、自分の意見や主張をはっきりと伝える力もつけていきましょう。毎回、さまざまなテーマを扱いますが、受講生からのトピックスの提案も大歓迎。皆さんご参加、楽しみにしています！

- 2013年5月～12月 ■ 基本的に隔週火曜日 19:00～21:00
- 全14回/定員15名 ■ 受講料：38,000円

キンバリー・ヒューズ

(フリーライター/翻訳家/大学講師)



David Shankbone

日程	
5月 14,28	9月 17
6月 18,25	10月 1,22
7月 9,23	11月 5,19
8月 6	12月 3,17

ことばの学校 02

★ 初中級

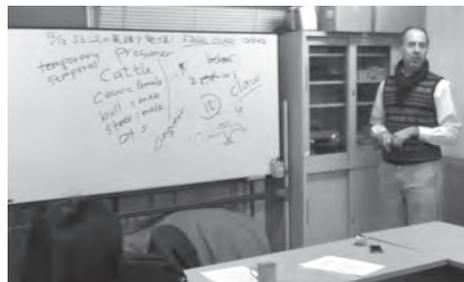
# ジェンスの英語で発信！

自分の意見や思いを英語で発信するチカラを一緒にみがきませんか。このクラスでは、「読む・書く(発信する)・話す」を一連の流れとして、英語を学んでいきます。クラスで議論して決めたテーマで受講生が簡単な文章を書き、その文章についてみんなで議論します。講師は議論の中で、実用的な語彙や文章の書き方、上手な表現のコツなどを伝授。自ら発信するための基礎力づくりを、丁寧にサポートします。扱うテーマは食べ物や日常のニュースから、平和や環境、教育などの社会問題まで。メールやブログ、ホームページなどでの発信もめざします。

- 2013年5月～11月 ■ 隔週木曜日 19:00～21:00
- 全14回/定員15名 ■ 受講料：38,000円

ジェンス・ウィルキンソン

(翻訳家)



2012年度のクラスの様子。クラスでは毎回一つのテーマで短い作文の発表を行い、ジェンスさんがそれぞれの作文やテーマに関連した表現について丁寧にアドバイスします

日程	
5月 16,30	9月 5,19
6月 13,27	10月 3,17,31
7月 11,25	11月 14,28
8月 8	

ことばの学校 03

★★ 中級

# 世界のニュースから国際情勢を読み解こう

インターネットや雑誌、新聞の英文記事を読み、その背景も学びながら日本語で議論するクラスです。開発と貿易、紛争と人権、労働、環境やエネルギー問題など、国際的なトピックから、参加者とともにテーマを選んでいきます。英語の文章を読み解く力、日本語らしく訳す力、そしてあふれる情報を判断する力を身につけると同時に、さまざまなものの見方や考え方に会うことができます。

- 2013年5月～2014年1月 ■ 隔週火曜日 10:30～12:30
- 全15回/定員15名 ■ 受講料：40,000円



井上礼子  
(ハルシク代表理事)



松元千枝  
(ジャーナリスト/活動家)



大屋定晴  
(都留文化大学他 非常勤講師)

日程	
5月 28	10月 1,15,29
6月 11,25	11月 12,26
7月 9,23	12月 10
9月 3,17	1月 7,21

※各講師が4～5回ずつ担当します。

ことばの学校 04

★★★ 上級

# 武藤一羊の英文精読

講師とともに、一冊の本をじっくりと読み込むクラスです。ことばの一つ一つの解釈やそこに込められた作者の思想を読み解きながら、講師と受講生で内容について議論を深めていきます。今年は、汪暉 (Wang Hui) の『革命の終わり—中国と近代の限界』("The End of the Revolution—China and the Limits of Modernity") を読みます。

- 2013年5月～2014年1月 ■ 隔週水曜日 19:00～21:00
- 全15回/定員15名 ■ 受講料：45,000円

武藤一羊

(ピープルズ・プラン研究所 運営委員)



◆テキスト: Wang Hui, "The End of the Revolution—China and the Limits of Modernity" Verso, 2009

※テキストは事前に各自でご購入ください。

今年は中国の第一線の近代思想家、評論家として知られる汪暉 (Wang Hui) の評論集、"The End of the Revolution—China and the Limits of Modernity" を読んでみます。汪暉は日本でも世界でも最もよく知られた中国の批判的知識人の一人。1989年天安門民主化デモを主導した改革思想が、結局アメリカに回収される近代主義であった苦い教訓を噛みしめて、学問世界に戻った一群の知識人の一人でした。図書館に戻った汪暉は、中国思想史にとりくみ、その成果が大著『中国現代思想的興起』に結実しましたが、彼は「象牙の塔」に籠らず、夥しい評論や編集活動をつづけて、今日のネオリベラリズムに対決する立場からの中国近代=中国革命の批判的総括へと歩みを進めました。この本は2009年発行、「非政治化された政治—東から西へ」、「1989年と中国におけるネオリベラリズムのルーツ」など3編7論文からなる論文集。中国がもつばら、台頭する軍事的脅威として演出されている現在、汪暉の洞察と分析によって中国の別の姿を浮かび上がらせたいと思います。

●主著:『潜在的核保有と戦後国家—フクシマ地点からの総括』社会評論社 2011/『アメリカ帝国と戦後日本国家の解体 新日米同盟への抵抗線』社会評論社 2006 ●共訳書: ジャイ・セン他『世界社会フォーラム 帝国への挑戦』作品社 2005

日程	
5月 15,29	
6月 12,26	
7月 10,24	
9月 11,25	
10月 9,23	
11月 6,20	
12月 4,18	
1月 15	

ことばの  
学校

05

# はじめてのケチュア語

## — アンデス先住民の歴史と文化を学ぶ

南米アンデス地域の先住民の言葉で、「ルナ・シミ（人間の言葉）」と呼ばれるケチュア語。今も先住民の暮らしの基礎であり、ペルーやボリビアなどの国ではスペイン語とならぶ公用語にもなっています。このクラスでは、インカ帝国時代から現在まで脈々と語り続けられてきたケチュア語を学ぶことを通して、先住民の労働、食文化、歌や儀礼が持つ豊かな世界にふれていきます。ケチュア語を話す人びとがどんな歴史を経験してきたのか、そして今どんな変化に直面しているのかについても考えてみましょう。

- 2013年5月～12月 ■ 基本的に隔週金曜日 19:00～21:00
- 全13回/定員20名 ■ 受講料：38,000円

※ことばの学習の他に、ケチュア語世界により深く踏み入っていくためにトピックを挙げてお話をうかがいます。

講師 & コーディネーター：若林大我（東京大学/法政大学 非常勤講師）

ペルー南部高地の先住民共同体をフィールドに、アルパカをはじめとする家畜の飼育・利用と、民話や口承、儀礼などに表れる世界観との結びつきをテーマに研究。

●参考文献：友枝啓泰『雄牛とコンドル アンデス社会の儀礼と民話』岩波書店 1986/友枝啓泰・染田秀藤（編）『アンデス文化を学ぶ人のために』世界思想社 1997/山本紀夫（編）『アンデス高地』京都大学学術出版会 2007



5/17

オリエンテーション

### ケチュア語の世界へようこそ

— ケチュア語の背景とケチュア語話者の地理的ひろがりなをながめる

講師：太田昌国（現代企画室/民族問題研究）

先住民言語を学ぶことの意味を、時代思潮の変化の中で捉えてみます。

●主著：『千の日の夜の記憶』現代企画室 1994/『「国家と戦争」異説 戦時体制下の省察』現代企画室 2004 ●参考文献：ドミティエラ・パリオス、モエマ・ヴィーゼル『私にも話させて アンデスの鉱山に生きる人々の物語』現代企画室 1984/ベアトリス・パラシオス『「悪なき大地」への途上にて』編集室インディアス 2008



### 5/31 発音と人称

おはなし：アンデス先住民の親族の呼びかたと家族生活

### 6/14 あいさつ・自己紹介・時間を表わすことば

おはなし：アンデス農村部の人びとの1年

### 6/28 数詞

おはなし：ケチュア語のポピュラーミュージック・ワイノの世界  
— アンデス高地部を中心に

### 7/12 動物・植物・色を表わすことば

おはなし：農村部の食べ物・暮らし

7/20（土）14:00～17:30

映画を観る

### ケチュア語は「近代」の何を暴いたのか

— ボリビア映画を観て知るアンデス現代史

◎上映作品：『コンドルの血』

監督：ホルヘ・サンヒネス/ボリビア/82分/1969年

講師：太田昌国（現代企画室/民族問題研究）

実に面白く、たくさんのお話を語りかける、力強いメッセージ映画です。

●主著：『「拉致」異論 日朝関係をどう考えるか』河出文庫 2008/『テレビに映らない世界を知る方法』現代書館 2013 ●参考文献：太田昌国（編著）『アンデスで先住民の映画を撮る ウカマウの実践40年と日本からの協働20年』現代企画室 2000/『第一の敵 ボリビア・ウカマウ集団シナリオ集』インパクト出版会 1981

9/13

### 簡単な肯定文・天気を表わすことば

9/27

### 簡単な否定文・疑問文

10/11

### 大地と人間を治すアンデスの職能者：クランデーロ

講師：岡本年正（フェリス学院大学 非常勤講師）

アンデスの山や大地への信仰は、特に都市部ではクランデーロ（呪医）を中心に実践されています。彼らの実践からアンデスの人びとの信仰や生活の現代的状況を考えていきます。

●参考文献：実松克義『アンデス・シャーマンとの対話 宗人類学者が見たアンデスの宇宙観』現代書館 2005/細谷広美『アンデスの宗教的世界 ペルーにおける山の神信仰の現在性』明石書店 1997



### 10/25 よく使う接尾辞

### 11/8 純粋ケチュア語に触れる

16世紀末～17世紀初頭に成立したと考えられるワロチリ文書は、ほぼ純粋なケチュア語で書かれた貴重な資料です。また、先住民の貴族の家系出身とされるペルーの年代記作者ワモン・ボマの作品にもふれます。

### 11/22 変わりゆく先住民社会

— 開発、移住、生業の変容

私たちの社会と同様、アンデス先住民の社会も常に変わり続けてきました。現在彼らが直面するさまざまな変化について、具体例を材料に議論してみましょう。

### 12/13 クロージング・パーティ！

アンデスの料理をみんなでつくり味わいましょう。

※材料費が別途かかります。

ことばの  
学校

06

# きほんのビルマ語

## — 変わる社会と人びとの暮らしを学ぶ

国民の多くが民主化を望むなか、苛酷な軍事政権の支配がつづいたビルマ（ミャンマー）は、2011年以降、テインセイン政権のもと、民主化・国民和解の道を歩み始めました。アウンサンスーチーも政治の舞台に登場し、民主化の旗を掲げて日本で活動してきたビルマの人たちは、母国の情勢を注視しています。多くの日本人も、ビルマの変化に関心を寄せており、なかでも経済界は、ビルマ市場の豊かな可能性、資源、良質で安価な労働力に注目し、進出の機会をうかがっています。注目を集めるビルマとは、いったいどんな国なのでしょう。どんな人びとがどんな暮らしを営んでいるのでしょうか。ビルマ語の基礎をかじりつつ、ビルマの世界に歩み入り、激動するビルマの「いま」を感じてみましょう。

- 2013年5月～12月 ■ 基本的に隔週火曜日 19:00～21:00
- 全14回/定員20名 ■ 受講料：40,000円

※出かける回は交通費・食費などが別途かかります。

講師 & コーディネーター：田辺寿夫 ビルマ名：シュエバ Shwe Ba

（ジャーナリスト/ビルマ市民フォーラム運営委員/NPO「さぼーと21」評議員/NHKビルマ語ラジオ番組・ニュース制作）

大阪外国語大学でビルマ語を学び、ヤンゴン大学に留学ののち、NHK国際局ビルマ語班に半世紀にわたって勤務。難民認定の裁判や民主化運動の集会、結婚式やお祭りなど、在日ビルマ人が集うありとあらゆるところで通訳を担い、活動を共にしている。



5/21

### ビルマ語の世界へようこそ

日本語の「あかさたなはまやらわ」にあたる33の文字をじっくりながめてみよう。有気音と無気音は区別され、濁音も入っているから数が多い。字も記号も「まるいをもって美しい」とする、表音でもあり、表意でもある融通無礙のビルマ文字にふれてみよう。

6/4

### 発音と人称

有気音、無気音の区別、三つの声調の使い分けがやっかいである。しかも、語頭、語中、語尾のどこに来るかで、必ずしも規則通りの発音にはならない。これはもう慣れるしかない。できればビルマ人のゲストに来てもらって、ナマのビルマ語に耳を傾けたい。

6/18

### あいさつ・自己紹介

### 7/2 冠称(名前の前につける言葉)と代名詞

### 7/16 ビルマを学ぼう① 家族関係とコミュニティ

### 7/30 食べ物のことば

2011年の東日本大震災直後、ビルマ人たちが被災地まで出向いて避難所でチェッター（鶏肉）・アールー（じゃがいも）・ヒン（カレーあるいはおかず）を作ってふるまったところ大好評だったという。鶏肉のほか牛肉、豚肉、魚などを入れたカレー風の料理を食べることが多い。日本人の口にあうモヒンガー（そうめん風）やオウノウ・カウスエ（ココナッツミルク入りラーメン）など、麺類も豊富である。ああ、パイサーラービー（腹が減ってきた）。



9/3

### ビルマを学ぼう② 文学・音楽を味わう

ビルマの人たちは音楽を愛し、文学好きでもある。なかでも詩には幼い頃から親しむ。誰もが詩のひとつやふたつは毎日のように作る。詩は韻をふんでおり、理解するのはかなりむずかしい。でも短いものに挑戦してみたい。歌も聴いてみよう。

9/17

### 天気を表すことば

10/1

### 簡単な否定文・疑問文

10/22

### ロールプレイングゲーム！

日程調整中

特別企画

📌

### ダディンジュまつりに行ってみよう！

ダディンジュ（燈明祭り）は9月、または10月の満月の日、雨季が明け、雨季のあいだ厳しい修行をした僧侶のもとへ行き、捧げものを差し上げ、法話を聴く。燈明に飾られたバゴダにも詣でる。東京では、在日のビルマの人たちが集まって、歌や踊りを楽しむ。時期が合えば、ビルマの人たちとともに楽しみたい。

11/12

ビルマを学ぼう③

### 変わりゆくビルマ社会の「いま」を学ぶ

いわゆる民主化、国民和解が進みつつある一方で、ロヒンギャ民族弾圧がつづくラカイン州、内戦状況を呈しているカチン州など、少数民族にかかわる問題は解決の兆しが見えない。在日ビルマ人にとっての「帰る」、「帰らない」、「帰れない」の判断も母国の情勢にかかわっている。



写真提供：ビルマ市民フォーラム

11/26

### ビルマ語の総おさらい

この講座でどれだけのビルマ語が話せるようになるか、見当がつかない。カタコトでもいいだろう。文法がめちゃくちゃでもかまわない。コトバは恥をかげばかかほど上達する。ビルマの人を呼んで会話をしてみるのもいいだろう。

12/10

### 料理を食べておしゃべりしよう！

📌

最終回はビルマ料理店で、にぎやかに。高田馬場だけでもビルマ料理、シャン料理、カチン料理などなど、会場候補は目白押しだ。

# いのちを支配する多国籍企業に NO!

## — グローバリゼーションを知るシネマ&トーク

私たちの暮らしの隅々に広がる経済のグローバリゼーション。「それって、いったい何のこと？」というあなた。食べ物、着る物、サービス、情報……と、実は私たちの生活のさまざまな場面にその実態は広がっています。推進しているのは、広告や商品でおなじみの世界でも名だたる多国籍企業たち。利潤を追求し、自由貿易を推進しながら、貧困や格差、環境破壊などの負の影響を起こしつつ肥え太ってきました。「何でも安ければいい」「便利なことはすばらしい」「デフレ歓迎!」と思っていると、多国籍企業の支配はさらに進んでしまいます。このクラスでは、多国籍企業の恐るべき実態を、優れたドキュメンタリー作品を通して学びます。専門家や活動家にたっぷり解説していただき、参加者同士の議論を行ないます。弱肉強食のグローバリゼーションではなく、ともに生きる世界をめざし、知識と知恵と言葉を身につけていきましょう!

- 2013年6月～11月
- 基本的に土曜日 14:00～17:00
- 全8回/定員30名
- 受講料: 30,000円 ※映画上演時間によって終了時間が変わります。

6/15

オリエンテーション

### 多国籍企業の不都合な真実

増田正人 (法政大学 教員)

現代の大企業はみんな多国籍企業です。グローバル経済の中で力を強めている多国籍企業をどう監督し、ルールを守らせていくのか、皆さんと話し合っていきたいと思います。

● 共著: 『21世紀国際社会への招待』有斐閣 2003/『グローバル化・金融危機・地域再生 (21世紀への挑戦2)』日本経済評論社 2011 ● 参考文献: 増田正人「グローバル経済の現状をどう考えるのか」『経済』2012年10月号 新日本出版社/増田正人『国民的最低限保障—貧困と停滞からの脱却』(共著) 大月書店 2010

◎ 上映作品『ザ・コーポレーション』

監督: マーク・アッカー、ジェニファー・アボット / 145分 / 2004年 / カナダ



7/6

### モンサント 種子と生命を支配するアグリビジネスの実態

印鑰智哉 (アクティビスト)

遺伝子組み換え作物商業化からわずか16年。その間に世界の生態系を脅かすまでに至ったそのわけをじっくり分析しよう。そしてその支配を覆すのは、食と職を作る私たち。

● 参考HP: 『Tom's blog Digital Media』http://blog.rederio.jp/ ● 参考文献: バンダナ・シバ『バイオバイラシー—グローバル化による生命と文化の略奪』緑風出版 2002

◎ 上映作品『モンサントの不自然な食べもの』

監督: マリー=モニク・ロバン / 108分 / 2008年 / フランス、カナダ、ドイツ



7/27

### シェブロン 環境汚染と経済植民地化を進める石油開発ビジネス

千代勇一 (上智大学イベロアメリカ研究所 準所属)

キーワードは開発、環境破壊、エネルギー、連帯です。講義では、現地調査で得た情報や経験も交え、さまざまな観点からこのテーマについてお話をします。

● 共著: 『アンデス高地』京都大学学術出版会 2007/『コロンビアを知るための60章』明石書店 2001 ● 参考文献: 新木秀和『エクアドルを知るための60章 (第2版)』明石書店 2012/『ジョー・ケイン』瀧死の森、勇士の槍』新潮文庫 1999

◎ 上映作品『CRUDE—アマゾンの石油流出パニック』

監督: ジョー・バーリンジャー / 105分 / 2009年 / 米国



9/7

### コカコーラ 労働者と労働組合を徹底的にいじめ抜く極悪企業

布施恵輔 (全国労働組合総連合(全労連) 国際局長)

課税逃れ、現地の産業や文化の破壊、そして労働者の搾取・使い捨て。グローバル化のもと多国籍企業は、世界中で安価な労働力と市場を求め跋扈しています。本映画を題材に、多国籍企業の労働者いじめと、それに対するたたかいについて考えます。

● 参考文献: 友寄英隆『「国際競争力」とは何か 賃金・雇用、法人税、TPPを考える』かもがわ出版 2011

◎ 上映作品『コカコーラ・ケース—多国籍企業の犯罪』

監督: カルメン・ガルシア / 86分 / 2009年 / カナダ



9/28

### エビアン、スエズ 水戦争の時代に躍る大企業

佐久間智子 (PARC 代表理事)

あらゆる水問題は、他の環境問題と同様、人間活動によるものです。そして、現在の加害者も未来には被害者です。対岸の火事で終わらせないために何ができるか、考えていきます。

● 主著: 『穀物をめぐる大きな矛盾』筑波書房 2010 ● 訳書: ラジ・パテル『肥満と飢餓—世界フード・ビジネスの不幸のシステム』作品社 2010 ● 参考文献: モード・パロウ『ウォーター・ビジネス—世界の水資源・水道民営化・水処理技術・ボトルウォーターをめぐる壮絶なる戦い』作品社 2008/ 橋本淳司『世界が水を奪い合う日・日本が水を奪われる日』PHP研究所 2009

◎ 上映作品『ブルー・ゴールド—狙われた水の真実』

監督: サム・ボッツ / 90分 / 2008年 / 米国



10/19

### あなたのジーンズは大丈夫? 中国の若い女性労働者の現実

白木朋子 (特定非営利活動法人ACE 事務局長)

グローバリゼーションが引き起こす影の現実を知るとともに、ポジティブな変化を起こすためにわたしたちには何ができるか、一緒に考えていきたいと思います。

● 主著: 『わたし8歳、カカオ畑で働きつけて。児童労働者およびばらばら2億1800万人の子どもたち』合同出版 2007 ● 参考文献: レスリー・T・チャン『現代中国女工哀史』白水社 2010/ 藤井敏彦、海野みづえ『グローバルCSR調達 サプライチェーンマネジメントと企業の社会的責任』日科社連出版 2006

◎ 上映作品『女工哀歌』

監督: ミカ・X・ベレド / 88分 / 2005年 / 米国



11/9

### GE 核兵器に手を染める企業への草の根ボイコットキャンペーン!

塚田晋一郎 (NPO法人ピースデポ 事務局長代行)

私たちの暮らしとは、どこか遠い存在に思える「核兵器」。しかしそこには、「隠された誰かの利益」があります。草の根の市民の視点から考えるきっかけとなれば幸いです。

● 主著: 『イアブック 核軍縮・平和 2012』高文研 (発行: ピースデポ) 2012/ 『オスプレイ配備の危険性』岩波書店『世界』2012年7月号 ● 参考文献: 『核兵器・核実験モニター』第309号 (4-5ページに記事) ピースデポ、2008年 http://www.peacedepot.org/nmtr/bcknmbr/nmtr309.pdf/ ラッシュジャパン「核兵器廃絶キャンペーン」ピースデポが協力 2010 http://www.lushjapan.com/contents/photoalbum/nonukes/index.asp

◎ 上映予定作品『命を脅かす虚偽: GE、核兵器、そして私たちの生活環境』(原題: Deadly Deception: GE, Nuclear Weapons, and our Environment.)

監督: Debra Chasnoff / 29分 / 1991年 / 米国



11/30

### 多国籍企業が私たちの暮らしを支配できると思ったら大間違い!

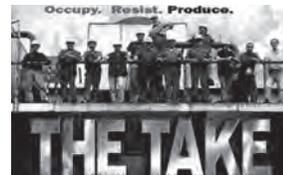
松本 哉 (素人の乱 5号店店主)

どうも最近世の中しめつけられてるね。いやー暗い暗い。ケツ、パーカーパーカ! こうなったら言うこと聞かないもんね、ザマーミロ! …という感じの人は集まるしかない!

● 主著: 『貧乏人の逆襲! タダで生きる方法』筑摩書房 2008/『素人の乱』(二木信と共著) 河出書房新社 2008 ● 参考文献: アビー・ホフマン『この本を盗め』都市出版社 1972/『TOWN WORK』リクルート 毎週月曜日

◎ 上映作品『ザ・テイク (工場占拠)—新しい世界をつくる労働者たち』

監督: ナオミ・クライン&アヴィ・リス / 87分 / 2004年 / カナダ



PARC VIDEO&DVD 国際理解・国際協力、開発教育、環境教育に役立つビデオ……… マスコミが伝えない世界各国の人びとの生の声、社会の姿をお届けします。

▶ **ブラック企業にご用心! ~就活・転職の落とし穴~** (新作 DVD 2013年3月25日発売!)



人間を燃料のように使い潰す社会の闇が、実はあなたのすぐ隣に。ブラック企業。法律を無視して労働者を搾取し、その尊厳を奪う企業のことを指します。2008年に26歳の新人女性社員が自死したワタミ過労自死事件、民間気象予報会社ウエザーニューズ過労自死事件、コンビニエンスストアSHOP99の「名ばかり管理職」事件など、当事者・ご遺族、専門家へのインタビューからブラック企業の実態と、それを生み出す社会構造を明らかにします。就活中、転職を考えている人はもちろん、すべての働く人に自分の身を守る方法を伝えると同時に、ブラック企業をなくすための道筋を探ります。

企画・制作: 特定非営利活動法人 アジア太平洋資料センター (PARC) / 監督: ブラック企業大賞実行委員会 / 監修: 土屋トカチ / 2013年 / DVD / カラー / 35分  
定価: 本体 6,000円 + 税 (図書館価格 本体 16,000円 + 税)  
● 出演: 竹信三恵子 (和光大学教授) / 佐々木亮 (弁護士) / 川村遼平 (NPO 法人 POSSE 事務局長) / 河添誠 (首都圏青年ユニオン書記長 ● 演劇部分出演: 井内ミワク / 古川琢也 / 小川直也)

今年は何の企業に?  
**ブラック企業大賞 2013**  
6月16日 (日) 開催決定!  
2012年から始まった「ブラック企業大賞」。数ある企業の中から、実行委員会が「ミネット」企業を選定、ウェブ投票とも連動して大賞・各賞を発表します。2012年度の大賞は「東京電力」、市民賞は「ワタミ」でした。今年は何の企業が選ばれるのか?  
★ブラック企業大賞実行委員会  
http://blackcorpaward.blog.spot.jp/

特定非営利活動法人 アジア太平洋資料センター (PARC) 〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F TEL:03-5209-3455 FAX:03-5209-3453 E-mail office@parc-jp.org http://www.parc-jp.org/ ※ウェブサイトからお申込みいただけます。

# お金をソーシャルに！

グローバル経済は国境を越えて拡大し、世界中で貧困と格差、環境問題や戦争・紛争が絶えません。「お金があること」が価値あることとされ、貧しい人びとは生きる権利さえ奪われているという状況も少なくありません。私たちは「お金」に縛られ、「お金」のために生きている—そんな時代といえるのかもしれませんが。しかし、「お金」や「経済」とは、本来私たちが安心して幸せに生きていけるための仕組みです。近年、社会的課題を解決しつつ新たなお金の流れを創出するソーシャルファイナンスや、市民出資により実現するプロジェクト、企業の利潤追求を規制する制度づくりなど、さまざまな取り組みが生まれています。このクラスでは、お金を社会的な存在に変えることで、私たちの暮らしと社会を変革していくための理論と実践を学びます。

■ 2013年5月～11月 ■ 基本的に隔週水曜日 19:00～21:00

■ 全11回/定員30名 ■ 受講料：30,000円

※出かける回は交通費・宿泊費・食費などが別途かかります。

## I グローバルにかけめぐるお金の謎

— お金にまつわる「神話」「思い込み」を疑おう

5/29

オリエンテーション&ワークショップ

### グローバル経済と「マネー資本主義」を体験しよう

八木垂紀子 (開発教育協会<DEAR>職員)

楽しいゲームを通して、貿易を中心とした世界経済の基本的な仕組みを理解し、経済のグローバル化が引き起こす課題を体験します。参加者同士でじっくりゲームをふり返り、話し合うことを通して、「おカネ」と「経済」について見つめ直します。

●主著：『もっと話そう！エネルギーと原発のこと 参加型で学ぶための16の方法』DEAR 2012/『時事問題を教室へ グローバル・エクスプレス』各号 DEAR 2003～ ●参考文献：『新・貿易ゲーム 経済のグローバル化を考える』DEAR 2001

## II 私たちを不幸にする「お金」のシステム

6/19

### みんなが幸せになるための「税金」はあるのだろうか？

— 高齢化社会・不安社会における税制を考える

三木義一 (青山学院大学法学部 教授/共栄法律事務所)

日本を自己責任の国にするか、社会連帯の国にするかは、結局、税制と財政のあり方に規定される。減税は基本的に自己責任の国になる方向であることに注意しましょう。

●主著・参考文献：『日本の税金 新版』岩波新書 2012/『よくわかる税法入門 税理士・春香のゼミナール 第7版』有斐閣選書 2013

7/3

### なぜ金融機関は、兵器産業に加担してしまうのか？

— 地雷廃絶日本キャンペーンの取り組みから

目加田説子 (中央大学総合政策学部 教授/地雷廃絶日本キャンペーン 理事)

一見、非日常な問題を、自身の生活に引き付けてとらえる感性を磨きましょう。

●主著・参考文献：『行動する市民が世界を変えた クラスタ爆弾禁止運動とグローバルNGOパワー』毎日新聞社 2009/『国境を超える市民ネットワーク トランスナショナル・シビルソサエティ』東洋経済新報社 2003

7/17

### 原発ムラをかけ巡るマネー

熊本一規 (明治学院大学国際学部 教授)

原発をめぐるお金の流れは、人びとの幸福につながらないお金の流れの代表的な事例です。どういった仕組みで私たちの税金や電気料金が原発に回されているのかをお話します。

●主著・参考文献：『脱原発の経済学』緑風出版 2011/『がれき処理・除染はこれでよいのか』(共著) 緑風出版 2012



## III 世界の思想と事例から学ぶ

7/31

### 現金経済への包摂と暮らしの防衛

— 牛の民の定住化＝農耕民化の1世紀

小馬 徹 (神奈川大学人間科学部 教授)

ケニアの牛牧民キプシギスは、植民地政府によって指定された領土(定住地)を、その後半分奪われ、さらに人頭税・小屋税を通じて現金経済に取り込まれていきました。この間の必死な対抗の試みとその意味を検討します。

●主著：『贈り物と交換の文化人類学 人間はどこから来てどこへ行くのか』御茶の水書房 2000/『カネと人生』(編著) 雄山閣 2002

8/7

### 利子のないイスラーム金融がつくる連帯と共生の視点

糠谷英輝 (広島経済大学経営学科 教授)

利子のない金融として長い間機能してきたイスラーム金融の仕組みやその背景にある思想、そしてそれがどのようにグローバル金融システムのなかで共存しているのかをご紹介します。

●主著：『拡大するイスラーム金融』蒼天社出版 2007 ●参考文献：『世界を席巻するイスラーム金融』かんき出版 2007/『中東マネーとイスラーム金融』同友館 2008

## IV 人びとの金融・人びとのお金を！

— 社会を変えていくためのチャレンジ

9/4

### 100年先にも「社会に必要とされるいい会社」を選んで投資！

— 鎌倉投信の挑戦

鎌田恭幸 (鎌倉投信(株) 代表取締役)

人は生き方において、働き方において、お金の使い方において社会をより善くすることができます。「一人ひとりの意志あるお金が未来を拓く」鎌倉投信が3年間実践してきた金融の在り方をお伝えします。

●主著：『日本でいちばん投資したい会社』アチーブメント出版 2011 ●参考文献：鎌田恭幸『日本でいちばん投資したい会社』アチーブメント出版 2011/『21世紀をつくる人を幸せにする会社』(共著) ディスカヴァー・トゥエンティワン 2012

9/24 (火)

### ソーシャル・ファイナンス革命

— 世界を変える金融の新潮流

土谷和之 (国際青年環境NGO A SEED JAPANエコ貯金プロジェクト/ARUN, LLC. ディレクター)

今SNSを利用して個人からお金を集めて投資する仕組みや、出資者が直接プロジェクト支援に関われる仕組みなど、世界を変える新たな金融の仕組みが各地で創られ始めています。こうした仕組みの意義や今後の発展の方向性などについて、講師が関わるファンドの事例をベースに解説します。

●共編著：『おカネで世界を変える30の方法』合同出版 2007 ●参考ウェブサイト：http://www.arunllc.jp/

10/9

### 企業の行動を変える！

— 「責任投資原則」の普及と企業のCSRを徹底させる取り組み

河口真理子 ((株)大和総研 主席研究員/社会的責任投資フォーラム 代表理事・事務局長)

金融機関がどのように変われば環境問題・社会問題の解決に金融が貢献することができるのか？ 近年進んでいる金融の世界の変革についてお話しします。

●主著：『CSR経営 企業の社会的責任とステイクホルダー』(共著) 中央経済社 2004/『CSR企業価値をどう高めるか』(共著) 日本経済新聞社 2004

10/26 (土)～27 (日) 1泊2日

東海地方を訪ねる

### 地域で実現する「志金循環」

— NPOバンクで活性化する地域を訪ねよう

木村真樹 (コミュニティ・ユース・バンクmomo 代表理事)

志のお金が地域に循環する「志金循環」。その実践を通して地域にどんな変化が実現しているのか？ momoの融資先への訪問を通して、その目で見てください。

●主著：『NPOバンクを活用して起業家になろう！組織作りから資金調達まで』(共著) 昭和堂 2007/『おカネで世界を変える30の方法』(共編) 合同出版 2007



11/6

### おわりに 生命を守るお金の展望

— エコロジー、デモクラシー、脱成長

中野佳裕 (国際基督教大学 助手・研究員)

地域社会の底力を高める観点から、お金の役割を再検討します。

●共著：勝俣誠、マルク・アンバール編『脱成長の道』コモンズ 2011 ●参考文献：セルジュ・ラトゥーシュ『経済成長なき社会発展は可能か？〈脱成長〉と〈ポスト開発〉の経済学』(中野佳裕訳) 作品社 2010 (\*11刷以降) /『消費社会からの脱出(仮)』作品社 2013年4月刊行予定

# ビルマとミャンマーのあいだ

## — 変わる社会とどう向き合うか

長く続いた軍事政権時代から、幾多の試練を越えてようやく本格的に民主化の道をたどろうとしているビルマ（ミャンマー）。新たなビジネスチャンスだとして、日本をはじめ多くの多国籍企業が進出を模索する一方、この国の経てきた歴史、その重みや文化・社会の多様性は、ほとんど知られていません。ねばり強くはぐまれてきた民主化運動の実態や、日本とのかかわり、在日ビルマ人コミュニティの人びとの生きた声などをつうじて、ビルマ（ミャンマー）の課題と現状、可能性を学びます。同時に、私たちはアジアの友人としてビルマという国・ビルマの人びととどうつながりあえるかも考えていきます。

■ 2013年6月～10月 ■ 基本的に隔週火曜日 19:00～21:00

■ 全8回/定員30名 ■ 受講料：25,000円

※出かける回は交通費・食費などが別途かかります。

6/11

### まずはきちんと知ろう！

— ビルマ（ミャンマー）の歴史と基礎知識

根本 敬 (上智大学外国語学部 教授/ビルマ市民フォーラム 運営委員)

「変化」が続くビルマ。でも、表面だけを追っても問題の本質は見えてきません。最初の回では、歴史や文化に関する基礎知識を学びながら、理解を深める準備をします。



●主著：『抵抗と協力のはざま 近代ビルマ史のなかのイギリスと日本』岩波書店 2010/『ビルマ独立への道 パモオ博士とアウンサン将軍』彩流社 2012  
●参考文献：根本敬・田辺寿夫『アウンサンスーチャー 変化するビルマの現状と課題』角川oneテーマ21 2012

6/29 (土) 14:00～17:00

### 抵抗し続けた人びと

— 映像からみた民主化運動

田辺寿夫 ビルマ名：シュエバ Shwe Ba

(ジャーナリスト/ビルマ市民フォーラム 運営委員/NPO「さぼーと21」評議員/NHKビルマ語ラジオ番組・ニュース制作)



ビルマは民主化に向かって歩みはじめた。ここまで来たのは、民主国家、平和な国への国民のあくなき執念と、それを支援したDVBなど国外からのビルマ語メディアの活動があったからである。その歩みをふりかえって、今後への展望をえがきたい。

●主著：『ドキュメント ビルマ民主化運動 1988』梨の木舎 1989/『ビルマ「発展」のなかの人びと』岩波新書 1996 ●参考文献：田辺寿夫『負けるな！在日ビルマ人』梨の木舎 2008/根本敬・田辺寿夫『アウンサンスーチャー 変化するビルマの現状と課題』角川oneテーマ21 2012



政治囚となった人びと  
写真提供：ビルマ市民フォーラム

7/9

### アウンサンスーチャー

#### まなざしの先にあるもの(思想と実践)

根本 敬 (上智大学外国語学部 教授/ビルマ市民フォーラム 運営委員)

報道だけではわからないアウンサンスーチャーの思想と実践を取り上げ、彼女が国民とともにビルマをどのような国に変えたいと考えているのか、しっかり考えます。

7月または9月で調整中

### グローバリゼーションの中のビルマ経済

#### — 発展戦略を考える

工藤年博 (JETRO アジア経済研究所 研究企画部 主任調査研究員)

「知られざる国」から「アジア最後のフロンティア」へ変貌し、世界の企業から熱い視線を送られるミャンマー。ミャンマーの発展は約束されたものなのか。同国の発展戦略と国際社会の関わり方を考える。

●主著：『ミャンマー政治の実像 軍政23年の功罪と新政権のゆくえ』(編著) アジア経済研究所 2012/『ミャンマー経済の実像 なぜ軍政は生き残ったのか』(編著) アジア経済研究所 2008 ●参考文献：尾高煌之助・三重野文晴 著『ミャンマー経済の新しい光』勁草書房 2012

9/10

### 日本のODAはどのように使われたのか

#### — これからの援助のあり方を考える

根本悦子 (NPO法人ブリッジエーシア ジャパン代表/事務局長)

「アジア最後のフロンティア」として注目を浴びるミャンマーで、日本はODAの再開を表明し、次々と開発に着手している。これまでのミャンマーの経験をふまえ、あるべき援助の形を提案する。

●参考文献：新石正弘『アジアに架ける橋 ミャンマーで活躍するNGO』コモンズ 2009/工藤年博編著『ミャンマー政治の実像 軍政23年の功罪と新政権のゆくえ』アジア経済研究所 2012



10/5 (土) 午後

在日ビルマ人コミュニティを訪ねる

### ビルマ料理を味わいながら聞く、 在日ビルマ人の生きる「いま」

チョーチョーソー (ビルマ民主化ネットワーク)

1991年に、政治難民として日本に逃れてきたチョーチョーソーさん。それから20年あまり、母国の民主化を求める活動家として、在日ビルマ人コミュニティの世話役として、力を尽くしてこられました。コミュニティが直面している変化や今後の課題について、率直にお話いただきます。またコミュニティのたまり場でもあるレストラン「Ruby」で、美味しいビルマ料理も堪能しましょう！



10/15

### 日本の難民認定の実情 最前線からの報告

渡辺彰悟 (弁護士/在日ビルマ人難民申請弁護団 事務局長/ビルマ市民フォーラム 事務局長)

日本はかつて難民鎖国といわれ、非常に高いハードルを設けて、難民申請者を拒否してきました。ビルマの民主化が進展していくかにも見えるなか、今後、日本での庇護はどう進み、どう変化していくのか、ビルマ以外の難民申請者の保護の実態や、日本の難民受容れはどうあるべきなのかを語ります。



政治囚となった人びと/独居の再現  
写真提供：ビルマ市民フォーラム



世界三大仏教遺跡のひとつバガン

10/29

### 帰国、憲法改正、教育の立て直し

#### — ビルマと日本の「これから」にどう向き合うか

田辺寿夫 ビルマ名：シュエバ Shwe Ba

(ジャーナリスト/ビルマ市民フォーラム 運営委員/NPO「さぼーと21」評議員/NHKビルマ語ラジオ番組・ニュース制作)

帰ろうか、様子を見ようか、日本に残ろうか、さまざまな思いでいま在日ビルマ人社会は揺れている。帰った場合にせよ、日本に残る場合にせよ、ビルマ人たちが、人権を保障される平和な社会の実現が必要である。そのために何をすればいいのかを考えたい。



難民キャンプの子どもたち  
写真提供：ビルマ市民フォーラム

PARC 自由学校が終わったら・・・

## おいしい料理と お酒で盛り上がりましょう！

自由学校の楽しさは、クラスの中での講義や議論はもちろんですが、終了後に講師や受講生と飲んだり食べたりしながらの交流会もその一つ。ぜひ誘い合って、クラスの外でも大いに盛り上がりましょう！



## 中国料理 王府酒家

単品はもちろん、四川辛々コースや北京ダックコースなど、充実した本格中華がリーズナブルなお値段でたっぷり味わえます。昼間のランチメニューも充実しています。大小宴会から貸切宴会(40～64名様)まで、用途に合わせたお部屋をご用意いたします。



〒101-0063 東京都千代田区神田 淡路町 1-1 神田クレストビル B 1  
E-mail: info@wanfushuka.co.jp  
http://www.wanfushuka.co.jp

◆ご予約は… TEL: 03-3258-9156 E-mail: info@wanfushuka.co.jp

# アフリカとわたしたち

貧困や紛争、戦争、水や食糧などの不足、そして大企業や先進国による資源争奪——。アフリカのさまざまな課題は、いままも深刻であり、その多くは解決の途上にあります。これらの問題に、日本はどのように関わってきたのでしょうか。そのプロセスで、アフリカの人びとの暮らしや考え、本来の豊かな文化に私たちはどれだけ直にふれてきたのでしょうか。このクラスでは、日本と国際社会がアフリカにどう向き合ってきたかを検証するとともに、アフリカと日本のつながりを改めて考え、切り結びます。2013年6月に横浜で開催される「第5回アフリカ開発会議(TICAD)」も一つの機会として、アフリカを学び、日本との関係、そして市民社会を考えましょう。

- 2013年6月～11月
- 基本的に隔週木曜日 19:00～21:00
- 全10回/定員30名
- 受講料：28,000円

6/20

オリエンテーション ◀

## アフリカは貧しいのか？ わたしたちは豊かなのか？

勝俣 誠 (明治学院大学経済学部 教授)

アフリカは植民地期から世界経済の景気変動に合わせて「資源争奪の大陸」となったり、「チャリティの大陸」になったり、外部から一方的に規定されてきました。講義では何よりも、アフリカの人々の自らの尊厳をかけた戦いによる「人々が変わる大陸」の現状分析を試みます。『新・現代アフリカ入門 人々が変わる大陸』をテキストに使用しますので、予習をオススメします。

●主著：『新・現代アフリカ入門 人々が変わる大陸』岩波新書 2013年4月刊予定 ●参考文献：勝俣誠『脱成長の道 分かち合いの社会を創る』(共著)コモンズ 2011



7月

## 検証！ TICAD (アフリカ開発会議)

— 国際社会はアフリカとどんな支援と関係をつくってきたのか

### 講師交渉中

「アフリカ開発会議」(TICAD) は1993年に始まった国際会議で、日本はそこでさまざまな役割を果たしてきたといわれます。2003年6月・横浜でのTICAD後のこの回では、これまでの取り組みはもちろん、会議で何が話され、どんな声があつたのかから出されたのか、また国際社会がアフリカに「関わる」とはどんなことなのか、実際にTICADに関わる専門家からお話をうかがいます。

7/18

## 「援助」はアフリカの人びとを 幸せにできたのか？

— 開発・援助機関と国際社会の支援を検証する

稲場 雅紀 (『動く→動かす』GCAP Japan) 事務局長 / (特活) アフリカ日本協議会 国際保健部門ディレクター)

2000年以降、国際社会の援助潮流は大きく変化し、「貧困削減」を大きく掲げ、援助国・機関による協調も積極的に行われている。「援助」は本当に変わったのか。市民社会の立場から検証する。

●共著：『流儀 アフリカと世界に向かい我が邦の来し方を振り返り今後を考える二つの対話』生活書院 2008/『対テロ戦争』と現代世界』木戸衛一編 お茶の水書房 2006 ●参考文献：『動く→動かす』編『ミレニアム開発目標 世界から貧しさをなくす8つの方法』合同出版(合同ブックレット2) 2012



8/1

## 紛争はなぜ起こるのか、 国際社会はどう向きあってきたのか

— 国家、民族、介入

武内 進一 (日本貿易振興機構(ジェトロ)・アジア経済研究所)

アフリカの紛争は、アフリカと私たちとの関係についてさまざまなことを教えてください。ルワンダやコンゴ民主共和国、マリなどの事例をもとに、アフリカの国家と民族、そして国際社会の介入について考えます。

●主著：『現代アフリカの紛争と国家 ポストコロニアル家産制国家とルワンダ・ジェノサイド』明石書店 2009/『戦争と平和の間—紛争勃発後のアフリカと国際社会』(編著)アジア経済研究所 2008 ●参考文献：『アジア研ワールド・トレンド』2012年10月号(特集：不安定化する「サヘル・アフリカ」)(ウェブにて公開) / 藤原帰一・大芝亮・山田哲也編『平和構築・入門』有斐閣 2011



9/13 (金)

## ソマリア「海賊」対処と ジブチ自衛隊基地設置

— その植民地主義的な性格と「平和主義」の危機

高林 敏之 (日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会 常任理事)

ソマリア「海賊」問題を利用した、国際警察行動の法制化とジブチへの自衛隊基地の設置。「悪」との対決を大義名分に「平和主義」を崩壊させる動きを検証します。

●主著：『トラウマの記憶の社会史 抑圧の歴史を生きた民衆の物語』(共著)明石書店 2007/『ハンドブック 現代アフリカ』(共著)明石書店 2002 ●参考文献：高林敏之「『ソマリア海賊問題』を生み出したもの あるいはアフリカで奏でられる『帝国復活』のファンファーレ」『歴史学研究』第862号 2010年1月



9/26

## コンゴ民主共和国 鉱山開発・土地・資源と暴力

ムケンゲ ジャイ・マタタ (オリエンタリズム研究所 所長)

コンゴ民主共和国は、隣接国の武装勢力による資源強奪など鉱物資源の問題がクローズアップされている。それともなうITとの関連、女性や子ども・高齢者への暴力などの人権問題について考察したい。

●参考文献：米川正子『世界最悪の紛争「コンゴ」 平和以外に何でもある国』創成社 2010  
Alain Deneault, Noir Canada. Pillage, corruption et criminalité en Afrique, ed. écosociété, 2008



10/10

## “アフリカ”の伝えられ方

— 日本における報道

ウィリー・トコ (東京大学大学院 学際情報学府博士課程学際情報学専攻)

先進国のメディアが産み出している「新マザー・テレサやマッカーサーたちは「アフリカ」を救えない。アフリカの人びとが、日本を含む先に「進んだ国」の「いいところ」をしっかりと認識し、消化しない限り、援助などは「牛乳一気飲み逆効果」を起こし続けるに違いない。

●参考文献：石弘之『子どもたちのアフリカ 〈忘れられた大陸〉に希望の懸け橋を』岩波書店 2005/山崎武也『お金の使い方わかる男の器量』PHPエール新書 2002



10/24

## 映像や文化をつうじて学ぶアフリカ 人びとの運動

津山 直子 (NPO法人アフリカ日本協議会 理事/関西大学 客員教授)

アフリカの人びとによる運動、私たちと共通する課題、理解・連帯・協働していくことなどを映像を交えながら一緒に考えていきたいと思います。

●共著：『南アフリカを知るための60章』明石書店 2010/『動く→動かす』編『ミレニアム開発目標 世界から貧しさをなくす8つの方法』合同出版(合同ブックレット2) 2012

※「12. テレビが伝えない世界の真実」クラスと合同



11/7

## 世界最貧国のエチオピア、 豊かだが閉塞する日本

— エシカル・フェアトレードの社会的企業でつなぐ

鮫島 弘子 (andu amet 代表取締役)

andu amet は、羊皮のなかでも世界最高峰であるエチオピアン・シープスキンを使った、エシカル×リユクスなブランドです。皆さんと事業についていろいろなお話をさせていただきたいと思っています。

※エシカル×リユクスとは、倫理的であり、かつぜいたくで優雅な、という意味です。



11/21

## アフリカの人びととつながるために

— 貧困と自立のために、私たちは何を「すべき」でないか

船田 クラーセン さやか (東京外国語大学大学院地域文化研究科 准教授)

私たちとアフリカの人びとのかかわり、連帯を阻むものとは何か。私たちの意識や行動に内面化された「豊かさ」「貧しさ」「援助する側」「される側」という規範を取り除き、ともに考える回路を見出そう。

●主著：『アフリカ入門 ポップカルチャーから政治経済まで』明石書店 2010『モザンビーク解放闘争史 「統一」と「分裂」の起源を求めて』御茶の水書房 2007

※事例として、現在モザンビーク北部農村部で日本とブラジル政府が進めるプロサバナ事業を検討対象とします。事前にブログ (<http://afriqclass.exblog.jp/438>) で資料を読んでおいてください。



# 領土・国家・ナショナリズム

## — 誰のための「安全保障」か

尖閣諸島や竹島/独島を巡る中国・韓国との緊張関係、自民党が掲げる「国防軍の創設」、普天間基地の移設問題——ニュースでよく目にする話題ですが、問題の本質はあまり見えてきません。このクラスでは、国内外の「安全保障」を巡る様々な問題をわかりやすく整理して学んでいきます。「国家」「国民」「領土」とはいったい何を意味するのか、領土問題の平和的解決策、近代日本が歩んだ植民地化と戦争の歴史、歴史認識の違いを越えて隣国の人びとと相互理解を深める取り組み、過剰な基地負担を強いられてきた沖縄の人びとの声、自衛隊の存在意義、そして国を越えて一人ひとりの人間を守るために私たち市民ができることについて、それぞれの分野の専門家や当事者と一緒に考えていきましょう。

- 2013年6月～11月
- 基本的に金曜日 19:00～21:00
- 全8回/定員30名
- 受講料：28,000円

6/21

オリエンテーション

### 国、国家、国民、民族とは何か

#### — 安全保障を考える前に



渡邊 憲正 (関東学院大学経済学部 教授)

安全保障とナショナリズムの問題を理解するうえで基礎となる、近代の「国家」「国民」「民族」、さらには「安全」といった概念が何を意味するのかについて考えます。

- 主著:『イデオロギー論の再構築—マルクスの読解から』青木書店 2001/『格差社会とたたかう—努力・チャンス・自立—論批判』(共著) 青木書店 2007
- 参考文献: ホブズボーム『ナショナリズムの歴史と現在』大月書店 2001/ゲルナー『ネイションとナショナリズム』岩波書店 2000

大屋 定晴 (都留文科大学他 非常勤講師)



日常当たり前のように使われている「日本国」や「日本国民」「日本人」。これらの言葉はそもそも何なのでしょう。クラスの始まりに考えてみます。

- 共訳著: ジャイ・セン他編『世界社会フォーラム 帝国への挑戦』作品社 2005/ウィリアム・フィッシャー他編『もうひとつの世界は可能だ—世界社会フォーラムとグローバル化への民衆のオルタナティブ』日本経済評論社 2003
- 参考文献: デヴィッド・ハーヴェイ『コスモポリタニズム』(仮題) 作品社 2013

7/19

### 「固有の領土」は存在するの？

#### — 日本の国境問題



孫崎 享 (元外務省国際情報局長)

尖閣諸島は日中間で緊張をもたらしています。軍事紛争を回避し、平和的手段で解決する手段を模索します。今一番重要なことは日本国民が歴史的事実をしっかりと把握した上で議論することだと思います。

- 主著:『戦後史の正体:1945-2012』創元社 2012/『検証 尖閣問題』岩波書店 2012
- 参考文献: 孫崎享『不愉快な現実:中国の大国化、米国の戦略転換』講談社 2012/孫崎享『日本人のための戦略的思考入門—日米同盟を超えて』祥伝社新書 2010

※ 15. 「戦後史の死角」クラスと合同

8/9

### 「竹島/独島」

#### — 領土ナショナリズムを克服するために

姜 誠 (ジャーナリスト)

国境を越えた市民の協働を阻む領土ナショナリズムの病理を探り、竹島領有争いの棚上げをもたらした「竹島密約」などを参考に、日韓による竹島の共同管理というアイデアを考えます。

- 主著:『越境人たち 六月の祭り』集英社 2003
- 参考文献: 姜誠『領土ナショナリズムをどう乗り越えるか』『世界』2012年11月号 岩波書店



Dokdo\_Photo by Rachouette

竹島/独島



尖閣諸島

9/6

### 近代日本における国家・植民地主義・領土

#### — もうひとつの歴史的考察

小菅 信子 (山梨学院大学法学部政治行政学 教授)



近代日本の植民地主義を縦軸に、日本赤十字社の展開や海外発展、「満州国赤十字社」をめぐる諸問題を横軸にお話します。

- 主著:『戦後和解—日本は(過去)から解放されるのか』中公新書 2005/『ポピーと桜—日英和解を紡ぎなおす』岩波書店 2008
- 参考文献: 『日本赤十字社と人道援助』(共著) 東京大学出版会 2010/『〈保護標章問題〉についてのノート—政治文化史的視点から』『法学論集—政治行政学創設20周年 記念号』(山梨学院大学法学研究会編) 2011

9/20

### 中国と日本

#### — 歴史認識の違いをどう乗り越えるか

劉 傑 (早稲田大学社会科学総合学術院 教授)



歴史認識をめぐって、日本の高度成長世代と中国の文化大革命世代は噛み合わない。不幸な歴史を乗り越えて、健全で明るい両国関係のために、両国の人びとは何が求められているのか。両国の歴史認識の構造を分析し、和解の道筋を考える。

- 主著:『中国の強国構想: 日清戦争後から現代まで』筑摩書房 2013/『中国人の歴史観』文春新書 1999
- 参考文献: 劉傑、川島真『1945年の歴史認識—「終戦」をめぐる日中対話の試み』(共編著) 東京大学出版会 2009/小林道彦、中西寛『歴史の桎梏を越えて—20世紀日中関係への新視点』(共著) 千倉書房 2010

日程調整中

### 沖縄に基地を押しつけながら、「民主主義」といえますか？

伊波 洋一 (元宜野湾市長)



沖縄の全市町村長と全市町村議会そして沖縄県議会と沖縄県知事が普天間基地の県内移設とオスプレイ配備に反対しても、日本政府が基地を押し付ける日米安保の実態を考える。

- 主著:『普天間基地はあなたの隣にある。だから一緒になくしたい』かもがわ出版 2010/『沖縄とヤマト』対談集 (共著) かもがわ出版 2012
- 参考文献: 伊波洋一『普天間基地はあなたの隣にある。だから一緒になくしたい』かもがわ出版 2010/伊波洋一、柳澤協二『対論 普天間基地はなくせる—日米安保の賛成・反対を超えて』(共著) かもがわ出版 2012

11/15

### 自衛隊は何を守るために存在するのか

半田 滋 (東京新聞 論説編集委員)



東日本大震災で活躍した自衛隊。「人助け」による存在感を高めたはずですが、安倍首相は憲法改正して「国防軍」にするといいます。わたしたちにとって、どんな組織が有意義なのか、一緒に考えましょう。

- 主著:『戦地—派遣—変わる自衛隊』岩波新書 2009/『ドキュメント 防衛融解—指針なき日本の安全保障』旬報社 2010
- 参考文献: 『3.11後の自衛隊—迷走する安全保障政策のゆくえ』岩波ブックレット 2012

日程調整中

### 「人間の安全保障」と市民社会の役割

#### — 紛争・災害・貧困から人びとを守るために

長 有紀枝 (立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科・同社会学部 教授/特定非営利活動法人難民を助ける会 理事長)



「人間の安全保障」概念の基礎を整理した後、紛争、災害、貧困など多様化する脅威から、一人ひとりの人間を守るための方策や、市民社会の役割について考えます。

- 主著:『入門 人間の安全保障 恐怖・欠乏からの自由を求めて』中央公論新社 2012/『スレブレニツァ あるジェノサイドをめぐる考察』東信堂 2009
- 参考文献: 長有紀枝『入門 人間の安全保障 恐怖・欠乏からの自由を求めて』中央公論新社 2012/最上敏樹『人道的介入—正義の武力行使はあるか』岩波新書 2001



食料難で農場となった議事堂 (1946年6月)。安全保障とは単に軍事や外交の問題ではなく、食糧や貧困など人間のいのちに関わる問題でもある

# テレビが伝えない世界の真実 デモクラシーを求め、反乱する都市

2011年のアラブの春以降、世界中のあちこちで起こる民衆の抵抗。各地の政治・経済の状況によってその様相は多様で、ひとくくりにして語ることはできません。しかし、共通しているのは、暴力的な市場経済が世界の隅々に行き渡った結果生じた貧困と格差、そしてそれを許してきた政治の無力、民主主義の形骸化などへの直接的な怒りという点です。日本のマスメディアが決して伝えようとしないうる世界の現実。それは、こうした人びとの生存をかけた抵抗であり、その背後にある構造的な問題です。このクラスでは、同時代に生きる世界の人のびととつながる回路を見出し、私たち自身の生き方・暮らし方をふりかえりながら、「民主主義」の再構築をめざします。

■ 2013年5月～11月 ■ 基本的に木曜日 19:00～21:00  
■ 全8回/定員30名 ■ 受講料：28,000円

5/23

## 民主主義への挑戦は始まっている

— アメリカの「凋落」と  
動きだす人びとのグローバル化

西谷 修 (東京外国語大学大学院 教授)

イラク戦争から10年。米国の軍事・経済的なプレゼンスは当時よりも落ちたといわれます。この間に世界では新自由主義がさらに深化し、それに伴う貧困や格差に対し、また経済の前に無力な政治に対し、人びとは強く抵抗をしています。これらの抵抗運動を覇権国家・米国の動きを座標軸にしながらお話しさせていただきます。

●主著：『テロル』との戦争—9.11以後の世界』以文社 2006/『“経済”を審問する—人間社会は“経済的”なのか?』せりか書房/2011

6月

## 資本主義の「終わりの始まり」

— ギリシャ、イタリアで起きていること

講師 交渉中

EU金融危機は、単なる財政破たん問題ではなく、資本主義そのものの危機といえます。財政赤字、雇用の悪化、底なしの政治不信は、私たちの社会とも共通する状況であり、これに対するギリシャやスペインでの大規模なデモや抗議行動は、成長至上主義へのNO!の声です。また注目されるイタリアの「5つ星党」の動きも民主主義への大きな実験。南欧の運動から学びます。

7/12 (金)

## スペイン15M: 「怒れる者たち」が創る市民運動

工藤 律子 (ジャーナリスト)

経済危機を背景に生まれた「15M(5月15日)」運動。それは、ソーシャルネットワークはもちろん、広場で出会った仲間、地域の隣人同士の新たなつながりを通して、市民が日常から社会を変えていく試みだ。そこに真に民主的な未来へのヒントを探そう。

●主著：『ドン・キホーテの世界をゆく』論創社 2009/『フィリピン・私の家族は国家に殺された—家族を奪われた女性たちの戦い』長崎出版 2010 ●参考文献：『スペイン・「怒れる者たち」が創る市民運動』『世界』2012年8月号 岩波書店/ステファン・エセル『怒れ! 憤れ!』日系BP社 2011

8/8

## 中国 持たざる者たちの反乱と政治権力の関係

— 東アジアという場を視座に

丸川 哲史 (明治大学政経学部 教授)

中国での民衆のデモ行動は、日本とはかなり違ったものです。それはやはり、政治システムの違いとも関係があるわけです。むしろ中国の方が政治権力に「反映」される可能性が高いことを踏まえねばならないように思います。

●主著：『方法としての現代中国』平凡社 近刊/銭理群『毛沢東と中国 ある知識人による中華人民共和国史(上/下)』(共訳) 青土社 2012



9/12

## 反グローバル化運動の震源・ ラテンアメリカでいま起きていること

太田 昌国 (現代企画室/民族問題研究)

グローバル化の荒波による社会的・経済的攪乱を、世界に先駆けて1970年代から経験したからこそ、ラテンアメリカは、反グローバル化の先頭に立つ。その歴史的意味を語り合いたい。

●主著：『テレビに映らない世界を知る方法』現代書館 2013年/『新たなグローバル化の時代を生きて』河合文化教育研究所 2011 ●参考文献：佐野誠『99%のための経済学：教養編』新評論 2012/マルコス『ここは世界の片隅なのか』現代企画室 2002

10/3

## 生存をかけた抵抗は続く

— アラブ世界の叛乱に私たちはどう向き合うか

田原 牧 (東京新聞)

正直に言えば、私は「よりよい未来」なんて信じていない。きっと人類というのはかなり下等な動物で、21世紀にもなったのに自らの寝床を破壊(原発事故)し、共食い(戦争)も辞さない。けれど、先のことはともあれ、いまこの瞬間に自分の尊厳を保とうとする人たちはいる。それはエジプトにも、この国にもいる。生きている間くらい、そうした人たちと気持ちよく過ごしたい。そうした出会いを求めて、お話しさせていただく。

●主著：『中東民衆革命の真実—エジプト現地レポート』集英社新書 2011「ほっとけよ。—自己決定が世界を変える」ユビキタスタジオ 2006 ●参考文献：『不運の行進を続ける—生存の前提としての異議申し立て』『世界』岩波書店 別冊841号



2011年5月15日、経済的不正義を非難する「怒れる者たち」の大規模な抗議行動「15M」は、各地に広がった。2012年5月15日には15Mから1年として再びスペイン各地の80都市で大規模なデモも行なわれた

メキシコ・チアパス州では北米自由貿易協定 (NAFTA) が発効した1994年1月1日、先住民によるサパティスタ運動が一時蜂起。グローバル化による貧困、主権の争奪、大企業による生命支配に反対した。ここが反グローバル化運動の萌芽ともいえる



10/24

## 映像・文化をつうじて学ぶアフリカ 人びとの運動

津山 直子 (NPO法人アフリカ協議会理事/関西大学 客員教授)

アフリカの人びとによる運動、私たちと共通する課題、理解・連帯・協働していくこと、などを映像を交えながら一緒に考えていきたいと思います。

※「10.アフリカとわたしたち」クラスと合同

11/21

## お任せ民主主義から参加型民主主義へ

— 日本の課題

湯浅 誠 (社会運動家)

「海外は運動が活発でいいな〜」では何も変わらない。だからといっていきなりドデカイことができるわけではない。諦めでも夢でもなく、私たちは「私たちの条件」から出発するしかない。では何を? ではどうやって? そんなことを一緒に考えられればと思います。

●主著：『ヒーローを待たなくても世界は変わらない』朝日新聞出版 2012/『反貧困』岩波新書 2008 ●参考文献：薬師院仁志『民主主義という錯覚』PHP 研究所 2008



# シェアするライフスタイル

## — 分かち合い社会の可能性

もし新しい社会があったら……すべての人が共存し、資源や富を分かち合い、安心して暮らせる社会があったら、それはどんな社会でしょうか？ 貧困や格差、自然資源の奪い合い、競争と自己責任の強いられる現代社会からの転換を、「シェアするライフスタイル」をヒントに探してみましょう。ソーシャルメディア、シェアハウスのようにこの数年で注目されてきた「シェア」から、<sup>いりあ</sup>コモンズ〈入会〉、農村における共同性とそれに根ざした文化のように、歴史の中で育まれてきた「分かち合い」まで、さまざまな事例から学びます。自然や文化、人間の知恵などの社会的資本を共有していくことの価値を再発見する楽しい旅です。もう一つの世界をイメージすれば、あなたのライフスタイルも変わっていくはず。まずは私たちの暮らしの中に、シェアする楽しさを取り入れてみましょう。

- 2013年5月～12月
- 基本的に隔週金曜日 19:00～21:00
- 全10回/定員30名
- 受講料：28,000円

5/24

オリエンテーション

### 分かち合う社会

— 「消費」「成長」ではない世界は可能だ！

大江正章 (コモンズ代表/PARC代表理事)

企業に雇われるだけが働き方じゃない。大きな生協だけが協同じゃない。本当の自立とは周囲に頼れる人間がどれだけたくさんいるかです。お金以外の関係性がいちばん大切！



●主著：『地域の力 食・農・まちづくり』岩波新書 2008/『農業という仕事 食と環境を守る』岩波ジュニア新書 2001 ●参考文献：広井良典編著『協同で仕事をおこす 社会を変える生き方・働き方』コモンズ 2011/マーク・ポイル『ぼくはお金を使わずに生きることにした』紀伊國屋書店 2011

6/24 (月)

### さあ、ダウンシフターズへ

— シェアする生き方・働き方って、ユカイ！

高坂 勝 (Organic Bar店主/緑の党共同代表/NPO SOSA Project理事)

いくら収入を上げてても幸せは永遠にこない。システムから降りると、欲しかったものが手に入る!! 競い合いでなく、わかちあいで、である。暮らし方と働き方の転換、いかが？



●主著：『減速して生きる ダウンシフターズ』幻冬舎 2010/『土から平和へ みんなで起こそう農レボリューション』(共著) コモンズ 2009 ●参考文献：荒川龍『自分を生きる働き方 幸せを手作りする6人のワークシフト』学芸出版社 2012

7/5

### 他人と住む日常「シェアハウス」

— わたしたちの暮らし方が変わる

阿部 珠 恵



茂原 奈 央 美



(『シェアハウス わたしたちが他人と住む理由』著者)

近年急増するシェアハウス。その生活ぶりや住人の価値観、さらにはシェアハウスを通じて育つ新しい「暮らし方」まで、自身の経験やインタビューをもとにお話しします。

●主著：『シェアハウス わたしたちが他人と住む理由』辰巳出版 2012



講師のお二人が実際に住んでいるシェアハウス。場が生み出す人との交流。話題は尽きない

7/19

### “もったいない”を“ありがとう”へ

— 「セカンドハーベスト・ジャパン」のフードバンク活動

井出 留 美 (セカンドハーベスト・ジャパン広報室長)



日本は年間のコメ生産量(839万トン)と同じくらい、まだ食べられる食べ物を捨てている、という現状を知っていただきたいと思います。



●主著：『四快(よんかい)のすすめ 子どもの「快眠・快食・快便・快動」を取り戻す』(共著)新曜社 2011 ●参考文献：大原悦子『フードバンクという挑戦 貧困と飽食のあいだで』岩波書店 2008

セカンドハーベスト・ジャパンのフードバンク活動  
Photo by Natsuki Yasuda/Studio AFTERMODE

8/9

### 「確かな未来へ」

— 内発的発展の村おこし

金子 美 登 (霜里農場)



身近にある資源を活かして食とエネルギーを地産・地消する。集落全体が有機農業に転換した村から始まっている未来と村おこしまでの実践。そして、これからの40年を語る。

●主著：『イラストでわかる有機自給菜園』家の光協会 2010/『有機・無農薬でできる野菜づくり大事典』成美堂出版 2012 ●参考文献：金子美登『農力検定テキスト』(共著)コモンズ 2012/日本労働新聞「市民、働く者にとっての本当の社会、確かな未来へ」2013年1月5日・15日『日本労働新聞』日本労働者協同組合

9/20

### まちづくり・エネルギーをシェアする

— トランジション・タウンとパーマカルチャー

糸長 浩 司 (日本大学生物資源科学部 教授)



脱経済成長社会、エネルギー下降時代の、価値観・ライフスタイル・コミュニティ転換シナリオとデザイン・アクション。トピックスで原発・災害地域の飯館村民の再建展望。

●主著：『2050年から環境をデザインする 都市・建築・生活の再構築』(共著)彰国社 2007/『東日本大震災からの復興まちづくり』(共著)大月書店 2011 ●参考文献：日本建築学会『地球環境時代のまちづくり』丸善 2007/日本建築学会『地域環境デザインと継承』彰国社 2004

10/4

### 暮らしと思いをシェアする

— 農山村の新しい道

小田 切 徳 美 (明治大学農学部 教授)



農山村では、厳しい条件のなかでも、それに抗する「地域おこし」の動きが、いままで以上に活発に見られます。そこから私たちが何をシェアできるのかを考えます。

●主著：『農山村再生 「限界集落」問題を越えて』岩波ブックレット 2009/『農山村再生の実践』(編著)農文協 2011

11/8

### 山野をシェアする

— 「入会」〈コモンズ〉の葛藤と知恵

齋藤 暖 生 (東京大学農学生命科学 演習林)



山野がシェアされてきた営みのなかには、その地域、時代の事情のなかで苦闘する人びとの知恵が垣間見られます。私たちが降の世代がゆたかに暮らす作法を探すヒントになりそうです。

●主著：『コモンズと地方自治 財産区の過去・現在・未来』(共著)日本林業調査会 2011 ●参考文献：室田武ほか『入会林野とコモンズ』日本評論社 2004



富士の裾野に広がる広大な山林。ここには何百年と地元住民が守り育ててきた「入会地」がある

12/6

### 創造と情報をシェアする

— めくるめくフリーカルチャーの世界

ドミニク・チェン (NPO法人クリエイティブ・コモンズ・ジャパン理事/株式会社ディヴィジュアル共同創業者)



フリーカルチャーとはインターネットを活用して自由な文化を構築するための運動や活動全般を指す言葉です。フリーカルチャーの歴史と現状をご紹介します。

Photo BY Joi Ito

●主著：『フリーカルチャーをつくるためのガイドブック クリエイティブ・コモンズによる創造の循環』フィルムアート社 2012 ●参考文献：マット・メイソン『海賊のジレンマ ユースカルチャーがいかにして新しい資本主義をつくったか』フィルムアート社 2012/田中浩也『FabLife デジタルファブリケーションから生まれる「つくりかたの未来」』オライリー・ジャパン 2012

12/20

### 言葉をシェアする

— 公共性と市民性を考える

中野 佳 裕 (国際基督教大学 助手・研究員)

日本や世界の動向を踏まえた上で、これからの民主主義の課題について議論します。

●共著：勝俣誠、マルク・アンベール編著『脱成長の道 分かち合いの社会を創る』コモンズ 2011 ●参考文献：中野佳裕「3・11後を生きる：豊かさを変えるには」全5回『東京新聞』2013年1月14日～2月11日(毎週月曜日)/ラトウシュ『消費社会からの脱出(仮)』作品社 近刊(2013年4月)

# 現代社会を知るための10のキーワード

新聞やテレビなどのマスメディアでは、日々さまざまな言葉がつけられ、使われ、受け止められ、やがて「常識」ができあがっていきます。しかし、私たちはどこまでその言葉の本質や意味、背景を理解できているのでしょうか。「なんとなく知っている」「専門家がいいといっている」というだけで共通理解がつけられ、みながある方向へと向かわせられているのだとしたら——？ このクラスでは、現代社会の複雑な問題を理解し、解決していくために必要な10のキーワードの一つひとつ読み解いていきます。いずれも、一般的には「よいもの」「常識」とポジティブに扱われることが多い言葉ですが、「果たしてそれって本当？」と素朴に疑うことから始めましょう。第一線の講師陣がわかりやすく各キーワードの背後にある問題や現象を含めて解説します。頭を柔らかく、のびのびと議論していきましょう。

- 2013年5月～12月
- 基本的に木曜日 19:00～21:00
- 全10回/定員30名
- 受講料：28,000円

5/23

## 「自己責任」

— 生きづらいのは自分のせい？

中西新太郎 (横浜国立大学 教授)

苦しければ苦しいほど、自らの尊厳を守るために、他人に頼らない矜持を保ちたくなる。そこにつけこむ自己責任論の罠をどう見破り、はね返すことができるか、ともに考えたい。



● 主著：『「問題」としての青少年 現代日本の〈文化—社会〉構造』大月書店 2012/『シャカイ系の想像力』岩波書店 2011 ● 参考文献：中西新太郎『格差社会とたたかう 〈努力・チャンス・自立〉論批判』(共著) 青木書店 2007/中西新太郎『キーワードで読む現代日本社会』(共編著) 旬報社 2012

6/20

## 「雇用」

— 正社員なのになぜこんなに不安定なの？

竹信三恵子 (和光大学 教授/ジャーナリスト)

正社員になることが問題の解決だった時代は終わりました。働き方そのものを変えること、そのためのネットワークづくりが問われています。



● 主著：『しあわせに働ける社会へ』岩波ジュニア新書 2012/『ルポ賃金差別』ちくま新書 2012

7/18

## 「憲法改正」

— 何のために変えたいの？

渡辺治 (一橋大学 名誉教授)

安倍政権になって、憲法「改正」の企図が本格的に台頭した。すでに、自民党は2012年4月に「日本国憲法改正草案」を発表し、維新の会も憲法改正を打ち出している。改憲草案にあたりながら、現代改憲のねらいの変遷と当面の焦点、さらに自民党の改憲戦略を検討する。



● 主著：『渡辺治の政治学入門』新日本出版社 2012



8/1

## 「復興」

— 東日本大震災の全体像と復興の現状は？

室崎益輝 (兵庫県立大学 特任教授/神戸大学 名誉教授)

巨大災害は、その社会の持っていた歪みを顕在化させる。復興は、その歪みを改革する使命を持つ。本講義はそうした視点から、東日本大震災の本質と復興のあり方を考察する。



● 主著：『地震列島・日本の教訓 (NHKテレビテキスト・歴史は眠らない)』NHK出版 2010/『東日本大震災・原発事故 復興まちづくりに向けて』(共著) 学芸出版社 2011 ● 参考文献：室崎益輝『「高台移転」は誤りだ』『世界』2011年8月号 岩波書店/室崎益輝『東日本大震災からの復興についてのメモ』『地震ジャーナル』54号 地震予知総合研究振興会 2012

※「出会い、学び、参加する 石巻市北上町 復興支援ツアー」と合同

9/18 (水)

## 「国益」

— 国家の利益っていったい何なの？

岡田憲治 (専修大学法学部 教授)



「国家」や「国益」のようなビッグ・ワードになればなるほど、その意味内容を別の言葉で切り分ける必要があります。大雑把な理解を克服して、新しい発見を目指します。

● 主著：『静かに「政治」の話を続けよう』亜紀書房 2011/『言葉が足りない』とサルになる』亜紀書房 2010 ● 参考文献：岡田憲治『静かに「政治」の話を続けよう』亜紀書房 2011/岡田憲治『はじめてのデモクラシー講義』柏書房 2004

9/26

## 「経済成長」

— 豊かさはお金でしか計れないの？

中野佳裕 (国際基督教大学 助手・研究員)

経済成長至上主義の価値観の下で見落とされる価値や生き方について、思想と歴史の双方から検討します。

● 共著：勝俣誠、マルク・アンペール(編著)『脱成長の道 分かち合いの社会を創る』コモンズ 2011 ● 参考文献：セルジュ・ラトゥーシュ『経済成長なき社会発展は可能か？ 〈脱成長〉と〈ポスト開発〉の経済学』作品社 2010 (※11刷以降) / 中野佳裕『豊かさを変える』全5回『東京新聞』1月14日～2月11日(毎週月曜、朝刊第4面)

10/10

## 「自由貿易」

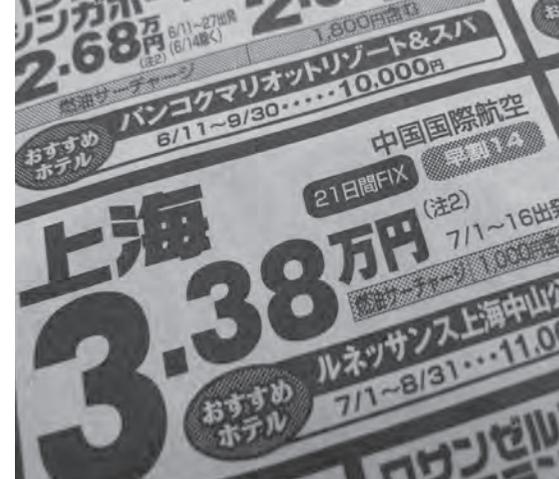
— グローバル化するといったい何が問題？

鈴木宣弘 (東京大学大学院農学国際専攻 教授)

米国主導の極端な自由貿易の推進や規制緩和の徹底が、「1%の1%による1%のための」(スティグリッツ教授) 利益を追求し99%を苦しめることは、世界各地での「反格差社会デモ」の頻発からも明らかであるにもかかわらず、TPPをはじめ、この「時代遅れ」の流れを進めようとする圧力が強まっている。これに断固としてNOを突き付け、アジアに適した、真に柔軟で互恵的な経済連携の具体化を日本が主導すべきである。



● 共著：『ここが間違っている！ 日本の農業問題 農業・食料・TPPの“真”常識』家の光協会 2013/『よくわかるTPP48のまちがい』農文協 2012



10/24

## 「低価格」

— デフレはいいこと？ 食べ物・着る物がなぜこんなに安い？

浜 矩子 (同志社大学大学院ビジネス研究科長・教授)

企業はどのようにして商品を安く販売しているのか。消費者には見えにくい安売りの弊害とは何か。デフレ経済と私たちの消費生活の問題についてわかりやすくお話しできます。



● 主著：『超入門・グローバル経済—「地球経済」解体新書』NHK出版新書 2013/『新・国富論 グローバル経済の教科書』文春新書 2012

11/22 (金)

## 「家族」

— 脆弱化する「絆」と子どもの危機

本田由紀 (東京大学大学院教育学研究科 教授)

家族の「絆」がいつそう称揚されている状況とは裏腹に、現実の家族の存立基盤は揺らいでおり、家族間の関係性にも軋みが見えます。それらが子どもの将来にも色濃く影響するようになっていくことに対して、いかなる社会全体での対処が必要なのかを考えます。



● 主著：『「家庭教育」の隘路 子育てに脅迫される母親たち』勁草書房 2008/『軋む社会 教育・仕事・若者の現在』河出文庫 2011

12/5

## 「グリーン・エコノミー」

— 環境に優しい経済は実現できるの？

井田徹治 (共同通信社 編集委員)

最近、耳にすることが多くなってきた「グリーン経済」という言葉。なぜ、いまグリーン経済なのか。その問題点は何かを一緒に考えてみたいと思います。



● 主著：『グリーン経済最前線』(共著) 岩波新書 2012/『生物多様性とは何か』岩波新書 2010 ● 参考文献：グレッチェン・C・デリリー、キャサリン・エリソン『生態系サービスという挑戦—市場を使って自然を守る』名古屋大学出版会 2010

# 戦後史の死角

## — 隠された証言から未来を探る

この数年、戦後史のとらえなおしが大きな流れとなっています。新たな外交文書の開示や、3.11東日本大震災による原発事故、先の選挙での自民党「圧勝」などもきっかけとなり、改めて「戦後民主主義」「経済成長」「豊かさ」の意味が問われています。このクラスでは、戦後史の中でも長らく語られず、歴史の中に位置づけられてこなかった事実を、人びとの視点から掘り起こします。「戦後」といわれる時代の中で、私たちは何を見、何をみてこなかったのか、どのような犠牲の上にいま生かされているのか、次代に何を引き継いでいくべきなのか——。講師・参加者同士の議論も十分行いながら、「人びとの視点からの戦後史」のありかを探ることで、未来を構想していきます。

- 2013年6月～12月
- 基本的に水曜日 19:00～21:00
- 全12回/定員30名
- 受講料：30,000円

6/5

### 事実を解き明かすドキュメンタリーのか

— 昭和天皇と「東京裁判」：極秘文書が明かす日米の連携

東野 真 (NHK文化・福祉番組部 チーフ・プロデューサー)

資料映像：NHK スペシャル「昭和天皇 二つの『独白録』」(60分)  
『昭和天皇独白録』は、終戦直後に天皇が戦争について語った言葉を記録した極秘文書です。その作成目的はいったい何か。日米を取材したドキュメンタリーをご覧いただきながら、「東京裁判」を再検討したいと思います。

●主著：『昭和天皇 二つの「独白録」』NHK出版 1998/『緒方貞子—難民支援の現場から』集英社新書 2003 ●参考文献：吉田裕「昭和天皇の終戦史」岩波新書 1992/栗屋憲太郎「東京裁判への道(上・下)」講談社選書メチエ 2006



7/10

### 民主主義への挑戦

— 戦前に模索された二大政党の経験 戦後に引き継がれたのか

井上寿一 (学習院大学法学部 教授)

戦後の政党政治は戦前の二大政党制の歴史と連続性を強く持ちながら、展開します。戦前の二大政党制を歴史的に振り返りながら、戦後民主主義とは何だったのかを考えます。

●主著：『理想だらけの戦時下日本』ちくま新書 2013 ●参考文献：井上寿一『政友会と民政党』中公新書 2013



7/19 (金)

### 「固有の領土」は存在するの？

— 日本の国境問題

孫崎 享 (元外務省国際情報局長)

尖閣諸島は日中間で緊張をもたらしています。軍事紛争を回避し、平和的手段で解決する手段を模索します。今一番重要なことは日本国民が歴史的事実をしっかりと把握した上で議論することだと思います。

●主著：『戦後史の正体:1945-2012』創元社 2012/『検証 尖閣問題』岩波書店 2012 ●参考文献：孫崎享「不愉快な現実:中国の大国化、米国の戦略転換」講談社 2012/孫崎享「日本人のための戦略的思考入門—日米同盟を超えて」祥伝社新書 210 2010

※「11.領土・国家・ナショナリズム」クラスと合同



8/29

### 死の灰を背負って

— 私の人生を変えた第五福竜丸

大石又七 (第五福竜丸 元乗組員)

1934年、静岡県榛原郡吉田町に生まれた大石さんは、1948年に漁師となり、1953年に新たにできたマグロ漁船・第五福竜丸に乗船します。5度目の航海中の1954年3月1日、ビキニ環礁で被爆。長い入院生活の後、核廃絶や平和を願い、体験を語り継ぐ活動をされている大石さんにお話をうかがいます。

●主著：『死の灰を背負って 私の人生を変えた第五福竜丸』新潮社 1991/『ビキニ事件の真実 いのちの岐路で』みすず書房 2003



東京都江東区・夢の島公園にある「第五福竜丸展示館」には大石さんと同じく第五福竜丸の乗組員だった久保山愛吉さんの慰霊碑がたたずむ。ここには「原水爆の被害者は私を最後にしたい」という久保山さんの言葉が刻まれている

9/4

### 日本はなぜ核の脅威から学べなかったのか

— 50年代・原水爆禁止運動のなかの平和利用論

武藤一羊 (ピープルズ・プラン研究所運営委員)

1954年、米国の水爆実験で日本の漁船が被曝(ビキニ事件)したことを引き金に草の根の原水爆禁止運動が起こり、ヒロシマ・ナガサキの原爆体験が平和運動と結びついた。だが同時期、米国の導入した「原子力平和利用」は無警戒に受け入れられ、後の原発大国化に導く。その二つの関連のなかに今日に至る戦後日本の成り立ちを探ってみたい。

●主著：『潜在的核保有と戦後国家—フクシマ地点からの総括』社会評論社 2011/『アメリカ帝国と戦後日本国家の解体』社会評論社 2006 ●参考文献：丸濱江里子「原水禁署名運動の誕生」凱風社 2011/武藤一羊「潜在的核保有と戦後国家」社会評論社 2011



9/18

### 戦後史における「社会運動」と「美術・芸術」

— 人びとは何を見、何を求めて表現をしていたのか

武居 利史 (府中市美術館 学芸員)

反基地・反核などの平和運動と結びついた芸術家の活動や作品は、歴史に埋もれがちで、表現として再評価される機会も少ない。1950年代の内灘・砂川闘争、60年安保、ヴェトナム反戦運動へと続く、たたかひの現場にあった美術家たちの姿を追う。

●主著：『アートサイト府中 2010 いきるちから』府中市美術館 2010/『第2回府中ピエナーレー—来たるべき世界に』府中市美術館 2004 ●参考文献：鈴木勝雄、榎田倫広、大谷省吾編『実験場 1950s』(論文集)東京国立近代美術館 2012/名古屋市美術館編『戦後日本のリアリズム 1945-1960』(展覧会図録)戦後日本のリアリズム展実行委員会 1998



10/2

### 暴かれる日米安保の闇

— 「核の傘」・核密約の“起源”とは

太田昌克 (共同通信 編集委員)

ジャーナリストとして足掛け10年追いつけた日米核密約。「国家のうそ」は2009年の民主党政権下の密約調査により、その真相がようやく浮かび上がりました。密約問題を通じて日米安保の内実と、日本人にとって因縁深い核の問題、特に核抑止論について掘り下げてみたいと思います。

●主著・参考文献：『日米「核密約」の全貌』筑摩選書 2011/『秘録—核スクープの裏側』講談社 2013



10/19 (土) 午後

東京都東村山市を訪ねる

### ハンセン病とのたたかひは、差別とのたたかひ

— 国立療養所多磨全生園でのとりくみ

約1世紀にわたりハンセン病患者を強制隔離してきた日本。感染力が弱いことがわかって、治療法が確立されても、政策は改善されませんでした。患者さんや支援者は今も国や社会的差別とのたたかひ、尊厳の回復をめざしていますが、患者の高齢化もあり、事実を後世に伝えることも困難な状況です。日本に13カ所あるハンセン病療養所のひとつ「多磨全生園」を訪問し、患者さんの体験や思いをお聞きます。



10/30

### 「戦後開拓」とは何だったのか

— 社会運動史から考える

道場 親信 (和光大学 准教授)

敗戦後、過剰人口問題と食糧問題に対する一挙的な対策として推進された開拓政策。だが、戦後復興の中で開拓地は新たな国策の波に揺さぶられることになった。百里基地、三里塚空港、六ヶ所村、そして福島第一原発など、戦後社会運動の焦点となった開拓地に注目し、戦後日本を再考する。

●主著：『占領と平和 〈戦後〉という経験』青土社 2005/『抵抗の同時代史 軍事化とネオリベリズムに抗して』人文書院 2008 ●参考文献：道場親信「戦後開拓と農民闘争 社会運動の中の「難民」体験」『現代思想』2002年11月号 青土社/道場親信「戦後開拓」再考「引揚げ」以後の「非/国民」たち『歴史学研究』2008年10月増刊号 青木書店



11月～12月で調整中

### 日本で初めて原発が来た町

— 何が犠牲にされてきたのか

村上 達也 (茨城県東海村市長)★交渉中★

1957年、日本で初めて原発の灯がともった茨城県東海村。その後、高度経済成長の時代のなかで各地に原発が誘致され、日本は世界でも類を見ない原発保有国となりました。地域の農業、漁業そして人びとの暮らし、仕事は原発によってどう変わってきたのか。住民の間のさまざまな意見は地域共同体に何をもたらしたのか。そして、これから私たちは何をめざすべきなのか——。脱原発を明確に発信する村上村長をお招きし、お話をうかがいます。

11/27

### 戦後農村女性史

— 「嫁」から「妻」・「妻」から「パートナー」へ

大金 義昭 (食料・農業・農村ジャーナリスト/文芸アナリスト)

評論家の丸岡秀子さんは、かつて「女性問題は農村女性問題から始めるべきである」というようなことを唱えている。敗戦から68年。「乳役無角牛」といわれた時代から、今日に至る戦後農村女性の歩みを肉声と肉筆で辿り、男女共同参画社会を考える。

●主著：『風のなかのアリア—農村戦後女性史』ドメス出版 2005/『農とおんなと協同組合:男女共同参画時代へ』全国協同出版 2001



12/14 (土) 14:00～17:00

映画を観る

### 炭鉱と原発

— 地の底から日本を支えた、誇り高きエネルギー労働者たち

熊谷 博子 (映画監督)

1997年3月30日、日本で最大の規模を誇った三池炭鉱は閉山しました。囚人労働、強制連行、三池争議、炭じん爆発事故……。過酷な労働を引き受け、誇り高く〈やま〉に生きた男と女たちの証言を聞き続けた熊谷監督をお招きし、語られなかった人びとの歴史についてお聞きます。また同じエネルギー労働者としていまも原発労働に従事する人たちの置かれた状況とも切り結びながら考えます。

●主著：『むかし原発 いま炭鉱 炭都[三池]から日本を掘る』2012 中央公論新社

上映作品：『三池 終わらない炭鉱(やま)の物語～Echoes from the Miike Mine』監督：熊谷博子 / 2005年 / 103分



# 文系アタマで「科学」を考える

原発や大地震のリスク、食品の安全性などを論じるとき、科学者や専門家と呼ばれる人びとの間でしばしば意見が食い違うことがあります。また、その議論は私たちにとってあまりに難解で意味不明…ということも少なくありません。専門家が「科学的に」と言うときの「科学」とはそもそも何なのか。科学の問題は専門家任せにしていればよいのか。この講座では、身近な生活に関連した実例や、参加型の講義・ワークショップを通じて、「科学とは何か」、「科学的に考えるとどういうことか」をわかりやすく学んでいきます。

- 2013年5月～11月
- 基本的に火曜日 19:00～21:00
- 全8回/定員30名
- 受講料：28,000円

講師 & コーディネーター：上田昌文  
(NPO法人市民科学研究室 代表理事)



● 主著：『子どもと電磁波』babycom 2009/『わが子からはじまる 原子力と原発 きほんのき』クレヨンハウス 2011

5/21

オリエンテーション

## 科学との付き合い方をふりかえる

上田昌文 (NPO法人市民科学研究室 代表理事)

市民は科学とどんな関わりを作っているのか。市民科学研究室の10数年に及ぶ様々な取り組みの事例を手がかりに、皆で体験や思いを語り合いながら、構想してみます。

6/11

## そもそも「科学」って何？

—「科学的に考える」とは

平川秀幸 (大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 准教授)

科学って何なのか。科学の(不)確かさや社会・政治との関わりなど、教科書やメディアからはなかなか見えない「社会的営みとしての科学」の実像に迫ります。



● 主著：『科学は誰のものか—社会の側から問い直す』NHK出版 2010/中村征樹(編)『ポスト3・11の科学と政治』ナカニシヤ出版 2013 ● 参考文献：平川秀幸『科学は誰のものか—社会の側から問い直す』NHK出版 2010/ジェローム・ラベッツ『ラベッツ博士の科学論 科学神話の終焉とポスト・ノーマル・サイエンス』こぶし書房 2010



7/8 (月)

## 私たちは「リスク」とどう向き合うべきなのか？

— 科学技術と政治の谷間で

神里達博 (大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 特任准教授)

近年、我々の社会は実に様々なリスクに翻弄されるようになった。これらと適切に向き合うための新しい「作法」を、科学技術と政治の両方の角度から考えてみたい。



● 主著：『食品リスク—BSEとモダンティ』弘文堂 2005/『没落する文明』(共著)集英社新書 2012 ● 参考文献：小林傳司『トランスサイエンスの時代』NTT出版 2007

7～8月で調整中

## マスメディアは科学をどう伝えてきたのか

— 科学コミュニケーションとメディアの取り組み

科学の専門家と一般市民のあいだのコミュニケーション・ギャップを解消して、科学と社会のより良い関係を築く「科学コミュニケーション」の取り組みは、原発事故後の社会におけるマスメディアの重要な役割の一つです。番組制作や編集の現場では、科学の知識や問題について一般の人びとに向けてどのように伝えようとしているのか。科学番組の制作現場からのお話を伺います。

日本科学未来館の球体ディスプレイ装置「ジオ・コスモス」



9/3

## 科学と「疑似科学」をどうやって見分けるの？

左巻健男 (法政大学生命科学部環境応用化学科 教授)

世の中には、とくに健康の領域で、中途半端な科学リテラシーの人たちをさも科学的な雰囲気や醸した疑似科学(ニセ科学)で騙して高額商品を購入させようとする者がいる。疑似科学の具体例を通してその特徴、見分けるセンスについて考えたい。



● 主著：『面白くて眠れなくなる化学』PHP研究所 2012 ● 参考文献：左巻健男『水はなんにも知らないよ』ディスカヴァー・トゥエンティワン 2007

9/24

## 科学技術と自然環境は対立するものなの？

— 環境倫理とは

鬼頭秀一 (東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授)

3.11以後、私たちが自然との関係で「科学技術」の意味合いや付き合い方の構えについて大きく変わってきたように思われる。21世紀における人間の自然との関係、科学技術との付き合い方についてその基本的なあり方＝「倫理」について考えてみたい。



● 主著：『環境倫理学』(共編著)東京大学出版会 2009/『自然保護を問う—環境倫理とネットワーク』ちくま新書 1996 ● 参考文献：河出書房新社編集部(編)『歴史としての3.11』河出書房新社 2012



海外での「サイエンス・カフェ」の様子。リラックスした雰囲気の中で専門家と一般市民が科学について気軽に語り合う

10/15

## 原発事故に科学者はどう対応したのか

— いのちの問題を考える

金森修 (東京大学大学院教育学研究科 教授)

東日本大震災後の、特に福島第一原発事故を受けた政府の対応、科学者の対応などからみえてくる、日本社会の或る種の傾向について、一般市民の科学リテラシーや倫理的な心構えなどの視座を念頭に置きながら、批判的に考察します。



● 主著：『《生政治》の哲学』ミネルヴァ書房 2010/『動物に魂はあるのか』中央公論新社 2012 ● 参考文献：中川保雄『増補 放射線被曝の歴史』明石書店 2011/金森修『エビステモロジー』(編著)慶應義塾大学出版会 2013

11/19

ワークショップ

## 生活者が選び・描き出す「これからの科学技術」

上田昌文 (NPO法人市民科学研究室 代表理事)

今後どんな科学技術が求められるのか—生活者が自身の意見をまとめ、研究開発側にぶつけるしくみがまだないなかで、専門知にとらわれすぎずに提案を行う方法を探ります。

● 主著：『子どもと電磁波』babycom 2009/『わが子からはじまる 原子力と原発 きほんのき』クレヨンハウス 2011 ● 参考文献：スーザン・グリーンフィールド『未来の私たち』(伊藤泰男・訳)産業図書 2008/ミチオ・カク『2100年の科学ライフ』(斎藤隆央・訳)NHK出版 2012



福島県の小学校で放射線についての体験型授業を行う上田昌文さん

# 放射能汚染時代を生きる

## — 福島の「いま」と私たちの選択

3.11東日本大震災から2年が経過しましたが、放射能汚染は、福島で暮らす人たちにとっても、また東京近郊で暮らす私たちにとっても、深刻で、長期的な問題です。国の対策が十分でない中、子どもの健康被害、除染、食べ物の汚染、避難、農業と、問題は山積なのに、その解決は「個人の選択」「自治体の判断」に丸投げされている面も多くあります。また「生産者」と「消費者」、「避難した人」「しなかった人」などが分断されるなかで、多くの人が不安を抱き、生きることが困難な状況も生まれました。このクラスでは、起こってしまった原発事故と放射能汚染という事実を冷静に受け止め、課題をひとつひとつ解きほぐしながら、個人の生活レベルでできること、地域や自治体レベルの取り組み、そして国の責任を考えます。また、放射能汚染とその危険性をめぐる認識の相違や誤解なども議論しながら、共通の認識をつくっていくことをめざします。

- 2013年6月～12月
- 基本的に月曜日 19:00～21:00
- 全8回/定員30名
- 受講料：28,000円

6/17

### 放射能汚染とわたしたち

— まず“ベクレル”と“シーベルト”を理解する

今中哲二 (京都大学原子炉実験所 助教)

放射能汚染への向き合い方を自分で判断するのに必要な基本知識を解説します。

●主著：『低線量放射線被曝—チェルノブイリから福島へ（叢書 震災と社会）』岩波書店 2012/『Silent War 見えない放射能とたたかう』講談社 2012



7/1

### 放射能汚染問題から食と暮らしの再生を

小山良太 (福島大学経済経営学類 准教授/うつくしまふくしま未来支援センター 産業復興部門長)

風評被害という用語は誤りである。原発事故の影響で放射性物質が拡散した地域は福島県に限らない。政府による詳細な放射能汚染マップの作成と検査態勢の体系化が必要だ。

●主著：『東日本大震災復興に果たすJAの役割』社団法人家の光協会 2012/『復興の息吹 人間の復興・農林漁業の再生』農山漁村文化協会 2012 ●参考文献：『放射能汚染から食と農の再生を』家の光協会 2012/『放射能に克つ農の営み ふくしまから希望の復興へ』コモンズ 2012



7/29

### 「避難する／しない」は誰がどう決める？

— 自主避難した母親たちの苦悩と希望

中村美紀 (山形避難者母の会 代表)

避難区域以外から子どもを連れ、夫を福島に残し母子のみで避難を選択した母親たち。故郷に残る大切な人を想うが故の苦悩と、福島の今を知ってほしい。



8/29 (木)

### 日々の暮らしの中で放射能汚染にどう向き合うのか

山田 真 (小児科医)

福島原発事故はとり返しのつかない惨事である。しかし、放射能による健康障害が因果関係を説明しにくいのをいいことに、放射能安全神話が作られ、急速に風化されようとしている。このことにどう接していくのか、考えたい。



9/20 (金)

### 食べる・食べないの分断を超えて — 福島の農作物と農民たちの現状

大江正章 (PARC 代表理事/コモンズ 代表)

「福島の奇跡」ともいわれる米や野菜の現状と、危険かもしれないが故郷にとどまって耕し続ける農民の気持ちを理解しよう。本当に危なくて未来がないのは都市の生活なのでは。

●主著：『地域の力 食・農・まちづくり』岩波新書 2008/『放射能に克つ農の営み ふくしまから希望の復興へ』(共著) コモンズ 2012 ●参考文献：小出裕章・明峯哲夫ほか『原発事故と農の復興』コモンズ 2013



反原発デモに参加する人びと



除染した土の仮置き場

10/21

### 福島県の漁業・漁業者の「いま」

乾 政秀 (樹水士舎・最高顧問)

原発事故以来、福島県の沿岸・沖合漁業はほぼ全面的に停止した。放射能が不検出の魚類を対象に一部漁業で試験操業が始まっているが震災前とは程遠い。福島県の漁業の現状を報告する。



●主著：『漁業・漁村の多面的機能』東京水産振興会 2002/『福島原発事故による海洋汚染と漁業被害』漁業経済学会 2013

11/15 (金)

### 生産者と消費者の顔の見える関係を どう続けていけるか

戎谷 徹也 (大地を守る会 事業戦略部 放射能対策特命担当)

あれから2年。私たちはつながりを取り戻せたのか…答えはまだです。それでも「食」はつながりを求め、問いかけてきます。いま一度、“原点からの再出発”を始めよ、と。



●共著：『放射能に克つ農の営み ふくしまから希望の復興へ』コモンズ 2012/『脱原発の大義—地域破壊の歴史に終止符を』農文協 2012

12/16

### 家庭でできること

— 放射能排出の食事法

境野 米子 (生活評論家/薬剤師/福島県教育委員会 委員長)

昨年11月、ベラルーシ共和国へ行ってきました。汚染地にある中等学校、森などの線量が低いのに驚きました。まだ高い線量の福島、子どもたちの学習環境、健康、農業など、課題は山積みです。



●主著：『あの日からのお母さんのしごと』ワニブックス 2012/『子どもを放射能から守るレシピ 77』コモンズ 2012 ●参考文献：境野米子『病と闘うジュース』創森社 2011



**お仕事を協同でおこなう**

協同で仕事をこす

社会を変える生き方・働き方

広井良典 編著 1500円

市民が仕事を創り、地域を活性化し、新しい公共を担う。一人ひとりが出資者・経営者・労働者である協同労働の全容！

**原発事故と農の復興**

原発事故と農の復興

避難すれば、それですむのか？!

小出裕章・明峯哲夫ほか 1100円

食べ物の安全性を守りつつ農業・農村を復興するにはどうすればよいか。反原発の第一人者と有機農業者たちが徹底討論

**放射能に克つ農の営み**

放射能に克つ農の営み

脱成長の道

脱成長の道

分ち合いの社会を創る

勝俣誠、マルク・アンペール 編著 1900円

幸福は消費によってはもたらされない。簡素な生き方が拓く節度ある社会と経済のあり方を内外の11人が多様に描き出す

**コモンズ** 東京都新宿区下落合1-5-10-1002  
tel03-5386-6972 fax03-5386-6945

<http://www.commonsonline.co.jp> 【価格は税別】

連続ゼミ

18

# アベノミクスの仮面を剥ぐ！

## — 超初歩からの3大経済学

アベノミクスの軸でもある新自由主義がもたらした、泥沼の世界経済危機。にもかかわらず、世界の主流派経済学者の多くは、新自由主義の理論をより精緻化させることばかりに、心血を注いでいます。これを“ポトルシップ経済学”と呼びます。ポトルシップ—洋酒の空き瓶の中に作られた精巧な船の模型—のような経済学が、現代の危機に解答を出せるとは、とても思えません。この講座では、資本主義経済が抱える問題に生涯をかけて取り組んだ、3人の歴史的な経済学者の学説を現代の視点から読み解き、危機の根本原因は何か？ 資本主義は存続可能か？ 次代はどう展望するべきか？ を考えます。コーディネーターが丁寧な解説を行ないながら進めますので、経済学はまるでわからないという方も、安心してご参加ください。

■ 2013年5月～12月 ■ 基本的に月曜日 19:00～21:00  
 ■ 全10回/定員30名 ■ 受講料：32,000円

コーディネーター：嶋 崇 (経済学研究者)

● 主著：『いまこそ「資本論」』朝日新書 2008



5/27

オリエンテーション ▶

### “ポトルシップ経済学”からの脱出を

嶋 崇 (経済学研究者)

鳴り物入りで登場したアベノミクスも、内容を子細に見ていくと、所得格差はそのままに、バブルの再燃を夢見ているようです。今、何が経済をおかしくしているのかを考えます。

6/10

### マルクス経済学①

#### マルクスが発見した資本主義の根本法則と現代社会

伊藤 誠 (東京大学名誉教授)

過去1千年紀最大の思想家マルクスの経済学は、資本主義の理念としての自由と平等が労働者の搾取と抑圧を成り立たせている秘密を解き、新自由主義批判の基礎を示している。



● 主著：『「資本論」を読む』講談社学術文庫 2006/『資本主義経済の理論』岩波書店 1989 ● 参考文献：D・ハーヴェイ『新自由主義 その歴史的展開と現在』作品社 2007



6/24

### マルクス経済学②

#### マルクスの恐慌論と現在の世界恐慌

— D・ハーヴェイの見解によせて

伊藤 誠 (東京大学名誉教授)

マルクスの恐慌論を現在の世界恐慌にいかにか適用すべきか。ハーヴェイとの論争にふれつつ、新自由主義の失敗を露呈した現在の世界恐慌の歴史的意義を再考してみよう。

● 主著：伊藤誠『サブプライムから世界恐慌へ—新自由主義の終焉とこれからの世界』青土社 2009 ● 参考文献：D・ハーヴェイ『資本の〈謎〉世界金融恐慌と21世紀資本主義』作品社 2012/D・ハーヴェイ『〈資本論〉入門』作品社 2011

7/22

### マルクス経済学③

#### 21世紀型社会民主主義と社会主義の可能性

— ソ連型社会主義の限界をこえて

伊藤 誠 (東京大学名誉教授)

マルクスの経済学は、資本主義をこえるオルタナティブとしての社会主義の理論的基礎を示す課題を有している。ソ連型社会の崩壊をふまえ、21世紀型社会主義の可能性を再考してみたい。

● 主著：『伊藤誠著作集第6巻—市場経済と社会主義』社会評論社 2012/『日本経済の「再生」は可能か』平凡社新書(近刊)



8/5

### ケインズ経済学①

#### ケインズはなぜ今までの経済学と決別したのか？

永井 進 (法政大学教授)

ケインズは、従来の新古典派経済学が自由放任の市場経済の下で完全雇用を前提とする理論であることを批判し、ケインズ革命と呼ばれる潮流を作った。



● 主著(訳書)：P・デビッドソン『ケインズ経済学の再生—21世紀の経済学を求めて』名古屋大学出版会 1994/R・J・ゴードン『現代マクロエコノミクス(上・下)』多賀出版 1997 ● 参考文献：ケインズ学会編『危機の中でケインズ』から学ぶ—資本主義とビジョンの再生を目指して』作品社 2011/R・カーン『ケインズ「一般理論」の形成』岩波書店 2006

9/9

### ケインズ経済学②

#### 身勝手に暴走する資本主義経済はコントロール可能か？

永井 進 (法政大学教授)

1970年代以降、新自由主義の経済学が復活し、反ケインズ主義の流れが広がった。しかし、リーマン・ショックを契機にした金融危機の中で再び、ケインズはよみがえった。

● 主著(訳書)：P・デビッドソン『ケインズ経済学の再生—21世紀の経済学を求めて』名古屋大学出版会 1994/R・J・ゴードン『現代マクロエコノミクス(上・下)』多賀出版 1997 ● 参考文献：ロバート・スキデルスキー『なにがケインズを復活させたのか？—ポスト市場原理主義の経済学』日本経済新聞出版社 2010/ポール・クルーグマン『さっさと不況を終わらせろ』早川書房 2012

10/7

### ケインズ経済学③

#### 混迷の世界経済へのケインズの処方箋はこれだ！

永井 進 (法政大学教授)

貨幣が世界を巡るグローバル経済で、国内経済の安定化を目指したケインズの基本的な考え方、処方箋は有効なのか、考察してみよう。

● 主著(訳書)：P・デビッドソン『ケインズ経済学の再生—21世紀の経済学を求めて』名古屋大学出版会 1994/R・J・ゴードン『現代マクロエコノミクス(上・下)』多賀出版 1997 ● 参考文献：ロバート・スキデルスキー『なにがケインズを復活させたのか？—ポスト市場原理主義の経済学』日本経済新聞出版社 2010/ポール・クルーグマン『さっさと不況を終わらせろ』早川書房 2012

10/28

### ガルブレイス経済学①

#### 経済成長は、はたしてゆたかさをもたらしたのか

中村 達也 (中央大学名誉教授)

戦後の先進諸国では、経済成長のもとで「ゆたかな社会」が実現されたが、その「ゆたかな社会」が、新たな貧困を生み出していることをガルブレイスはどう分析したのかを探る。



● 主著：『豊かさの孤独』岩波書店 1992/『さまよう経済と社会—時代の叫び』162冊 中央大学出版部 2009 ● 参考文献：中村達也『ガルブレイスを読む』岩波現代文庫 2012/J・ジェイコブズ(中村達也訳)『発展する地域 衰退する地域—地域が自立するための経済学』ちくま学芸文庫 2012

11/18

### ガルブレイス経済学②

#### 21世紀の格差、貧困問題にどう向き合えばよいのか

中村 達也 (中央大学名誉教授)

21世紀の日本が抱える格差・貧困問題を考えるために、『ゆたかな社会』(岩波現代文庫)や『満足の文化』(新潮文庫)など、ガルブレイスの主要な著作を手がかりに、解決のためのヒントを探る。

● 主著：『豊かさの孤独』岩波書店 1992/『さまよう経済と社会—時代の叫び』162冊 中央大学出版部 2009 ● 参考文献：中村達也『ガルブレイスを読む』岩波現代文庫 2012/J・ジェイコブズ(中村達也訳)『発展する地域 衰退する地域—地域が自立するための経済学』ちくま学芸文庫 2012

12/2

まとめ

#### 現在の私たちにとって“経済”とは何なのか

嶋 崇 (経済学研究者)

3大経済学者の学説を振り返り、ビジョンを失った“ポトルシップ経済学”から脱出するにはどうすればいいのか、私たちの手に経済を取り戻すためには何が必要なのかを考えます。

● 主著：『いまこそ「資本論」』朝日新書 2008 ● 参考文献：山口義行『バブル・リレー—21世紀型世界恐慌をもたらしたもの』岩波書店 2009

連続ゼミ

19

# アクティビストのための ソーシャルメディア講座

ツイッター、フェイスブック、Ustream、クラウド……さまざまな可能性を秘めているソーシャルメディア。20年前のリオ環境サミットで12歳の少女セヴァン・スズキは、変化のための行動を訴え、その映像は今日までの間にYouTubeで約77万回再生されています。変化を呼びかけ大統領になったオバマのツイッターのフォロワーは約2700万人。30年に及ぶ独裁政権に終止符を打ったエジプトの「アラブの春」ではフェイスブックが大きな役割を果たしたと言われています。しかし、ソーシャルメディアはあくまでも新しい技術やフォーマットであり、大切なのはそれを使って何をするかです。社会を変え、世界に変化を起こすのは私たち。そのための技術と知恵を、最前線で活躍する講師が伝授します。実践編を交えながら一歩踏み込んだソーシャルメディアの活用方法を学びます。

■ 2013年5月～11月 ■ 基本的に月曜日 19:00～21:00

■ 全10回/定員20名 ■ 受講料：32,000円

※クラスにはご自身のPCをお持ちください。インターネット環境はあり。

5/20

## ソーシャルメディアを活用して 共感の生態系をつくる

鈴木菜央 (greenz.jp 発行人/NPO法人グリーンズ代表理事)

共感でつながる人々の生態系をつくり、豊かにしていくことが、活動の成功のためには重要です。リアルな場づくりと、外へとつなげるソーシャルメディアの活用の両方を学びます。

●主著：『ソーシャルデザイン』朝日出版社 2012



© Marc\_Smith on Flickr

6/3

## 世界の社会運動はインターネットを 武器にどう活動を広げたか？

印鑰智哉 (メディア・アクティビスト)

ソーシャルネットワークが発達する前から社会運動は情報を共有するメディアを求めていた。世界の社会運動はデジタルメディアで相互にどうつながりつつあるかを知る。

●参考HP：http://blog.rederio.jp/

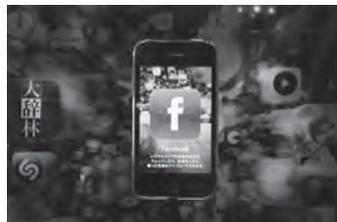


6/17

## 実践編① Facebook、Twitterを 効果的に使うためのツール集

笠原孝弘 (NPOサポートセンター /NetSquared Tokyo)

FacebookやTwitterをはじめとするソーシャルメディアでの情報収集や発信、分析、モニタリングを効果的に実行できる「オンライン便利ツール」を解説&実際に活用します。



© MIKI Yoshihito on Flickr

7/1

## ウェブで蔓延するソーシャルの誤解

一言質と技術に誘導されないための知恵

森 健 (ジャーナリスト)

誰でもメディアを持てる現在、その特性ゆえに目的や手段を履き違えたり、技術を盲信してしまう人がよくいます。ソーシャル全盛だからこそ陥りがちな問題について語ります。



© lovelornpoets on Flickr

●主著・参考文献：『ビッグデータ社会の希望と憂鬱』河出文庫 2012/『ゲージル・アマゾン化する社会』光文社新書、2006

7/22

## 〈民衆版〉映像の世紀

—メディアの枠を虹色に拓ける

白石 草 (OurPlanet-TV 代表)

市民メディアは技術の進化とともに進化しています。新しいさまざまなメディアを使えば、私たち自身が取材し、番組をつくり発信することもできます。いつもマスメディアが正しいとは限らない。私たち自身でいま何が必要とされているのかを考え、どんな声を出すべきなのか話し合ってみようと思います。



●主著：『ビデオカメラでいこう ゼロから始めるドキュメンタリー制作』七つ森書館 2008/『メディアをつくる「小さな声」を伝えるために』岩波ブックレット 2011 ●参考文献：ミッチ・ウォルツ『オルタナティブ・メディア 変革のための市民メディア入門』大月書店 2008/細谷修平(編集)、メディアアクティビスト懇談会『メディアと活性 What's media activism?』インパクト出版 2012

9/2

## 実践編② Ustreamで 1-DAYアクティビスト番組を放送する

白石 草 (OurPlanet-TV 代表)

7/22のクラスで話しあったことを踏まえて、この日この時間限りの一日番組を報道します。果たして私たちはどんな番組を企画するのか。それはまだ誰にもわかりません。自分たちの思いをカタチにし、発信する側を体験しましょう。

●主著：『ビデオカメラでいこう ゼロから始めるドキュメンタリー制作』七つ森書館 2008/『メディアをつくる「小さな声」を伝えるために』岩波ブックレット 2011



© casek on flickr

9/30

## 愛とユーモアの社会運動？

—楽しい活動のために！

渡邊 太 (大阪国際大学人間科学部 講師/国際脱落者組合)

ただ生きていくことに並々ならぬ労力を要する社会の中で、どうやって他者とつながりオルタナティブな生活をつくりだせるか。社会運動のユーモアに注目しながら考えていこう。



© lovelornpoets on Flickr

●主著：『愛とユーモアの社会運動論 末期資本主義を生きるために』北大路書房 2012

10/21

## 人と人との関係を創造する情報技術と社会運動

印鑰智哉 (メディア・アクティビスト)

情報技術は人と人との関係を変える。しっかり取り組もう。誰かがボランティアにまかせるような姿勢では、本当の市民のメディアや力のある社会運動は作れない。力にしよう。

●主著：『メディアと活性 what's media activism?』(共著) インパクト出版 2012 ●参考HP：http://blog.rederio.jp/topics/ict



© Ahmed Abd El-fatah on Flickr

11/11

## 実践編③ みんなの力

— “アイデア・署名・寄付”をつなげる  
クラウドの参加方法・活用方法

笠原孝弘 (NPOサポートセンター /NetSquared Tokyo)

「アイデア」や「活動資金の小額寄付」を集めるサービス、業務の効率化やオンラインコラボレーションを実現するアクティビストの「クラウドサービス」の活用事例を紹介します。

11/25

## ソーシャルメディアゼミ最終回 Stand Alone Complexにチャレンジ

これまでに学んださまざまなソーシャルメディアの知識を使って、実際に社会アクションを巻き起こすことができるか、チャレンジします。



連続ゼミ

20

# 映像を使って授業をつくろう

— 持続可能な農業、漁業、働き方をテーマに

アジア太平洋資料センター (PARC) が制作している映像作品を鑑賞し、私たちの社会や暮らしに何が起きているのかを考えるクラスです。小学校で長年開発教育に携わってきた千葉保さんを講師に迎え、「食べ物」や「働き方」などをテーマに社会について考察を深めます。また、さまざまな教育の現場で、映像作品を使って効果的な学びの場を作る方法やテクニックを検討します。想定する学習対象者は小学生から大人まで。それぞれのレベルにあわせて、学ぶ側が興味を持ってしっかり考え、問題と向き合うことのできる授業の作り方のコツを考えます。学校教員だけでなく、開発教育や環境教育に興味のある方や、国際協力にかかわる NGO/NPO 関係者、ファシリテーターにも適したクラスです。もちろん社会全般に関心があり、そのことについて討議してみたいという方も大歓迎です。

■ 2013年6月～12月 ■ 基本的に第1または第2火曜日 19:00～21:00

■ 全6回/定員30名 ■ 受講料：20,000円

講師 & コーディネーター：千葉保 (國學院大学 非常勤講師)

原発問題は捨て置き、景気のいい大盤振舞い。憲法改正などの右傾化。対抗するには自分の意見を確立し、対案を用意することが急務です。PARCのDVDを手がかりに、生活や授業を考えていきましょう。

● 主著：『エネルギー・放射線の授業』太郎次郎社エディタス 2011 / 『食からみえる「現代」の授業』太郎次郎社エディタス 2011 ● 参考文献：千葉保『コンビニ弁当16万キロの旅』太郎次郎社エディタス 2005 / 『お金で泣かない本』太郎次郎社エディタス 2011



日程
6月4日
7月2日
9月10日
10月8日
11月12日
12月10日

クラスで扱うビデオ

## 有機農業で生きる — わたしたちの選択

(監修：大江正章 / 監督：岩崎充利 / 36分 / 2012)

農業や化学肥料への依存、放射能汚染、環境破壊。農と食に問題をかかえる現代社会をどう変え、どう生きればいいのか？ その答えのひとつは「有機農業という生き方」の中にある。本来の農業である有機農業は、土や水をはじめ自然の恵みを大切に、持続可能な営みである。



## 食卓と海

(企画：井上礼子 / 構成：鈴木敏明 / 35分 / 2009)

魚や貝、海藻など、海の恵みは、古くから私たちの食卓を支えてきた。今、水産資源の枯渇が世界中で懸念されている。魚を食べられなくなる日がやってくるのか。本作品では、資源を奪いつくす大規模な漁業と流通・消費の仕組みを分析。資源を守りながら利用している人びとの取り組みに注目する。



## ブラック企業にご用心！

— 就活・転職の落とし穴

(監督：土屋トカチ / 監修：ブラック企業大賞実行委員会 / 35分 / 2013)

近年注目されている「ブラック企業」。法律を無視し、労働者を搾取し、その尊厳を奪う企業を指す。長時間労働や過労死などの実例について、当事者やご遺族へのインタビュー、識者の分析・提言を交えながら、ブラック企業の実態を明らかにする。すぐにできる対処法から中長期的な社会変革まで、その対策を探る。



※ 2013年3月末発売予定

※ アジア太平洋資料センター (PARC) では世界の現実をとらえ、社会を見つめなおす視点を提供する映像作品を制作・販売しています。図書館や大学、開発教育の現場などで活用されています。詳細は PARC のウェブサイトをご覧ください。

# 飛び出せ！ 自由学校クラブ

自由学校クラブは、「やりたい」と思った受講生有志が自主的に集まり、呼びかけ、活動の中身やスケジュールをつくっていく、いわば「自由学校の課外サークル」です。2013年3月現在、6つのグループが活動中！ クラスの中で、クラスを超えて、仲間を募って楽しく意義ある活動を始めてみませんか。

- 各クラブへのお問い合わせ・参加申し込みや、新しいクラブの立ち上げについては PARC 自由学校までご相談・ご連絡ください。
- 自由学校クラブに対しては、自由学校教室が1時間500円で使用可(ただしクラスで使っていない場合のみ)になったり、活動やイベント案内を受講生全体や PARC 会員に発信したり、講師を紹介したりなどのサポートを、PARC が行います。
- 自由学校受講生以外の方が参加できるクラブもあります(詳細はお問い合わせください)。

## 戦後史を学び、展望を模索する会

● 基本的に月1回、月曜日 19:00～21:00

● 代表：2007年度「検証戦後史」クラス受講生有志

「戦後60年、なぜ日本はこんなにひどいことになったのか」。これが、2007年度の「検証戦後史」クラスの出発点でした。講座が終わったとき、私たちは、最初の問いへの解答の代わりに、新しい疑問の山を抱えていました。それ以来、幕を引きたくない仲間が、月に1回集まって、読書会の席に著者を招くというやり方を続けているのがこの自主クラスです。手応えのある主題と、伸び伸びとした議論が中身の、誰にでも開かれた楽しい集まりです。

## 野菜にも一言いわせて！ さよなら原発デモ!!

3.11 をきっかけに発足した、脱原発アクションを企画し実践するグループです！ 人間はもちろん野菜や動物にとっても迷惑な原発…早くなくして、安全な未来を目指したいですよね。メンバーそれぞれの問題意識とアイデアを元に、実現するアクションはデモや交流会などさまざま。ぜひご参加ください！

web → <http://yasaidemo.web.fc2.com/>  
twitter → [twitter@demo\\_yasai](https://twitter.com/demo_yasai)  
mail : [yasaidemo@mail.goo.ne.jp](mailto:yasaidemo@mail.goo.ne.jp)



## テレビさようならクラブ — 「テレさよ」の進化を！

● 基本的に3カ月に1回

● 代表：コーシンジャ (PARC 会員 / 自由学校受講生 / 2012年度自由学校企画委員)

● 会長：お宿吉水女将

クラブも5年目に入りました。昨年はUターンした会員のもとを訪ね、長野県松本市の有機野菜食とエコライフをコンセプトにした民宿でミニ合宿を開催しました。今年も合宿を企画し、多くの会員で集いたいと思っています。そして、「テレさよ」は脱原発・脱電力・脱成長への手短かな路であるとともに、バーチャルな仮想電界ではなくパイオで生の「天地人」と遊ぶ最良のキッカケでもあることを確かめたいものです。



## 現代短歌を読む・詠む

● 基本的に毎月第2月曜日 13:00～

● 参加費：月2,000円

● 講師：久々湊盈子 (歌人 / 現代歌人協会会員 / 文芸家協会会員 / 歌誌『合歌』発行人) 歌集『あらばしり』(砂子屋書房 2000)、『鬼龍子』(角川書店 2007)、『風羅集』(砂子屋書房 2012) など8冊

短歌を作るということは、すなわち、自分を考えることです。言葉を考え、社会を考え、生きている意味を考えることです。すぐれた短歌を読み、自己表現の手段として短歌を作ってみませんか。まったく初めて、という方も大歓迎です。

## 高松田んぼの会

● 基本的に月1回

● 世話人：大江正章 (コモンズ代表)

黒岩竜太 (10年度～「東京で農業！」現場インターン)

● 費用：交通費実費。車で来られる方も歓迎です。

● 連絡先：[info@commonsonline.co.jp](mailto:info@commonsonline.co.jp)

高松田んぼとは茨城県石岡市にある36アールの共同田んぼです。始めた人の名前にちなんで、こう呼んでいます。この会では、米づくり全般をメンバーが協力して行います。農業と化学肥料は一切使いません。田植えはすべて手植え、稲刈りはバインダーという簡単な機械と手刈りです。活動日は基本的に土・日で、現地に集合して一緒に作業を行います。もちろん参加できる日だけで結構です。作業はベテランの方々が優しく丁寧に教えてくれますので、全くやったことのない人でも大歓迎。米作りを体験したい人、半農半Xを目指す人、自然が好きの人…どなたでも気軽にご連絡ください。



日程：3月下旬～4月上旬 種播きの準備と種播き / 4月中・下旬 畦の整備など / 5月下旬 田植え / 6月上旬～7月中旬 草取り / 9月下旬 稲刈り / 10月上旬 脱穀 / 11月中旬 収穫祭 (餅つきあり)  
※ 収穫したお米はみんなで購入できます。(白米 / 玄米 / もち米)

## 明日の日本社会を考える会

● 基本的に月1回

● 世話人：「世界のニュースから国際情勢を読み解こう」クラス受講生有志の日本社会が直面しているさまざまな課題の問題点や背景の理解を深め、解決策を模索し、目指すべき将来の姿をみんなで考えていこうというグループで、2012年4月に発足しました。みんなの話し合いで毎回のテーマを決めており、これまで「エネルギー問題」「雇用問題」「貧困と豊かさ」などについて議論をしてきました。未来志向で、自由に意見交換ができる楽しいサロンのような場所です。みなさんの参加を、大いに歓迎します！

環境・暮らしの学校  
21

# 本気で縄文人！！

日本列島にはその昔、縄文という1万年以上続いた時代がありました。縄文時代の遺物からは大きな争いの跡は見つかっておらず、美しい土器や手の込んだ装飾品など、死者を敬い、適切な規模で持続可能な共同生活を営んでいた形跡が発見されています。もっとも古い土器は縄文時代に作られていることから、高度なモノづくりの技術と多様な文化を持っていたこともわかってきました。縄文の人びとは、自然を敬い、大地の恵みを受け、祭りを行ない、自然と共生・調和しながら生きていました。3.11後、私たちはいのちの大切さや自然との共生、人と人とのつながり、そして豊かさのとりえ直しを迫られています。そのヒントを「縄文」の知恵に学びましょう。縄文と現代、過去と未来を繋ぐ鍵を見つけるクラスです。

■ 2013年6月～11月 ■ 平日の回は19:00～21:00

■ 全8回/定員30名 ■ 受講料：28,000円

※出かける回は交通費・食費・材料費などが別途かかります。

6/6 (木)

オリエンテーション

## 君は縄文を見たか

和田晋治 (富士見市立水子貝塚資料館学芸員)

約1万5千年前から1万年間も続いた縄文時代。縄文人はどのような暮らしをしていたのでしょうか。狩猟採集に依存した原始的なイメージを抱いている人も多いが、実は高い文化を有していたのである。



●著書：『縄文海進の考古学—早期末葉・埼玉県打越遺跡とその時代（考古学リーダー18）』（共著）六一書房 2010/『縄文中期勝坂式土器の猪装飾』あらかわ第13号 2011

7/27 (土) 午後

埼玉県富士見市を訪ねる

## 水子貝塚訪問

— 縄文人の息吹を感じよう

富士見市立水子貝塚公園資料館

国指定史跡水子貝塚公園は、約6000年前の縄文時代前期のムラを再現し、周囲を森で囲まれた園内には復元住居5棟や資料館などがあります。貴重な考古資料の数々を通して、縄文人の生きた世界を体験してみましょう。



富士見市立水子貝塚公園風景

9/7 (土) 午後

## ある縄文研究者の死と生

— ドキュメンタリー『KOJO』上映とトーク

岡村 淳 (記録映像作家<在ブラジル>)

自らの知恵と手足を駆使し、学閥に与せず独自の縄文論を展開した古城泰。40代で怪死した彼の背景を、ブラジルから日本・カンボジア・フィリピンの現場へと探るドキュメンタリーの鑑賞とトーク。



●著書：『ブラジルの土に生きて移民を撮る・移民になる』港の人 2013年4月刊行予定 ●参考文献：古城泰『型式学的方法の再検討』考古学研究44巻4号(通巻176号) 1998

◎上映作品『KOJO』

監督：岡村淳 / 前編：114分 後編：91分 / 2006年



上映作品『KOJO』に登場するカンボジア・アンコールワット遺跡

9/21 (土) 10:00～16:00

神奈川県横浜市鶴見区を訪れる

## ようこそ縄文の森・三ツ池へ

— 下末吉台地模式地で学ぶ、座学と土器づくり

金子好伸 (縄文学伝道師/縄文人になる会顧問/国際縄文学協会会員)

関東ローム四重層の一つ、粘土質の「下末吉台地」(横浜・山手〜溝の口・子母口) 模式地は、鶴見区下末吉の三ツ池公園正門前に位置します。周囲は縄文遺跡群。当時は浮島状態で、海・山の幸に恵まれていました。隣接の「小仙塚貝塚」に触れ、学び、縄文土器づくりで体験します。



●主論文：「下末吉台地と『上末縄文遺跡・貝塚群』」『縄文』18号 国際縄文学協会 2008/「縄文人の源流と琉球・アイヌ考」『縄文』21号 国際縄文学協会 2009 ●参考文献：「縄文人に学ぶ持続可能な社会」『縄文』24号 国際縄文学協会 2012

9/25 (水)

## 時空をこえる文様芸術

— 縄文・ケルト・ユーロ=アジア

鶴岡真弓 (多摩美術大学芸術人類学研究所 所長)

ユーロ=アジア世界の「東の極み・日本」と「西の極み・ケルト」を横断して、縄文の文様と、そこに見られる死生観を読み解きます。



●著書：『ケルト 装飾的思考』ちくま学芸文庫 1993/『すぐわかるヨーロッパの装飾文様 美と象徴の世界を旅する』東京美術 2013 ●参考文献：鶴岡真弓『図説ケルトの歴史 文化・美術・神話をよむ』(共著) 河出書房新社 1999/鶴岡真弓『装飾する魂 日本の文様芸術』平凡社 1997



10/5 (土) 16:00～18:00

## 縄文神話と胎生学…

### 性・死・REBORNの三幅対

田中 基 (多摩美術大学芸術人類学研究所 特別研究員)

今から5000年前の縄文中期の八ヶ岳山麓に華開いた多様な土器造形群に登場する水棲動物・蛙・蛇体・猪と女神身体像の構図に、縄文神話の可能性を探る。



●著書：『縄文のメドゥーサ 土器図像と神話文脈』現代書館 2006 ●参考文献：『古事記』角川ソフィア文庫 2002/三木成夫『胎児の世界 人類の生命記憶』中公新書 1983

10/25 (金)

## 「縄文土器」の再発見

— 岡本太郎と縄文の世界

北澤憲昭 (女子美術大学 教授)

日本的なものを代表-表象する弥生文化に対して、岡本太郎は「縄文文化」を別の伝統として掲げることによって「伝統」概念に揺さぶりをかけた。



●著書：『眼の神殿 「美術」受容史ノート』ブリュッケ 2010/『岸田劉生と大正アヴァンギャルド』岩波書店 1993 ●参考文献：岡本太郎『日本の伝統』知恵の森文庫 2005/北澤憲昭『反復する岡本太郎 あるいは「絵画のテロル」』水声社 2012

11/7 (木)

## 縄文の正体に迫る

小林達雄

縄文人はムラの外に広がるハラから多種多様な食料資源や資材を利用する「縄文施政方針」を旨として、自然との共存共生、共感共鳴を全うしながら個性豊かな文化を構築したのである。



●著書：『縄文人の世界』朝日選書 1996/『縄文人の文化力』新書館 1999 ●参考文献：小林達雄『縄文の思考』ちくま新書 2008/小林達雄・佐原真『世界史のなかの縄文 対論』新書館 2001




.....

### ビデオを学ぶならOurPlanetTV

映像を楽しみたい人から、ビデオジャーナリストを目指す人まで、基礎編、実践編、短期集中コースなど様々なプログラムで実施しています。

- 基礎編 (5月～7月/9月～12月)  
企画、撮影、構成、ノンリニア編集まで、映像制作の全ての過程を学びながらショートドキュメンタリーを制作
- 3日間集中コース (4月/8月)  
映像制作の基本を3日間で学ぶ、短期集中コース
- 実践編 (1年間)  
映像制作経験者を対象に、1年をかけてひとつの作品を完成させることを目標とした実践コース

※ 詳細はウェブサイトにてチェックしてください  
「アワブラ」で検索!

勉強会やイベント、大学の授業で!

**OurPlanetTV DVD Collection**

第1巻<社会・人権>  
在日・刑務所・ハンセン病 全7作品

第2巻<生き方・働き方>  
医療・労働・ホームレス・ニート 全7作品

第4巻<世界の動きと人々>  
反戦・平和・災害・反グローバリズム 全6作品

第5巻<女性・ジェンダー>  
性・性被害・DV・SEX・HIV 全7作品

※いずれも¥5,000(上映権付/税込み/送料別)  
※このほか、原発・環境・米軍基地・人権など  
多様なテーマのDVDも販売しています

www.ourplanet-tv.org TEL: 03-3296-2720  
OurPlanet-TV EMAIL: info@ourplanet-tv.org

環境・暮らしの学校  
22

# 日本酒で乾杯！

## — 地域と人が醸す豊かな時間

日本酒は、昔から醸され続けてきた、日本の食文化の代表格。しかし残念なことにその生産・消費量は、長期低落が続いています。そのような状況の中でも、実は全国各地の知る人ぞ知る小さな酒蔵では、さまざまなタイプのおいしい日本酒がつくられ続けています。地産地消をめざして、地元の米や地元産酵母を使って醸される日本酒も増えています。そんなお酒を飲むことは、地域で地道に努力するすぐれた醸造家や、その醸造家に質の高いお米を提供する農家を支援することにもつながります。この講座では、各地の美酒を試飲しながら、すぐれたお酒の見分け方や、より楽しく飲むための基礎知識を学びます。さらに蔵元も訪問して、現場のお話をうかがいながら皆でお酒を堪能しましょう。おいしい日本酒との出会い、そしてそれを育む文化や地域の懐の深さをたっぷりと楽しめます！

■ 2013年5月～10月 ■ 基本的に隔週土曜日 16:00～18:00

■ 全8回/定員30名 ■ 受講料：34,000円

※出かける回は交通費・宿泊費・食費などが別途かかります。※利き酒会、試飲会には別途料金がかかります。

講師 & コーディネーター：石田伸哉

(株式会社コスモの本 代表取締役)



6/29

試飲会①

### いろいろなタイプの日本酒を飲み比べる

生酒、にごり、発泡、無濾過原酒、熟成酒など、いろいろなタイプの日本酒を実際に飲み比べてみましょう。ラベルの表示の見方についても説明します。

7/20

### 茨城の筑波山麓で仕込まれる新しい酒造り

藤村俊文 (来福酒造株式会社 代表取締役社長)

日帰りで酒蔵を訪問し、蔵元さんのお話をうかがいます。筑波山麓にある来福酒造は、さまざまなお米や酵母を使い分けて、伝統と新たな創意工夫を調和させた酒造りをしています。

日本酒の魅力を再発見してください。



5/25

オリエンテーション

### 日本酒の基礎知識と現状

石田伸哉 (株式会社コスモの本 代表取締役)

いま、蔵元自らが醸す蔵元杜氏が増えており、美酒を次々に送り出しています。そんな日本酒界の最新トレンド、日本酒の特徴、不幸な過去の歴史、選び方などをお話します。

6/8

### まずは飲み比べから！

— 日本酒の分類と利き酒会

日本酒の基本的な分類である「特定名称酒」(純米、本醸造、吟醸など)や、味と香りでの分類について、実際に目隠しで利き酒をしながら、違いを実感してみましょう。



8/31 (土)～9/1 (日) 1泊2日

宮城県石巻市 & 福島県二本松市を訪ねる

### 震災後の東北の酒蔵はいま

— 地元にこだわり造り続ける

平井孝浩 (平孝酒造 代表取締役社長)

被災地東北の名酒蔵を訪問して蔵元さんのお話をうかがいます。石巻の平孝酒造「日高見」は震災と津波で大きな被害を受けました。福島の人気酒造「人気一(にんきいち)」も仕込みタンクが倒れましたが、苦境を乗り越え、新たな酒づくりに取り組んでいます。

宮城県石巻市は金華山沖で暖流と寒流の交わる世界三大漁場の一つとして有名で、四季折々に美味しい魚介類が水揚げされます。弊社ではそういった地域性から、「魚でやるなら日高見だっちゃ！」をテーマに毎年の酒造りに挑んでいます。



遊佐勇人 (人気酒造 取締役)



9/14

試飲会②

### 東北の酒蔵飲み比べ

被災地を応援するという思いも込めて、東北地方のおすすめ銘柄を試飲します。いろいろな蔵のさまざまなタイプのお酒を用意し、それぞれの蔵の特徴を学びます。



10/5

試飲会③

### 米、酵母の違いを飲み比べる

原料となるお米や、お米を発酵させてアルコールをつくりだす酵母には、多くの種類があります。いろいろな種類のお米や酵母でつくられたお酒を飲み比べてみましょう。

10/19 午後

東京都台東区を訪ねる

### 日本酒の世界を楽しもう！最後の試飲会

福原敏昭 (ふくはら酒店 代表取締役)

家で飲むおいしいお酒を買うコツは、いい酒屋さんを見つけることです。東京・御徒町の酒屋さん、ふくはら酒店を訪ねて、流通面から見た日本酒選びについてお話をうかがいます。

当店は酒屋ですから、難しい日本酒の造りなどの話でなく、日本酒を楽しく買うヒントのようなお話ができればと思っています。



環境・暮らしの学校  
23

# コミュニティ・カフェをつくらう！

— あなただからできる、あなたらしい場づくり

人と人とを結ぶ場としての「コミュニティ・カフェ」。その魅力的な響きに導かれて、自分の思いや夢を実現するため、「場づくりの理論と実践」を学んでみませんか。いま全国に広がっているコミュニティ・カフェは、環境や福祉、貧困などの問題を解決しながら、事業としても成立するビジネスモデルとしても注目されています。そして、何よりも出会いと交流の場、情報発信拠点、「ほっとできるみんなの居場所」として求められています。受講生それぞれの「場」のイメージを膨らませ、こだわりのあるカフェを訪問し、深めていきます。カフェに限らず、場づくり・組織運営に関わる方にもおすすめのクラスです。

■ 2013年5月～11月 ■ 基本的に水曜日 19:00～21:00

■ 全12回/定員30名 ■ 受講料：40,000円

※出かける回は交通費・宿泊費・食費などが別途かかります。

講師 & コーディネーター：長田英史 (NPO法人れんげ舎 代表理事/まちだNPO法人連合会 会長)

コミュニティ・カフェという枠組みにあまりこだわらず、それを手がかりにして進めていきます。自分のつくりたい場・活動が、どのようなものなのか？ どうすればつくれるのか？ 自分と向き合いながら、いっしょに学び、深めていきましょう。いつも自由さと共に！

●参考文献：真木悠介『気流の鳴る音 交響するコミュニケーション』ちくま学芸文庫 2003

●参考HP：「NPO法人れんげ舎」<http://www.rengesha.com/>



5/22

## オープニング まずはワールドカフェ！ 「わたしの求める場とは？」

— いまの自分に聞いてみよう

あなたの死ぬまでにやりたいことは？ 求める場とは？ まずはあなたの内側にある大切な情報に触れることから始めましょう。受講生、講師、スタッフで楽しく交流しながら(おいしいお茶付き♪)。初回で、もっとも大切なある視点を全体で共有します。

6/8 (土) 午後

東京都町田市「金魚玉珈琲」を訪ねる

## 「場づくり」って何だろう？

— コミュニティ・カフェの本質とは？

そもそもコミュニティ・カフェってなに？ コミュニティ・カフェはなんでも入る不思議な入れもの。その一番根っこを「場づくり」だと考え、場づくりの本質について学び、深めます。参加者全員で「場づくり」という視点を獲得し、共有するのが目的です。講師の長田英史さんが運営するカフェ「金魚玉珈琲」で、10年続くカフェの秘訣もお聞かします。



6/19

## 仲間とともに活動するために必要なこと

— フラットな組織における民主的な会議のやり方

コミュニティ・カフェに限らず、何らかの活動をつくり出していくためには、さまざまな人びととの協力関係が不可欠。複数の人びとが継続的に意思を通わせ、協力関係をつくっていくために必要なことは？ 正しい会議のやり方、定例会のやり方、必要な準備、必ずやること、絶対にやってはいけないことなど、組織運営にも役立つことをおさえます。

7/6 (土) 午後

千葉県佐倉市「Natural Studio」を訪ねる

## 3世代がつどい、学び合う オーガニック寺子屋カフェ

永野恵理 (Natural Studio 主宰/フリーランスデザイナー)

地域のお母さんたちが、地元産の有機野菜を使ったこだわりのメニュー作りから運営まで手掛ける「Natural Studio」。子育て世代の親子が孤立しないための居場所づくり、地域の住民や学生が集い共に学ぶ講座や上映会、農家と就農希望者をつなげる取り組みなどのお話を聞きます。

●参考HP：「Natural Studio」  
<http://naturalstudio.net/>



7/17

## イベントの段取りと場づくり

— 主催者作法&心得

イベントの良し悪しを決めるのはなんでしょう？ 会場？ 内容？ どちらも大切ですが、それを決定づけるのは「主催者」です。もちろんコミュニティ・カフェもイベント形式での展開が可能です。イベントを開催するとはどういうことなのか？ どのような要素を大切にすることで、よい場が生まれ、次につながる場がつかれるのか？ 運営は？ ゼロから学びます。

7/31

## 1day Cafeに向けて①

— イベントの企画から立ち上げを体験する

このクラスでは、1日だけのコミュニティ・カフェ「1day Cafe」を実際にオープンさせます。ワークショップや講義で学んだことを、実際に試して、その有効性を確かめたりしながら「体得」していきましょう。まずはゼロから企画をたて、主催者として運営体制をつくるまでを体験します。

8/7

## 1day Cafeに向けて②

— イベント開催に向けての会議&作業を体験する

ひとつのイベントを仲間と共につくっていくためには、場づくりに関するすべての力が必要です。前回で実際に立ち上がった組織で、会議や作業を重ねながら「1day Cafe」のオープンに向けて取り組みます。この実践は、きっとあなたの宝物になります。

※「1day Cafe」当日までの間には、有志での会議などが開かれます。日程は希望者で調整しながらすすめていきます。

9/14 (土) 午後

神奈川県鎌倉市「亀時間」を訪ねる

## 亀のようにのんびりとした 鎌倉の暮らしを楽しむ

櫻井雅之 (亀時間 オーナー)

「鎌倉の暮らしを亀時間で旅する宿」がコンセプトのゲストハウス「亀時間」。築85年の古民家がゲストハウスに生まれ変わるまでのお話や、材木座の昔ながらの商店街をはじめとした地域の人びと、全国から訪れる宿泊客が互いに出会い、つながっていく場づくりの極意について、週末限定カフェ「Cafe Kamejikan」のメニューを楽しみながらうかがいます。

●参考HP：「亀時間」<http://kamejikan.com/>



9/28 (土) 予定

## 1day Cafe オープン！

— わたしたちのコミュニティ・カフェ

みんなで準備してきた1日コミュニティ・カフェ「1day Cafe」の当日です。準備と実際がどのようにつながっているのか？ 「現場」での動きはどうしていけばいいのか？ 様々な言葉以上の学びが待っています。そして、「1day Cafe」をみんなで思い切り楽しみましょう！



2012年度「コミュニティ・カフェをつくらう！」クラスでの1day Cafeの様子

10/2

## 体験を力に変えるために

— イベントをふりかえるために必要な2つの方法

イベントが終わると何をしますか？ 打ち上げ？ 反省会？ ひとつの場をつくったら、その後で「ふりかえること」、「受け止めること」、「次につなげること」が必要です。そのためには、よくある反省会や打ち上げではうまくいきません。2つのふりかえりの手法を紹介し、実際にそれをつかって「1day Cafe」をふりかえります。体験を力に変える具体的な方法を学び、体験します。

10/19 (土)～20 (日) 予定 1泊2日

東京近郊で合宿

## 場づくりは〈わたし〉の内側から始まる

— より深く自分の内側に触れる

東京近郊の合宿施設で1泊2日の合宿を行ないます。いつものクラスでは体験できない、長い時間をかけ、からだを使ったワークショップなどを体験し、これまでのクラスで得たことや感じたことを改めて出し合い、ぎゅーっとみんなで集中して学びを深めましょう！ 合宿は昼クラスと夜クラス合同で開催します。

2012年度「コミュニティ・カフェをつくらう！」クラスの合宿風景



11/13

クローージング&発表会

## わたしのコミュニティ・カフェ& 場づくりプラン発表会

長かったコミュニティ・カフェクラスもこの日が最後！ プラン発表会を兼ねたクローージングパーティを開催します。今後のことについて、話し合いましょう。クラスをクラスだけで終わらせない、あなただからできるあなたらしい場づくりのスタートポイントにしてください。

環境・暮らしの学校 24

# まじめに10A（アンペア）！

## — 地球と家計を守る豊かな生活術

3.11東日本大震災と福島第一原発事故の後、「大量の電気を使う暮らし」のあり方が問われています。「電気を極力使わずに暮らしたい」「快適さや便利さだけを求める暮らし方はもういや！」と、多くの人が感じ、代替案を探しているのではないのでしょうか。そんな中、すでに「アンペアダウン」「非電化」を実践したり、地域でのエネルギー自給をめざし活動する人たちが、実は身近にたくさんいます。こうした実践者の暮らしは、電気を極力使わないことで生まれる知恵と工夫がぎゅっと詰まった、本当の意味での「豊かさの宝庫」。「電気がないと普通の暮らしができないのでは？」「便利さにどっぷり使った私にもできるかな？」と不安や疑問に思うあなた！まずは先輩たちの経験や具体的なアイデアをその目で見てみましょう。電気に頼りすぎない暮らし方は、可能です！

- 2013年6月～12月 ■ 基本的に月1回 土曜日午後
  - 全7回/定員20名 ■ 受講料：24,000円
- ※出かける回は交通費、食費、宿泊費などが別途かかります。

6/26 (水)

オリエンテーション

### 下りてゆく時代

— 今こそ、スローダウン・アンペアダウン！

大江正章

(PARC代表理事/コモンズ代表)



小林孝信

(PARC会員/松戸市民ネットワーク編集担当)



電気に依存しない暮らしとは、耐え忍ぶことではありません。新たな楽しさやつながりを発見し、成長神話から解放され、本来の第一次産業に寄り添って生きるスローライフです。

●主著：大江正章『地域の力 食・農・まちづくり』岩波新書 2008/大江正章『放射能に克つ農の営み ふくしまから希望の復興へ』(共著)コモンズ 2012  
●参考文献：小林孝信『超エコ生活モード 快にして適に生きる』コモンズ 2011/藤村靖之『非電化思考のすすめ』WAVE出版 2012



7/13

千葉県松戸市を訪ねる

### 45年間、20アンペア・電気代月1000円で生きています。

— スーパー実践者が語る

小林孝信 (PARC会員/松戸市民ネットワーク編集担当)

巷ではエコ活動で「できるところから……」とよくいわれます。他方で、ちょっとムリそうでも飛躍してみると「何だ、意外と楽にできるんじゃない！」ということも多いのでは。わが生活もそんなところです。



●主著：『超エコ生活モード 快にして適に生きる』コモンズ 2011 ●参考文献：ガルブレイス『ゆたかな社会』岩波現代文庫 2006/佐伯啓思『欲望と資本主義』講談社現代新書 1993

8/3

東京都港区を訪ねる

### 楽しい5アンペア生活

— 目からウロコの「使わない豊かさ」

斎藤健一郎 (朝日新聞文化くらし報道部 記者)

「普通の暮らしはできなくなりますよ」と東京電力に言われながら、おそろおそろ始めた5アンペア生活。1年が経ち、東電の言うとおり、「普通」の生活より楽しい暮らしを送っていることを実感する毎日です。ようこそ、5アンペア部屋へ。



9/21

東京都国立市を訪ねる

### 東電と契約終了しました

— 必要な電気はベランダで自給自足だ！

藤井智佳子 (糸へんのものづくり)

アパートでも電力自給は可能です。手づくり好きが高じて生活のエネルギーまで手づくりしている、ゆるーい暮らしのわが家をご紹介します。



10月中の土日で日程調整中 1泊2日

栃木県那須で合宿

### 楽しい非電化生活のススメ

— お楽しみ手作りワークショップ&非電化工房徹底見学！

藤村靖之

(非電化工房 代表)



藤村研介

(非電化工房 副代表)



道具を手作りし、手足を使い、技を磨くことを楽しむ、ホドホド便利でエコロジーな生活スタイル。「早い・快適・便利」とは異なる新しい豊かさを体験してください。

●主著：藤村靖之『月3万円ビジネス』晶文社 2011/藤村靖之『テケテケロジー革命 非電化とスロービジネスが未来をひらく』(共著)大月書店 2008  
●参考文献：『エコライフ&スローライフのための楽しい非電化』洋泉社 2006



非電化冷蔵庫



非電化風呂小屋

11/16

神奈川県横浜市を訪ねる

### 主婦がデマンドコントロール!?

— 住民がつくるエネルギー基本計画

北原まどか (NPO法人森ノオト 理事長/青葉台発地元のエコ発見メディア「森ノオト」編集長)

3.11以降、主婦たちが家庭のエネルギー革命に取り組み始めた！アンペアって？ワットって何？から始めて、我が家のデマンドをセルフコントロールする賢い暮らし術についてお話しします。



12/14

東京都小金井市を訪ねる

### 「住まうこと」全体をスローに

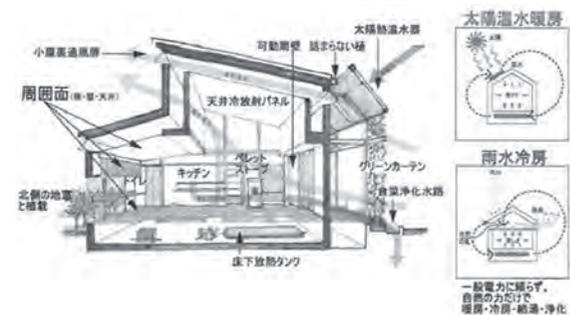
— 雨・風・太陽の力を借りて快適に暮らす技術

黒岩哲彦 (環境建築家/エクセルギーハウス開発者)

さまざまな改革をすすめる基盤として、「身近なエクセルギーを生かす技術」だけが実現できる「物の生産スタイルの大変革」を「住まい」という物の集積環境を通して紹介します。

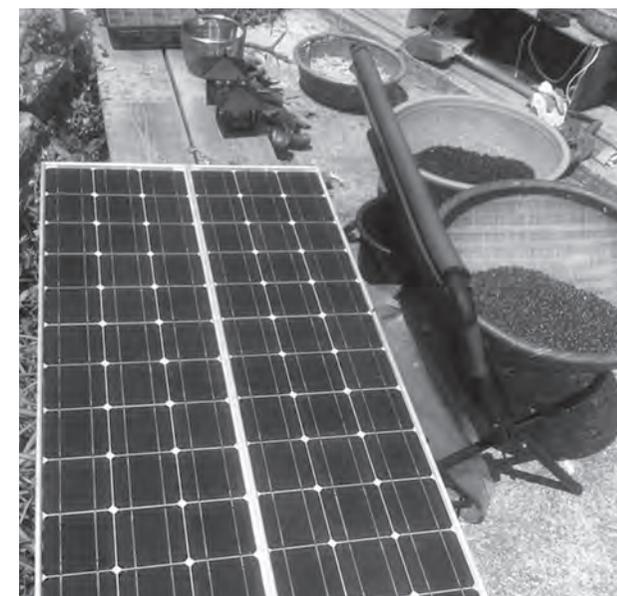


※雨デモ風デモラボを訪ねます。http://amekaze.jp/



雨デモ風デモハウスのしくみ

太陽電池



環境・暮らしの学校  
25

# 歩いて知ろう ニッポンの胃袋の裏側

## — 私たちを生かし、殺す、危ないシステム

グローバル化によってもたらされた食の多様化・飽食の時代。しかしその裏側には、劣悪な労働環境や大量の食品廃棄、差別の構造、巨大アグリビジネスの思惑、そして現代人のゆがんだライフスタイルが見えてきます。これらの犠牲の上にしか成り立たない食の姿は本当に「豊か」なののでしょうか？ 徹底的に現場を歩き、見て、嗅ぎ、触り、そして食べ、私たちを生かしている食の現実・そのシステムに向き合います。

- 2013年6月～12月
- 基本的に土曜日午後
- 全6回/定員30名
- 受講料：24,000円

※出かける回は交通費、食費などが別途かかります。

6/22 14:00～16:30

オリエンテーション ▲

### 映画『フード・インク』を観る

— どこからどこへ？ わたしたちの食の裏側を知る

安田美絵 (ルナ・オーガニック・インスティテュート 主宰)

わたしたちはみな、食の選択によって社会を変える力を持っています。現代のフード・システムの裏に隠された問題点を知り、問題解決のための具体的な手段を考えましょう。



●主著：『サルでもわかるTPP 入るな危険！「強欲企業やりたい放題協定」合同出版 2012/『リビング ファーム キット マニュアル』NPO法人大地といのちの会 2012 ●参考文献：『食育ライフセーバー講座 環境&社会編』(電子書籍)ルナ・オーガニック・インスティテュート 2009



◎上映作品『フード・インク』  
監督：ロバート・ケナー / 94分 / 2008 / アメリカ

7/19 (金) (日中)

東京都品川区を訪ねる (芝浦と場見学) ㊦

### 屠場

— 食肉生産の現場から

栃木 裕 (全国一般労働組合東京南部全芝浦屠場労働組合 委員長)

O157、BSE、放射性物質による汚染と、食肉の流通をめぐる環境は、日々厳しいものとなっています。こうした変化のなかで、私たち屠場労働者がどのように食肉を生産しているのかを見てもらいたいと思います。



●参考文献：鎌田慧『ドキュメント屠場』岩波新書 1998/白井敏男『部落差別をこえて』朝日新書 2010

1966年、芝浦と場開設当時の風景

★事前レクチャー：7/12 (金) 19:00～21:00 (PARC 自由学校にて)



9/14

### 恐るべきコンビニ帝国！

— 大量に食品を捨て、人を使い捨てるブラックな実態

古川琢也 (ルポライター)

もはや私たちの生活の「一部」となったコンビニ。日々、大量の食品が運ばれ、売られるウラには、食品の大量廃棄があります。また過酷な労働と理不尽な会計制度など、働く人にとってもコンビニというシステムは問題だらけ。この回では、コンビニオーナーなど当事者の声を聞くことでその実態に迫ります！



●主著：『セブン-イレブンの正体』(共著)金曜日 2008/『大震災でネットはどう使われたか』(共著)洋泉社 MOOK 2011 ●参考文献：古川琢也『セブン-イレブンの正体』(共著)金曜日 2008



10/11 (金) 9:00～12:00

築地市場を訪ねる ㊦

### 空飛ぶサカナ

— お金と欲望が運ぶグローバル化時代の食

生田 與克 (築地魚河岸仲卸三代目主人)

世界中から魚が集まる築地。魚の乱獲は水産資源の枯渇の危機をもたらしています。また、農水産物の貿易によって「いつでもなんでも食べられる」時代になりましたが、逆に私たちから「旬」や「味覚」そのものが奪われようとしています。築地で働く方々から、「サカナの現場」で何が起きているのか、リアルなお話をたっぷりお聞きします。



11/16

栃木県河内郡を訪ねる ㊦

### 忍び寄る農薬汚染と放射能汚染 そしてお米が食べられなくなる日

— 危機に瀕する食の安全とTPP

稲葉光國 (NPO法人民間稲作研究所 理事長/一般社団法人グリーンオイルプロジェクト 代表理事)

1. 崩壊した安全神話—開き直る電力業界の犠牲になる子どもたち
2. まかり通る農業の安全神話のなかで—ミツパチからのメッセージ、広がる人体への影響
3. 放射能の除染事業とミツパチ救出作戦の試み
4. 慣行栽培を超える有機稲作—生物の多様性を育み、活用する低コスト省力有機稲作



●著書：『太茎大穂のイネづくり ポストV字型稲作の理論と実際』農文協 1993/『あなたにもできる 無農薬・有機のイネづくり』農文協 2007

12/14

千葉県佐倉市を訪ねる ㊦

### 種をまもるたたかい

— 多国籍アグリビジネスの支配から自家採種へ

林 重孝 (林農園)

現在、農家は種をほとんど種苗会社から購入しています。種は生産の最も基本的なもので、農業者の自立が脆弱になっています。我が家の自家採種の取り組みをご覧ください。



●主著：『有機農家に教わるもっとおいしい野菜のつくり方』家の光協会 2011/『有機農業ハンドブック 土づくりから食べ方まで』(共著)農文協 1999 ●参考文献：野口勲『タネが危ない』日本経済新聞出版社 2011/船越建明『野菜の種はこうして採ろう』創森社 2008

### PARCビデオお得なセット！

#### 「私たちの食とグローバル化」全6巻セット

PARCのオーディオ・ビジュアル作品は、世界の現実を伝え、私たちの暮らしや社会のあり方を考えるための視聴覚教材です。大学・高校の学校現場はもちろん地域の学習会やイベントでの上映会でも活用いただけます。グローバル化の中での食と農、消費文化を見直すきっかけにぜひご利用ください。

- セット価格：通常価格46,000円＋税 → 37,000円＋税
- お問合せ・お申込み  
アジア太平洋資料センター (PARC)

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 1-7-11 東洋ビル 3F  
TEL:03-5209-3455 FAX:03-5209-3453  
E-mail:office@parc-jp.org  
http://www.parc-jp.org/video/index.html  
(ウェブサイトからもご注文いただけます)

#### お米が食べられなくなる日

TPP参加で米の自給を手放すのか?! 日本のお米が私たちの食卓から消えてしまうかもしれない! 主食生産の危機を徹底分析、取るべき道を考える。  
定価:8,000円＋税(図書館価格:16,000円＋税)



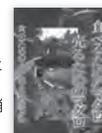
#### パームオイル

近くて遠い油のはなし  
暮らしの中で実はたくさん消費しているパームオイル。消費国・生産国での取材を通し、私たちの暮らしを問い直す。  
定価:6,000円＋税(図書館価格:12,000円＋税)



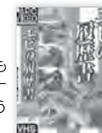
#### 食べるためのマクロ、 売るためのマクロ

グローバル化するフードビジネスと消費の構造を「マクロ」を例に検証、その影響を探るとともに、「食」や「消費」のあり方を問い直す。  
定価:8,000円＋税(図書館価格:16,000円＋税)



#### エビの履歴書

一育てる人と食べる人  
日本に入るエビのほとんどは輸入もの。インドネシア、中国、タイ、ベトナムなどの生産地で、エビがどのように育てられているかを追う。  
定価:8,000円＋税(図書館価格:16,000円＋税)



#### あぶない野菜

安い輸入野菜は本当に安全? 輸送にかかる環境負荷は? アグリビジネスの思惑と日本の農業の現状、私たちの食生活を考える。  
定価:8,000円＋税(図書館価格:16,000円＋税)



#### コーヒーの秘密

南北問題が見えてくる!  
コーヒー生産地の多くはかつての植民地で現在の債務国。国際価格に縛られた生産者の現状と、作る人と飲む人の対等な関係を考える。  
定価:8,000円＋税(図書館価格:16,000円＋税)



環境・暮らしの学校  
26

# 東京で農業！

畑の学校 A

都市農業のプロである白石好孝さんの指導を受けながら、低農業ないし無農業で野菜を育てるクラスです。週末に定期的に講習を受けながら、7～8名の班ごとにひとつの区画(約30㎡)を担当し、班のメンバーと一緒に1年を通して作業を行います。講習日以外も畑に継続的に通っていただいて作業をするほか、最盛期にはたくさんとれるので、ぜひ、こまめに収穫に行ってください。トマト、とうもろこし、きゅうり、枝豆などの夏野菜と、にんじん、ねぎ、白菜、ブロッコリーなどの冬野菜あわせて30種類ほどの野菜を育てます。畑で四季を感じながら、じっくりと「農」と向き合うクラスです。畑に通ううちに、幅広い年代の「農」仲間との交流も深まります。座学では、農業の技術上の疑問点や都市農業のあり方についてなど、日本の農業の現在をより深く学ぶことができます。このほかオプションで、循環型農業の田植え・稲刈りなどにも参加できます。

- 2013年3月～2014年2月 ■ 定員42人
- 参加料：34,000円 (指導料・肥料・種子・農具使用料込み)
- 畑での講習会：全16回程度 (座学は7月中旬と2月上旬を予定しています)

畑主：白石好孝 (江戸時代から300年続く農家/東京農業大学 客員教授)  
●主著：『都会の百姓です。よろしく』コモンズ 2001/『体にやさしい・おいしい野菜のつくり方』(共著)西東社 2001



## 畑：白石農園

東京都練馬区大泉町1-54

アクセス：東武東上線と光市駅からバス15分・西武池袋線大泉学園駅からバス20分、または自転車で20分(大泉学園駅北口で4時間未満100円/4時間以上200円で自転車借りられます)

## オリエンテーション

日時：2013年3月18日(月) 19:00～21:00

会場：PARC 自由学校 (東京都千代田区神田淡路町1-7-11)

・申込手続きを完了された方が対象です。  
・ここで班分けや詳細な説明を行いますので、必ずお越しください(欠席される場合は別途対応いたしますので、ご相談ください)。

## クラスの進めかた

◎土曜班と日曜班の合計6班に分かれ、班ごとに1区画の畑で作業します(講習は10:00～、作業終了はお昼頃/各班7人程度)。

◎講習会は、基本的に班ごとに決めてある曜日・時間に受けていただくことになります。講習会のある日は講習会後に作業をします。

◎土の話、日本の農業の現状や有機農業についての座学では「農」への知識をより深められます。

◎年間を通して作物を育て向き合うクラスですので、1年間しっかりと通える方を対象としています。



2013年3月30日・31日スタート!

環境と暮らしの学校  
27

畑の学校 B

# 初めてのオーガニック

三鷹市の農園で、化学的な農薬や肥料、動物性肥料を一切使わずに、野菜の育て方を基礎から学んでいきます。丁寧な講習があるので、まったくの初心者も参加OK。F1の種を極力使わず、おもに自家採取した種や野口種苗研究所で販売されている貴重な在来種の種を使用しながら、トマト、オクラ、ごぼう、大根など、年間約50種類の野菜を育てます。5～6名の班ごとにひとつの区画(約30㎡)を担当し、1年を通じて作業します。農作業以外にも、収穫祭や石釜ピザパーティ、芋煮会などオプションでの農園イベントもいっぱい! 畑で過ごす時間の豊かさ、収穫の喜びが感じられるクラスです。座学では日本の農業の現状、土の話など有機農業への知識をより深められます。初めてのオーガニック、始めてみませんか。

- 2013年3月～2014年2月 ■ 定員35名
- 参加料：43,000円 (指導料・種苗・肥料・農具・資材使用料込み)
- 畑での講習会：3月下旬～5月上旬、9月上旬～10月上旬にかけて、毎週講習会があります。その他にも随時、ミニ講習会を開催予定。

講師：金子晃 (農園コーディネーター)



## 畑：三鷹オーガニック農園

東京都三鷹市上連雀9-16

アクセス：電車の場合：中央線三鷹駅からバスで10分・武蔵境駅からバス15分・京王線調布駅からバス25分。  
車の場合：中央自動車道調布インターから約20分。園内に50台分駐車場有(土・日のみ使用可)

## オリエンテーション

日時：2013年3月16日(土) 15:00～18:00

会場：PARC 自由学校 (東京都千代田区神田淡路町1-7-11)

・申込手続きを完了された方が対象です。  
・PARCビデオ『有機農業で生きる一私たちの選択』の上映、座学、班分けなどを行います。作業内容や進め方についての詳細な説明も行いますので、必ずご出席ください(欠席される際には別途対応いたしますので、ご相談ください)。

## クラスの進めかた

◎7班に分かれ(1班5～6名程度)、班ごとに1区画(30㎡)の畑で作業します。基本的に毎週土曜日10時から作業を始めます。作業終了はお昼ごろ。

◎講習会がある日は、講習後に作業を進めます。

◎土曜日以外でも畑に入れますので(日の出から日没まで)、手入れ、収穫、草取りなど、こまめに畑に通って楽しんでください。

◎都合により日曜日に講習会を開催することもあります。座学は7月中旬に予定しています。1年間しっかりと通える方を対象としています。



※農園には水洗トイレ、班ごとのロッカー、荷物置き、更衣室、雨天対応のオーガニックドームがあります。  
※講習会に参加できる方、毎週最低1回は畑に通える方、通年しっかり通える方が対象です。  
※野菜の育て方を基本から学ぶクラスです。しっかり学ぶ意欲のある方を対象としています。

◆2013年度のお申し込みはすでに終了しております(受付期間2012年12月～2013年2月)。2014年度のお申し込みにつきましては事務局までお問い合わせください。

# 抵抗の音楽

## — 世界に響く闘いのリズム

音楽は映画などの大衆文化と同様に、その時代の社会情勢を色濃く反映します。紛争や圧政により生活が脅かされてきた人びとにとって、音楽は権力に対する抵抗手段の一つとなりました。奴隷として異国の地に送られ、激しい差別や過酷な生活状況の中を生き抜いた黒人にとって、音楽は明日を生きるための力となったはずで、この講座では、世界各地の人びとの抵抗や運動の文化を、それを支えたミュージシャンたちの生き方と彼らの音楽を通して見ていくことで、今の時代における音楽の可能性について考えていきます。毎回、映像を見たり楽曲を聞いたりしながら、各地域の豊かな音楽文化を体感しましょう。

■ 2013年6月～11月 ■ 基本的に金曜日 19:00～21:00

■ 全6回/定員30名 ■ 受講料：24,000円

6/6 (木)

オリエンテーション

### 暴力、権力、差別、腐敗、不正義に抗う 世界の民衆、それを支える音楽

船田クラークンさやか (東京外国語大学大学院地域文化研究科 准教授)

生命の中、生活の中、運動の中から生まれ、反響しあい、ウネリとなって、また戻っていく「音楽」。民衆の抵抗の魂、リズム、エネルギー、歌に踊り、そして連帯。座学に留まらない「抵抗の音楽」の世界へ皆さまを誘います。



●主著：『アフリカ入門—ポップカルチャーから政治経済まで』明石書店 2010/『モザンビーク解放闘争史「統一」と「分裂」の起源を求めて』御茶の水書房 2007 ●参考文献：講師の公式ブログの関連サイトで紹介していきます → <http://afriqclass.exblog.jp/i36>

7/5

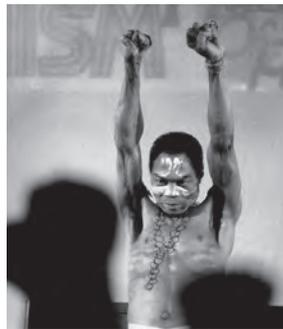
### アフリカ： フェラ・クティとアルファ・ブロンディ — アフロ・ビートとアフリカン・レゲエ、 それぞれの戦い方

鈴木裕之 (国士館大学法学部 教授)

アフリカ発抵抗の音楽を、ナイジェリアのフェラ・クティ、コート・ジヴォワールのアルファ・ブロンディ、というふたりのアーティストをとおして紹介する。



●主著：『ストリートの歌 現代アフリカの若者文化』世界思想社 2000/『アフリカ文化論—音楽から見たアフリカ社会、伝統から現代まで』船田クラークンさやか (編)『アフリカ入門—ポップカルチャーから政治経済まで』明石書店 2010 ●参考文献：マビヌオリ・カヨデ・イドウ『フェラ・クティ 戦うアフロ・ビートの伝説』晶文社 1998/エレン・リー『アフリカン・ロッカーズ ワールド・ビート・ドキュメント』JICC出版局 1992



フェラ・クティ

8/2

### ラテン・アメリカ： 「新しい歌」運動、そして現在へ

八木啓代 (作家/音楽家)

1960年から90年代にかけて、中南米各国で文化的にも社会的にも大きな影響を残した「新しい歌」の運動について、ビデオや音源などを紹介しながら、解説します。



●主著：『ラテンに学ぶ幸せな生き方』講談社+α新書 2010/『キューバ音楽』(共著)青土社 2009 ●参考文献：八木啓代『禁じられた歌 ビクトル・ハラはなぜ死んだか』晶文社 1991 (Amazon Kindle版 2013) / 八木啓代『危険な歌 世紀末の音楽家たちの肖像』幻冬舎文庫 1998

9/11 (水)

### アメリカ： ブルース、ソウル、ロック、ヒップホップ — 世界に広がるブラック・ミュージックの歴史

ピーター・バラカン (プロデューサー)

ロックの反骨精神はどこから生まれたかという、基本的にブルースです。ますます険しくなってきた世の中を気分よく生き抜くためにも参考にできることが多いはずで、



●主著：『ラジオのこちら側で』岩波新書 2013/『魂 (ソウル) のゆくえ』アルテスパブリッシング 2008

10/4

### アラブ：自由を求める若者たちの歌

中町信孝 (甲南大学文学部 准教授)

庶民派、ロック、ヒップホップ…「アラブの春」ではさまざまな音楽が若者たちを鼓舞し、革命の成就に導きました。アラブ世界の新たな音楽潮流は、彼らが何を指し、何と戦っているのかを何よりも雄弁に物語っています。



●共著：『現代エジプトを知るための60章』明石書店 2012/『イスラーム世界のことばと文化』成文堂 2008 ●参考文献：『アラブ革命 チュニジア・エジプトから世界へ』『現代思想』2011年4月臨時増刊号 青土社/関口義人(編)『アラブ・ミュージック その深遠なる魅力に迫る』東京堂出版 2008



Elvert Barnes



Christian Senger

## 春の自由学校まつり 2013 へ遊びにきませんか！

自由学校まつりは、その年の自由学校受講生有志が中心になってつくる一年間の集大成イベント。クラスで学んだこと・考えたことの発表の他、出展、ミニライブ、ゲストトークなどがあります。今年のメインテーマは「生きることと働くこと」です。どのように生きるか、働くかを問い直す動きが高まる昨今、このイベントで、さらに見方を広げて下さいね。みなさんと、まるくなって楽しく語り合える時間も用意しています。さらに、農業クラスの野菜やカフェクラスのお食事、ビールクラスの手作りビールなど、他では味わえないものの販売もあります。パンフレットを読みながら「自由学校ってどんなところ？」と思っているあなた、まずはお気軽に、まつりに遊びに来て下さい！きっと新しい出会いや発見があるはずで、

【日 時】2013年3月24日(日) 12:00～18:00 (途中入退場自由)

【場 所】内神田集会室和室A (千代田区内神田1-1-3)

【最寄り駅】大手町(東京メトロ丸の内線・東西線・千代田線・半蔵門線・都営三田線)から徒歩5分

【参加費】500円(ドリンクチケット付き)

【内 容】◇ゲストトーク：竹信三恵子さん(和光大学教員/ジャーナリスト/2013年度「現代社会を知るための10のキーワード」クラス講師)

◇2012年度自由学校のクラス・クラブ発表…キムのActive English / 世界のニュースから国際情勢を読み解こう / 五感で学ぶ! アイヌ民族のことばと文化 / はじめてのケチュア語 / 地域で創る。脱成長な生き方・働き方 / 生きる—表現者たちが紡ぐ哲学 / 東京を歩く / 文化としてのビールを味わう / コミュニティ・カフェをつくらう! / 東京で農業! / 生きることは表現すること / 社会にモノ言うはじめての一步活動家一丁あがり! / 明日の日本を考える会 / 野菜にも一言いわせて! さよなら原発デモ!! / 三線クラブ / ほか(順不同)

◇2013年度自由学校のご紹介

◇販 売…「コミュニティ・カフェをつくらう」クラス手作りのごはん・お菓子、「東京で農業!」クラスの畑でとれたお野菜、「文化としてのビールを味わう」クラスで仕込んだ特製ビール / ほか

■ 詳しい内容は随時ブログで公開しますので、最新の情報は、ぜひこちらをご確認ください。

◎2013年春のPARC自由学校まつり! お知らせブログ <http://ameblo.jp/parcfs-matsuri/> (「自由学校まつり」で検索してください)

主催：自由学校まつり実行委員会



昨年の自由学校まつりの様子

# 生きることは表現すること

— アーティストと学ぶ、アートの歴史と創作ワークショップ

現代社会はとにかく生きにくいですよね。しかし歴史をふりかえってみると、実はほとんどのアーティストは社会のアウトサイダーでした。アーティストたちはみずからの「生きにくさ」をエネルギーに変えて、美術史を変革してきたのです。このクラスでは、まずはスライドを用いて、さまざまな作品を見ることでアートの歴史や形式を学びます。そのうえで、アートの背後に隠されたアーティストたちの感じ方や世界の捉え方をともに考えるワークショップを行います。ワークショップでは、実際に作品を制作しながら、自分と他者、社会との関係をあらためて見つめ直し、またそこで感じたこと・考えたことを受講生同士で共有することで、自分たちの生きるエネルギーを再発見していきます。生きることは、表現すること。「アートってピンとこない」という方も、講座を通じて、自分と世界が新しい顔をして立ち現われてくる喜びにびっくりするはずですよ。

■ 2013年5月～11月 ■ 基本的に隔週木曜日 19:00～21:30 ■ 全11回/定員20名

■ 受講料：36,000円 ■ 会場：PARC 自由学校または千代田区内の施設

※出かける回は交通費・宿泊費・食費などが別途かかります。

講師：中津川浩章 (美術家)



プロフィール：アーティスト。国内外で、展覧会多数。障がい者施設工房「集」のアートディレクションや展覧会の企画・プロデュース、大学・専門学校でアートを通じたコミュニケーションスキル開発やデザイン・美術教育に携わる。

## 5/30 レオナルド・ダ・ヴィンチそして未来のドロイング

見ること、感じること、そして描くことはどんな関係があるのでしょうか。普段と違う方法でものを観察してみましょう。視点を変えて同じものを見てみると、自らの固定観念や思いこみに気づかされます。アイマスクをしたり利き手以外の手を使ったりしながら、描くとは何なのかを考え、体験します。

## 6/9 (日) 午後 「エイブルアート芸術大学」を訪ねよう

アーツ千代田3331にあるバリアフリーのアトリエの見学・体験です。さまざまな障がいを持った方々の表現活動を見学し、そのメニューを体験してみましょう。きっと表現活動に対する見方が揺さぶられることでしょう。

## 6/27 印象派とV・ゴッホ、そして点描体験

印象派の成立からゴッホの絵画までを学んだうえで、色の点で絵を描きながら考えよう！

## 7/11 抽象絵画ってなに？

— カンディンスキーとクレアから抽象絵画へ  
なぜ抽象絵画が生まれたの？ 構図とトリミングからその精神的背景を探り、実際に方法を学んで描いてみましょう。

## 7/25 プレゼンテーションと講評

3回の講義で描いた作品について、どんな思いで何を感じながら作ったのかを発表します。自分で作った作品を語ることで気づき、他者の感想を聞くことでの新たな発見もあるはず。

## 9/19 自分って何だろう？

— 写真でつくるマンダラ・コラージュ  
セルフイメージコラージュをマンダラの形で制作し、自分自身を見つめ直すと同時に、アートセラピーについて学びます。

☆協力：エイブル・アート・ジャパン/障がいとアートを切り口に社会に新しい価値観を提案するNPO。ギャラリーやショップ、アートスタジオの運営、美術館や劇場へのアクセスプログラムの企画、展覧会やワークショップ等の企画・運営、著作権の二次使用を促す仕組みの開発・展開などを行っています。  
◇「エイブル・アート・ジャパン オフィシャルサイト」<http://www.ableart.org/>

# やってみよう！コーヒーアート

— 楽しくコミュニケーション

カプチーノやラテの上に美しく描かれたハートやリーフ模様。見ているだけで楽しく、お茶の時間の話題も広がります。コーヒーアートは、コーヒーの上にフォームド・ミルクといわれる泡をのせ、チョコレートシロップやココアなどで模様や図柄を表現するアートで、すっかりポピュラーになりましたが、実はカフェで楽しむだけでなく、誰でも手に入る道具でご家庭でも簡単に実践できるのです。この講座では、コーヒーアートの基礎から実践を学びます。「子どもの誕生日会で」「地域の友人たちとのパーティで」「孫のおやつタイムに」と、コーヒーアートはさまざまな場面でのコミュニケーションを豊かにしてくれます。見た目も美しく、味もおいしいカフェ時間をみんなで楽しみましょう。

■ 2013年6月～11月 ■ 基本的に月1回 金曜日 15:00～17:00

■ Aコース：第2金曜日、Bコース：第3金曜日 (いずれかのコースをお選びください)

■ 全6回/定員10名(各コースとも) ■ 受講料：15,000円(クラス初回時に教材費3,000円を別途いただきます)

講師：池田 修 (コーヒーマイスター/コーヒーコーディネーター/COFFEEカルチャーIKEDA主宰)



コーヒーアートはカフェで楽しむものと諦めていませんか？ そんなコーヒーアートをパスタ気分でご一緒に楽しんでみましょう。いろいろなテクニックをお教えして、新しいコーヒースタイルをご提案いたします。

### その1

#### コーヒーアートの基礎を知ろう！

知識編：エスプレッソとは？ パリスタとは？  
コーヒーとエスプレッソとの5つの違い  
実習編：フォームドミルクの性質を知って『幾何学模様』を描く  
\*ミニレッスン：100円ショップで買えるミニクリーマーを使って！

### その2

#### コーヒーアートのテクニックを知ろう！

実習編：モチーフを使って、多くのテクニックを知る  
\*ミニレッスン：ヨーグルトアートに挑戦しよう！

### その3

#### 講義 コーヒーとフェアトレード

講師：井上礼子 (NPO法人パルシック代表理事)

コーヒーはどんな国のどんな地域で生産されている？ 収穫から加工、焙煎までの行程は？ 意外と知らないコーヒーの基礎知識を学びます。この数年、日本でも広がっているフェアトレード・コーヒー。2002年から東ティモールのコーヒー生産者を支援し、フェアトレードコーヒーの輸入と販売を行なうNPOパルシックの経験をお聞ぎします。



回	Aコース	Bコース
1	6/14	6/21
2	7/12	7/19
3	8/30 (A・B共通)	
4	9/13	9/20
5	10/11	10/18
6	11/8	11/15



### その4

#### マシンの操作から「ハート」を描くまで、全行程に挑戦しよう Part 1

実習編：エスプレッソマシンを操作して、エスプレッソを抽出する  
ミルクピッチャーを使って、フォームドミルクを作る  
ミルクピッチャーでハートを描く

### その5

#### マシンの操作から「ハート」を描くまで、全行程に挑戦しよう Part 2

実習編：『♡』から『♡+○』『♡+♡』までを描く  
モチーフ：うさぎ、金魚、ダブルハート等

### その6

#### クロージング・パーティ！



6回の講座で学んだ、コーヒーアートの楽しさ、美しさを最後に披露し合います。お得意の図柄を描いて、みんなに見てもらったり、コーヒーアートを日常の中でどんなふうにも活用したい？ 誰に見せる？ などのお話を盛り上げましょう。講師から修了証もお渡しします。

お昼の学校

B

# コミュニティ・カフェをつくらう！

— あなただからできる、あなたらしい場づくり

人と人とを結ぶ場としての「コミュニティ・カフェ」。その魅力的な響きに導かれて、自分の思いや夢を実現するため、「場づくりの理論と実践」を学んでみませんか。いま全国に広がっているコミュニティ・カフェは、環境や福祉、貧困などの問題を解決しながら、事業としても成立するビジネスモデルとしても注目されています。そして、何よりも出会いと交流の場、情報発信拠点、「ほっとできるみんなの居場所」として求められています。受講生それぞれの「場」のイメージを膨らませ、こだわりのあるカフェを訪問し、深めていきます。カフェに限らず、場づくり・組織運営に関わる方にもおすすめのクラスです。

■ 2013年5月～11月 ■ 基本的に水曜日 13:00～15:00

■ 全12回/定員30名 ■ 受講料：40,000円

※出かける回は交通費・宿泊費・食費などが別途かかります。

講師 & コーディネーター：長田英史 (NPO法人れんげ舎 代表理事/まちだNPO法人連合会 会長)

コミュニティ・カフェという枠組みにあまりこだわらず、それを手がかりにして進めていきます。自分のつくりたい場・活動が、どのようなものなのか？ どうすればつくれるのか？ 自分と向き合いながら、いっしょに学び、深めていきましょう。いつも自由さと共に！

●参考文献：真木悠介『気流の鳴る音 交響するコミュニケーション』ちくま学芸文庫 2003

●参考HP：「NPO 法人 れんげ舎」<http://www.rengesha.com/>



5/22

## オープニング まずはワールドカフェ！ 「わたしの求める場とは？」

— いまの自分に聞いてみよう

あなたの死ぬまでにやりたいことは？ 求める場とは？ まずはあなたの内側にある大切な情報に触れることから始めましょう。受講生、講師、スタッフで楽しく交流しながら（おいしいお茶付き♪）。初回で、もっとも大切なある視点を全体で共有します。

6/5 午後

東京都町田市「金魚玉珈琲」を訪ねる

## 「場づくり」って何だろう？

— コミュニティ・カフェの本質とは？

そもそもコミュニティ・カフェってなに？ コミュニティ・カフェはなんでも入る不思議な入れもの。その一番根っこを「場づくり」だと考え、場づくりの本質について学び、深めます。参加者全員で「場づくり」という視点を獲得し、共有するのが目的です。講師の長田英史さんが運営するカフェ「金魚玉珈琲」で、10年続くカフェの秘訣もお聞きします。



6/19

## 仲間とともに活動するために必要なこと

— フラットな組織における民主的な会議のやり方

コミュニティ・カフェに限らず、何らかの活動をつくり出していくためには、さまざまな人びととの協力関係が不可欠。複数の人びとが継続的に意思を通わせ、協力関係をつくっていくために必要なこととは？ 正しい会議のやり方、定例会のやり方、必要な準備、必ずやること、絶対にやってはいけないことなど、組織運営にも役立つことをおさえます。

7/13 (土) 午後

東京都国分寺市「Café Slow」を訪ねる

## フェアトレードと「スローカフェ」宣言！

吉岡 淳 (カフェスロー 代表)

オーガニックのメニューをゆったりとしたカフェスペースで味わい、フェアトレードの商品を店内のマーケットで手にすることで、自然や生産者とのつながりを感じることでできる場所。「スローでエコロジカルな暮らし」を提案するカフェスローの取り組みについてお話ししていただきます。

●参考HP：<http://www.cafeslow.com>



7/17

## イベントの段取りと場づくり

— 主催者作法 & 心得

イベントの良し悪しを決めるのはなんでしょう？ 会場？ 内容？ どちらも大切ですが、それを決定づけるのは「主催者」です。もちろんコミュニティ・カフェもイベント形式での展開が可能です。イベントを開催するとはどういうことなのか？ どのような要素を大切にすることで、よい場が生まれ、次につながる場がつくれるのか？ 運営は？ ゼロから学びます。

7/31

## 1day Cafe に向けて①

— イベントの企画から立ち上げを体験する

このクラスでは、1日だけのコミュニティ・カフェ「1day Cafe」を実際にオープンさせます。ワークショップや講義で学んだことを、実際に試して、その有効性を確かめたりしながら「体得」していきましょう。まずはゼロから企画をたて、主催者として運営体制をつくるまでを体験します。

8/7

## 1day Cafe に向けて②

— イベント開催に向けての会議 & 作業を体験する

ひとつのイベントを仲間と共につくっていくためには、場づくりに関するすべての力が必要です。前回で実際に立ち上がった組織で、会議や作業を重ねながら「1day Cafe」のオープンに向けて取り組みます。この実践は、きっとあなたの宝物になります。

※「1day Cafe」当日までの間には、有志での会議などが開かれます。日程は希望者で調整しながらすすめていきます。

9/21 (土) 予定

## 1day Cafe オープン！

— わたしたちのコミュニティ・カフェ

みんなで準備してきた1日コミュニティ・カフェ「1day Cafe」の当日です。準備と実際がどのようにつながっているのか？ 「現場」での動きはどうしているのか？ 様々な言葉以上の学びが待っています。そして、「1day Cafe」をみんなで思い切り楽しみましょう！

2012年度「コミュニティ・カフェをつくらう！」クラスでの1day Cafeの様子



10/2

## 体験を力に変えるために

— イベントをふりかえるために必要な2つの方法

イベントが終わるとなにをしますか？ 打ち上げ？ 反省会？ ひとつの場をつくったら、その後で「ふりかえること」、「受け止めること」、「次につなげること」が必要です。よくある反省会や打ち上げではうまくいきません。2つのふりかえりの手法を使い「1day Cafe」をふりかえります。体験を力に変える具体的な方法を学び、体験します。

10/19 (土)～20 (日) 予定 1泊2日

東京近郊で合宿

## 場づくりは〈わたし〉の内側から始まる

— より深く自分の内側に触れる

東京近郊の合宿施設で1泊2日の合宿を行ないます。いつものクラスでは体験できない、長い時間をかけたからだを使ったワークショップなどを体験し、これまでのクラスで得たことや感じたことを改めて出し合い、ぎゅーっとみんなで集中して学びを深めましょう！ 合宿は昼クラスと夜クラス合同で開催します。

2012年度「コミュニティ・カフェをつくらう！」クラスの合宿風景



11/2 (土) 午後

東京都新宿区「サロン・ド・カフェ・こもれび」を訪ねる

## 一杯のコーヒーを通して人と人とのつながりを取り戻す

「サロン・ド・カフェ・こもれび」では、生活困窮者がフェアトレード・コーヒー豆の焙煎などの共同作業に関することで共に働く喜びを共有し、コーヒーの試飲会などを開催することで、地域の人びととの交流に取り組んでいます。「世界の貧困問題と日本の貧困問題をつなぐ」場づくりについてお話しさせていただきます。

●参考HP：<http://komorebi-coffee.blogdekoken.jp/>



11/13

クロージング & 発表会

## わたしのコミュニティ・カフェ & 場づくりプラン発表会

長かったコミュニティ・カフェクラスもこの日が最後！ プラン発表会を兼ねたクロージングパーティを開催します。今後のことについて、話し合います。クラスをクラスだけで終わらせない、あなただからできるあなたらしい場づくりのスタートポイントにしてください。



一丁あがり!

# 特別講座

# 社会にモノ言うはじめての一步！ 活動家一丁あがり

**民主主義の学校** 一 食べること、働くこと、生きることをつなげ、社会を変えよう

「なんだ？この格差・貧困社会は？」「生きづらく、未来が見えない…これって私のせい？」「自分も社会もいきいきと、誰もが幸せに暮らせるためには？」。多くの人がそう感じている現在。また東日本大震災と福島第一原発事故後、社会のあちこちで矛盾や限界が明らかになった今、世の中にはたくさんの「活動家」が求められています。実行委員やゲスト講師などの実践者の経験から、活動の意義や具体的なノウハウなどを学びます。今年度は、「労働」「貧困」「食と農」「貿易と経済」などさまざまな視点から社会を見つめ、「民主主義」を一緒に作りあげることチャレンジします。一緒に議論しあえる空間をつくりながら、活動家への扉を開けましょう！

- 2013年5月～2014年4月 ■ 基本的に隔週月曜日 19:00～21:00
- 全18回/定員50人 ■ 受講料：1回300円 ※合宿は宿泊費・食費等が別途かかります。
- 対象：社会問題に関心を持ち、「自ら活動をしたい」と思う人。年齢制限はありません。

## ● 講座内容 & スケジュール (予定) ●

5/20	オリエンテーション 「活動家」って何だろう？
6/1 (土) ~ 2 (日)	合宿 (1泊2日) 受講生同士の交流、実行委による講義、グループワークなど
6/10	講義 「現代の労働と貧困 みんなを不幸にするシステムを変えよう」 湯浅 誠
6/24	講義 「社会運動と選挙 一 政治を変えるには」 河添 誠
7/8	講義 「農村の貧困、都市の貧困 一 農と食の現場から」 生産者&パルシステム関係者
7/22	講義 「世界経済と私たちの暮らしのつながり 一 TPP と多国籍企業」 内田聖子
8/5	講義&ワークショップ 「活動のはじめの一步 人とかわかり、語り、仲間になろう！一 さまざまな方法論を学ぶ」 労働組合、生協、NGO・NPOの実践者と語ろう
8月	「活動の現場にインターンシップにいきましょう!」、「ブラック企業にご用心!」上映&トーク
8/19	実践者に学ぶ① 「民主主義の基本、デモと集会」 雨宮処凛
9/9	実践者に学ぶ② 「政策を変えるには? 一 キャンペーン、ロビイング」 議員秘書
9/30	実践者に学ぶ③ 「地域でしっかり活動する 一 生協運動の事例」 パルシステム関係者
10/7	実践者に学ぶ④ 「社会的企業・NPOの実践から」 社会的企業・NPOの実践者
10/28	各チームのイベントテーマ発表&議論 チラシづくりのコツ伝授
11/11	特別実践講座 「活動にソーシャルメディアを活かそう! 一 UST・facebook・Twitter」 松元千枝
11/25	各チームのイベント企画発表 その①
12/2	各チームのイベント企画発表 その②
12/16	講義 「社会に伝えるためのマスメディア対策」 水島宏明
1/20	模擬記者会見
2/3	記者会見
3月	いよいよ卒業イベントだ!
4月	一丁あがり! 卒業式



## 活動家一丁あがり! 実行委員

**湯浅 誠** (自立生活サポートセンター「もやい」事務局次長/反貧困ネットワーク事務局長)  
リーマンショック、政権交代、東日本大震災、EU経済危機…、日本は世界はこれからどうなっちゃうんだろうと思っているあなた、思っているだけでは世の中は変わっていかないので、変えていくための方法を一緒に考えていきましょう。



**河添 誠** (首都圏青年ユニオン書記長)  
「何かやってみよう」と思っている、なかなかきっかけがないという、そのあなた! この講座では、これまで知らなかった「活動のおもしろさ」をどんどん知ることができます。みんなの力で、この世の中を生きやすく変えていきましょう!



**松元千枝** (レイバーネットTV)  
あきらめずに、どんなに小さくてもいいからまずは一声を發してみよう。ひとりぼっちじゃないことに気づくはず。それが、自分の周りから社会を少しずつ変えていく力になるんだ。



**内田聖子** (アジア太平洋資料センター(PARC)事務局長)  
活動家一丁あがりも今年で5年目。すでにXX人の活動家が世に送り出されたことに! それでも、世の中を変えることって簡単じゃない。だからこそみんなで知恵を絞り、動きながら考え、変わるための一步を踏み出しましょう!



**須田光照** (全国一般東京東部労組書記長)  
僕たちは寂しいから結びつくのではない。敵を打ち負かすのに必要だから団結する。生存と尊厳のために必要だから団結する。でも、闘って闘って闘った先には多分寂しくない世界が待っている。さあ、一緒に闘おう。



**土屋トカチ** (映画監督)  
いやあ、イヤな世の中ですなー。悲しいこと、腹立つこと、しんどいことが多すぎる! でも、一人きりで考え込んで、仲間とグチってばかりでは何も変わらない。まずはここから始めよう。



**雨宮処凛** (作家・活動家)  
肩書きを「作家・活動家」としてから早や6年。ものを書きながら活動するという事について、みなさんとともに考えたいと思っています。



**水島宏明** (ジャーナリスト・法政大学教授)  
心に引っかかる社会問題があって改善したいと感じているなら、あなたにはカツドウカの素質十分。同調圧力を強いる今の世では「変な人」と呼ばれ、「少数派」かもしれないけど、抜きん出た「変な人」はカッコいい。かけがえない仲間もできるよ。



**志波早苗** (パルシステム生活協同組合連合会 運営本部運営室スタッフ)  
先ず自分の生活を振り返ってみることから世直しは始まります。世直して、小さな一つ一つの積み重ね。無農薬バナナの民衆同士の小さな貿易がフェアトレードという市民権を得た時の実感や達成感忘れられません。小さく産んで大きく育て!



**稲場雅紀** (動く→動かす 事務局長)  
日本も世界も「空白の時代」。こんなときこそ、頭をやわらかくし、体を動かしてみよう。世の中の変え方、一緒に勉強してみませんか。



**西 あい** (動く→動かす パブリック・モビリゼーションチーム)  
おかしいな、と思った時に、「おかしい」とフツに声に出せる世の中が良いな、という方へ。そんな世の中にする第一歩を、ここから踏み出してみてください。



### 【応募方法】

- ◆参加ご希望の方はA4用紙3枚以内に下記の課題2点と、名前・電話番号・Eメールアドレス・住所・生年月日・この講座を知ったきっかけを書いて事務局までお送りください。
- ◆実行委員会による選考の上、全員に結果をお知らせいたします。
- ◆締切日：2013年5月7日(火) 必着 ※メール・FAX・郵送いずれも可
- ◆課題：①この講座で取り組みたいテーマ  
②そのテーマ・課題を解決するための具体的な方法やアイデア

※上記の課題についてはできるだけ具体的な内容を書いてください。(内容によっては追試として改めて文章の提出をお願いすることがあります)  
※受講生は2014年2月～3月中に卒業イベントを各自で企画・実施していただきます(必須)。

送り先：PARC 自由学校 〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F  
TEL:03-5209-3455 FAX:03-5209-3453 Email:office@parc-jp.org



◇共催：PARC 自由学校、活動家一丁あがり実行委員会、パルシステム生活協同組合連合会 ◇運営事務局：PARC 自由学校

# PARC の活動に参加しませんか？

アジア太平洋資料センター (PARC) は、PARC自由学校の運営の他、さまざまな活動を行なうNPO/NGO団体です。自由学校へのご参加だけでなく、PARCの諸活動についてご興味・ご関心のある方はぜひお気軽にお問合わせください。「NGOでボランティアをしてみたい」「調査や政策提言、キャンペーンに興味がある」「雑誌やビデオ制作にかかわりたい」と思っている方、一緒に活動しましょう！

## ●調査・研究活動

市民の目でものや現象を見つめ、自分の足で歩き、手でさわり、匂いを嗅ぎ…。それが市民調査の基本です。PARCでは国内外のネットワークを活かして、国境を越えた調査活動を行なっています。現在はグ



ローバリズム研究の一環として、「連帯経済」「水や土地など自然資源の収奪」などをテーマにしています。

## ●情報発信 (市民社会への提言)

雑誌『オルタ』毎月25日発行/16ページ/年間定期購読料4000円 (税・送料込み)

「オルタ」とは、「オルタナティブ=今のものでない、もうひとつの」という意味。グローバリゼーションや貧困、紛争、環境などのテーマについて深め、代案を提案するメディアです。



## ●オーディオ・ヴィジュアル (AV)

世界の現実をとらえ、社会や私たちの暮らしを見つめなおす視点を提供する教育教材を制作・販売しています。エビやバナナ、ペットボトルの水、バイオ燃料、パーム油など、身近なモノとグローバル化、コーヒーや債務から考える南北問題、開発や児童労働など、多彩な内容の作品は全国の図書館や学校、開発教育の現場で活用されています。



「ブラック企業にご用心！  
—就活・転職の落とし穴！  
2013年3月末発売予定

## ●政策提言・アドボカシー

海外/国内のNGOや社会運動と連携し、政府開発援助 (ODA) や貿易、債務問題、貧困削減などの 이슈について、日本政府や国連諸機関、IMF/世界銀行などの国際機関への申し入れや提言を行なっています。現在は特に「TPP (環太平洋戦略的経済連携協定)」への交渉参加に対して、反対の立場から政策提言やキャンペーン活動に力を入れています。



## PARCの会員になって活動を支援してください

PARCの活動は、会員の方々の会費と活動への参加・協力によって支えられています。ぜひPARCの会員になって一緒に活動していきませんか？ 会員になると、『オルタ』が毎月届くほか、AV作品が2割引になります。また、会員メンバーリストへの参加や、自由学校の越境受講 (単発受講) が可能になります。

年会費  
 一般会員：12,000円  
 夫婦・パートナー会員：18,000円  
 学生会員：8,000円  
 賛助会員：20,000円 (PARCの活動を財政的に支えて下さる方)



## 民際協力とフェアトレードはパルシック



パルシック (PARCIC) は、2008年4月にPARCが組織分割をして誕生したNPO法人です。国境を越えて、人と人とが協力する「民際協力」活動として、東ティモールのコーヒー生産者支援や、スリランカでの漁民支援、石巻市での震災復興支援を行っています。無農薬・自然栽培の東ティモール産コーヒー、ハーブティーや、スリランカ産紅茶などのフェアトレード商品は、PARC事務所1階「淡路町マルシェ」でもお買い求めいただけます。

特定非営利活動法人 パルシック  
 Tel: 03-3253-8990 E-mail: office@parcic.org  
 ウェブサイト: <http://www.parcic.org>  
 オンラインショップ: <http://parcic.ocnk.net>





# PARC自由学校 2013 access map

●地下鉄A5出口から徒歩2分

都営新宿線「小川町」 東京メトロ丸ノ内線「淡路町」または千代田線「新御茶ノ水」 ※いずれの駅も地下でつながっています

●JR「御茶ノ水」聖橋口から徒歩6分



お友達をご紹介いただければ  
パンフレットをお送りします。

お名前

ご住所

ここ1、2年で住所を変更された方は  
旧住所をご記入下さい。

旧住所

差出有効期間  
2013年  
10月31日まで

2750

料金受取人  
神田承認

東京都千代田区  
神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F

アジア太平洋資料センター  
PARC自由学校 行



郵便はがき  
101-8791  
014